

平成 29 年度
被災地における方言の活性化支援事業報告書

発信！方言の魅力

— ^{かだ}語るびゃ・^{かだ}語るべし青森県の方言2017 —

平成 30（2018）年 2 月

弘前学院大学文学部

今村かほる研究室

はじめに

文化庁の事業による東日本大震災の被災地方言に関する調査・研究、その後「方言の保存・継承」、「方言による地域活性化」をテーマとした活動をするようになって通算で6年になった。方言の「保存・継承」とは、一体いかなるものか、その先に求められている「地域の活性化」にどう貢献すれば良いのか、そこに方言研究者はどのように関わるべきなのか、長く考え続けてきた。この活動を始めたときは、とにかく、被災地域の研究者としてなすべき事だと決心して始めた。時間が経過してなお、文化庁の事業目的である「方言の保存・継承」というテーマは本当に重いテーマである。

2015年度から教育のための教材・資料づくりのための基礎研究、昨年から国語科としての研究授業という実践的な応用研究に着手した。また、被災地のみなさんを方言で元気付け・勇気付けることができるような企画を2013年から継続実施している。

今年度は、新たに強力なスタッフとして八戸工業大学岩崎真梨子先生と夏坂光男技師に加わってもらい、方言資料の調査研究活動を始めることができた。

被災地のみなさんとの活動の中で、方言でこんなことをやりたい、こうするためにはどうしたらいいかという地元の皆さんの方言に寄せる思いと向きあい、また同じ青森県に生活しながら、どのようにして被災地の役に立てるか決心がつきかねていた学生たちに向き合うことで、方言研究という「学問の力」を通して、被災地の役に立つような研究活動を続けて来た。この報告書は、そうした研究活動の代表者である今村と八戸工業大学岩崎・夏坂両氏、弘前学院大学の学生の活動の記録である。

さらに、東京大学名誉教授上野善道先生、八戸童話会の榎谷伸夫氏・佐々木和子氏をはじめ八戸：上條佳子氏、津軽：渋谷伯龍氏、千葉涼子氏・三橋光子氏、三戸：久慈瑛子氏、下北：越膳昌子氏、土佐そう子氏、岩手県釜石市の漁火の会のみなさん、盛岡：田口友善氏とのご縁で結ばれてなし得た企画である。それと共に、方言の豊かさと地域文化理解のために児童、生徒のみなさんや学生たちに貴重な時間を作ってくださった八戸市立湊小学校の川村洋校長先生・湊小学校比内信二教頭先生・横濱睦子先生・野里貴広先生、黒石市教育委員会指導主事庭田瑞穂先生、南部町立福地中学校志賀清校長先生・山沢敦子先生、南部の小学校への紹介の労をとってくださった西目屋小学校福井淳悦校長先生をはじめ、多くの関係者のご尽力の賜物である。また、岩手大学の太野眞男先生はじめ小島聡子氏、竹田晃子氏にも、多大なご助力をいただいた。みなさま方のご尽力に感謝申し上げます。

青森県の方言の魅力を体験し、郷土の文化を継承していくきっかけをみなさんに提供できたこと、被災地八戸と釜石のみなさん、それを応援しようとする心と心が「方言で繋がる」ことができたことを、誇りに感じている。

弘前学院大学 文学部 今村かほる

目 次

はじめに

1. 本事業の概要	1
2. 国語教育における方言と共通語	5
2.1 「方言」「共通語」「標準語」の単語の意味	6
2.2 国語科の学習指導要領から	6
2.2.1 学習指導要領における方言と標準語および共通語の変遷（小学校）	
2.2.2 小学校学習指導要領の内容の比較	
2.2.3 学習指導要領における方言と標準語および共通語の変遷（中学校）	
2.2.4 中学校学習指導要領の比較	
2.2.5 国語教育における方言と共通語の現在の位置づけ	
2.2.6 学習指導要領について「方言と共通語」の位置づけのまとめ	
2.3 小学校・中学校で使用されている教科書について	28
2.3.1 小学校 教科書比較	
2.3.2 中学校 教科書比較	
2.4 「方言と共通語」 小学校研究授業	31
2.4.1 授業内における庭田先生の発問とそれに対する児童の発言・反応	
2.4.2 湊小学校5年生の感想文について	
3. 語り部ネットワーク情報交換会・体験講座・講演会	59
3.1 語り部情報交換会	60
趣旨説明とご挨拶 弘前学院大学 今村かほる	
3.2 体験講座	63
方言紙芝居「一休さん」 日比俊介作	
体験講座(方言紙芝居)における質疑応答・助言	
3.3 講演会	74
東京大学名誉教授 上野善道先生によるご講演	
「言葉の神秘と青森アクセント」	
講演会「言葉の神秘と青森アクセント」質疑応答	
3.4 語り部活動情報	82
参加団体・個人名簿	
3.5 参加者アンケート	102
4. はっちがずっぱど南部弁さみっと in 八戸 2017 第5回南部弁の日	106
4.1 方言アフレコ	107
4.2 たくさんの南部弁を楽しみましょう	107
4.3 はっちがずっぱど南部弁さみっと in 八戸 2017	141

南部弁（下北）の紙芝居「権八岩のはなし」 語り：越膳昌子
 津軽弁（津軽）の昔コ「蛇の嫁っこ」 語り：千葉涼子
 南部弁（釜石）の昔コ「おしらさま」 語り：磯崎彬子
 南部弁（釜石）の昔コ「津波てんでんこ」 語り：北村弘子
 南部弁（釜石）の甚句「釜石あの日あの時甚句 東中学校 鵜住居小学校編」
 語り：藤原マチ子
 トーク「八戸弁と盛岡弁」 榎谷伸夫氏・田口友善氏
 南部弁（三戸）の昔コ「火っこたもれ」 語り：久慈瑛子
 津軽弁（津軽）の昔コ「親棄てなぐなった話」 語り：三橋光子
 南部弁（八戸）の昔コ「狐退治」 語り：上條佳子
 南部弁（五戸）の昔コ「観音様の御利益」「ど忘れ」 語り：佐々木和子

4.4 参加者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・176

5. 南部弁サミット in 釜石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・180

おらほ弁で「桃太郎」（原詩 v s 京都弁 v s 釜石弁）

「鬼岩」 語り：千葉まき子

「母の目玉」 語り：藤原マチ子

6. 方言資料研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・191

あとがき

1. 本事業の概要

今村かほる

1.1 これまでの経緯

東日本大震災における被災地域の方言の消滅の危機状況について、2011（平成 23）年度文化庁委託事業報告書「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究」において、東北大学が調査し報告をしたことに続き、2012（平成 24）年度に青森県（弘前学院大学）・岩手県（岩手大学）・宮城県（東北大学）・福島県（福島大学）・茨城県（茨城大学）の 5 県 5 大学により、被災地方言の実態把握と記録に着手した。青森県では、特に青森県の被災地域の方言の記録を開始するとともに、被災地域や避難地域で生じている方言を取り巻く現状について把握することを目指した。

2013（平成 25）年度からは「方言の保存・継承」という新たな段階へと進み、各県・地域ごとに特色のある研究活動が行われるようになった。青森県では、地域の方言の語りの活動が盛んであり、そのみなさんと共に歩調を合わせ、大学が関わることの意義として、学問の力によって方言の魅力を発信していく取り組みを開始した。2017（平成 29）年度の取り組みは、以下のとおりである。

1.2 業務題目

発信！方言の魅力 かだるびゃ・かだるべし青森県の方言 2017

1.3 業務の目的

明治以来、進められてきた方言撲滅・矯正、標準語化の教育政策により、当該地域を含む東北各地は、方言に価値が見いだせないばかりか、トラウマやスティグマにさえ感じており、いわば方言の価値の地盤沈下が起こっている。また、過疎化・高齢化という社会変化も進んでおり、東日本大震災が発生するよりも前から東北方言は衰退していたことが、2012（平成 24）年度からの文化庁委託事業による危機言語調査（青森県・岩手県・宮城県・福島県・茨城県）により明らかになっている。

今年度は、被災地地域住民の声や被災自治体からの声に直接、応えた企画を実施する他、方言資料の調査・研究を開始する。また、方言の保存・継承、方言による地域活性化のために、方言の主体としての地域住民の力を最大限に活用し、また研究者による支援を基盤として、以下の目的を掲げて実施した。

- ①昨年度、本事業で組織した、県内各地で方言の読み聞かせや語りなどを通して方言の継承活動をしている団体や個人の「語り部ネットワーク」の活動を支援し、相互協力・学び合いの場を提供する
- ②文化としての方言を継承するための教育資源に加工する
- ③南部弁を中心として、方言を身近に感じ、生活語としての活力を感じる
- ④方言による地域活性化に資する
- ⑤方言の場面別会話を収録し、保存継承する

また、この事業に参加した学生たちも、地域住民のみなさんと活動することで地域理解や文化継承への興味関心が高まり、地域の人材育成・世代を越えた交流という効果ももたらしめていることから、今年度も「学問の力」による地域貢献を目指した活動を目指した。

1.4 業務実施記録

(1) 小学校における研究授業の開催

2003 年 3 月ユネスコの消滅危機言語に関する専門家グループによる「言語の体力測定」(Language Vitality and Endangerment)の指標として、「教育に利用されうる言語資料がどの程度あるか」という項目が挙げられている。危機言語の保存・継承のために、総合的学習や国語教育といった学校教育の中で方言学習を位置づける対策が必要とされている。

2013(平成 25)年度から国語の研究授業と教材開発を行ったのに続き、今年度は南部の市街地地域で南部弁に対応した小学校の国語科教材・教案の開発と、研究授業を実施した。

その際、津軽でおこなった教材開発の検証も行うため、昨年度の小学校での授業者である庭田瑞穂先生(現黒石市教育委員会指導主事)の協力も仰いだ。

研究授業は、八戸市立湊小学校(校長:川村洋先生)において、5年生(42名)を対象に、庭田瑞穂先生と今村が2時間の授業として実施した。

(9月26日八戸市立湊小学校)

(2) 青森県語り部ネットワーク情報交換会と研修会・講演の開催

一昨年度、本事業により教育委員会・図書館・公民館の団体等からの紹介や情報検索を基に、方言を中心とした読み聞かせや語りの活動を行っている団体やサークルなどに関する情報についてアンケート調査を実施し、語り部同士の相互連絡組織として、青森県語り部ネットワークを構築した。昨年度はそれに続き、組織を整えた。今年度も、お互いの活動に関する情報交換を行うネットワーク会議を継続開催した。さらに参加者アンケートによる「方言についての専門家として、上野善道先生のお話をお聞きしたい」という要望に応え、ご講演をお願いした。また、語り部活動の次世代への継承のために、八戸工業大学の学生日比俊介さんによる電子紙芝居「一休さん」を披露してもらい、語り部研修会を行った。

(11月18日青森県総合社会教育センター・参加者39名)

他の語り部の活動を、実際に体験することで、語り部の活動の幅を広げ、方言の保存と継承、地域の活性化に資することができた。同時にこれから方言の魅力を伝え・方言を継承していくことができるように、若い語り部を育てる機会ともなった。また、県内外の他の団体の活動を参考に、方言に興味を持つ若い世代を育てる工夫を具体的に知り、知の共有を目指す。これを端緒として、県内の語り部ネットワークの交流の活性化を図ることができた。

(3) 被災地の方言の力で、地域を活性化する活動

①第5回「南部弁の日」・「南部弁さみっと in 八戸」の開催

12月2日（土）、八戸市ポータルミュージアム「はっち」にて、第5回「南部弁の日」「南部弁さみっと in 八戸」を岩手大学と共催して開催した。青森県教育委員会・八戸市教育委員会からの後援をいただいた。

地域の人々の反響が大きく、八戸市からも地域興しの一環としての方言の活用を期待されている。このイベントは被災地域の住民からの開催の要望が強く、「方言で被災者を勇気付け・元気付ける・地域を活性化する」企画として継続して取り組んだ。

今年度も、方言アフレコを活用し、八戸と釜石の方言により行った。また、地域で語り部講習会に参加している市民による語りの発表会も実施した。

住民の他の地域の南部弁や津軽弁とも聞き比べてみたいという要望によって、岩手県の南部弁（釜石方言）と津軽方言との聞き比べ企画を継続してきた。また、方言の保存・継承の担い手として、中学生を主体とした方言の群読や方言劇の企画も実施した。

子供達や市民の地域理解や文化継承、住民の方言による地域の活性化の手段として、「南部弁の日」を充実し、地域を育てていく企画となった。

（12月2日・八戸ポータルミュージアムはっちにて実施

参加者：方言アフレコ約70名・南部昔コ約70名・南部弁さみっと in 八戸約80名）

②南部弁さみっと in 釜石の開催

「おらは弁で語っぺし」（事務局：岩手大学）との共催による「南部弁さみっと in 釜石」イベントを実施した。今年度も、地域の昔話を語る団体（釜石市「漁火の会」）の活動を支援するとともに、青森県の南部弁の語りの団体等との連携交流活動についても支援し、地域の言語文化活動の活性化を図った。開催地との交渉は岩手大学を中心に進め、企画・運営を共同で行った。方言によって被災地者を勇気付け・元気付ける活性化支援とした。

（1月20日・釜石PITにて実施 参加者：約80名）

（4）方言資料の調査研究

県立図書館や総合社会教育センター所蔵の資料をはじめ、各地の図書館等に所蔵されている主に映像資料を中心に、方言が採録されている資料の所蔵調査とできるかぎりの確認を行った。この取り組みは八戸工業大学の協力によりなされた。ビデオテープなど、劣化が問題となる中、リスト化に努めた。今後、アーカイブのための努力が必要である。

（11月から2月実施）

（5）研究成果の公開・活用

2017（平成29）年度の報告書において、実施した事業を写真や動画で記録し、動画は学内のパソコンを活用してDVDを作成し、添付した。昨年度までの報告におけるDVDについて、講義や公開講座・講演会に活用したいという研究者・国語教育関係者からの依頼が多数寄せられた。そのため、今年度も動画として方言を記録し、保存することはもちろん、広く公開して方言の継承に資することを目指した。そのため、できる限り、学内のパソコンを利用して安価に仕上げ、学校教育の現場をはじめ様々な場面で使用できるように工夫した。

1.5 事業の実施体制

責任者・研究代表者	今村かほる（弘前学院大学文学部日本語・日本文学科教授）
副責任者	岩崎真梨子（八戸工業大学基礎教育研究センター・感性デザイン学部講師）
研究協力者	夏坂光男（八戸工業大学感性デザイン学部技師） 庭田瑞穂（黒石市教育委員会指導主事） 坂本幸博（八戸市立第一中学校教諭） 渋谷 洋（私立東奥義塾高等学校教諭） 弘前学院大学・文学部学生（今村研究室）

1.6 研究体制

今村かほる	：研究統括 国語教育における方言と共通語企画・運営、青森県語り部活動ネットワーク会議交流会・研修会企画運営・第5回南部弁の日南部弁さみっと in 八戸企画運営・南部弁さみっと in 釜石運営・報告書作成
岩崎真梨子	：青森県語り部活動ネットワーク会議交流会・研修会企画・運営、南部弁さみっと in 八戸運営、方言資料研究
夏坂 光男	：青森県語り部活動ネットワーク会議交流会・研修会企画・運営、南部弁さみっと in 八戸運営、方言資料研究
庭田 瑞穂	：国語教育における方言と共通語企画・運営
坂本 幸博	：第5回南部弁の日南部弁さみっと in 八戸運営
渋谷 洋	：国語教育における方言と共通語運営、青森県語り部活動ネットワーク会議交流会・研修会運営・第5回南部弁の日南部弁さみっと in 八戸運営
弘前学院大学文学部学生	： 青木明日香・一戸萌里・大平麗央・小笠原佳奈 長内麻利奈・加賀谷鈴華・工藤早紀・工藤沙蓮 工藤雅貴・今夏美・斎藤結菜・佐藤敬太郎・菅野幸弘 関戸颯汰・對馬柚香・中澤安里・中村眞熙・成田元希 野村雄大・三浦紗椿・三浦セセラ・安田丈隼

2. 国語教育における方言と共通語

2. 国語教育における方言と共通語

国語科の学習指導要領において方言がどう位置づけられるのかを確認し、方言と共通語の取り扱いについて明らかにする。

2.1 「方言」「共通語」「標準語」の単語の意味

まず、「方言」・「共通語」・「標準語」の3つがどのような意味であるのかを確認する。

そのために、『日本国語大辞典』小学館（2001年）から上記3つの単語の意味を以下、引用する。

方言	共通語・標準語とは異なった形で地方的に用いられることば。また、中央の標準的なことばに対して、地方で用いるその地特有のことば。俚言。土語。なまり。片言。特定の階級・仲間などの用いることば。隠語・俗語の類。 地域的な言語体系。ある地帯に通用する言語が全体として一つの言語体系に属すると認められながら、音韻・語法・語彙などに地域的な変異があるときにいう。 一般に、言語、特に、その国やその地域のことばをいう。 (北原保雄・久保田淳・谷脇理史・徳川宗賢・林大・前田富棋・松井栄一・渡辺実)
共通語	それぞれ異なる言語を用いる集団の間の伝達のための言語。 一つの国の中で、地域、階級の違いを超えて通用する言語。 日本では、方言に対立する言語でその基盤を東京語に置く。規範的な意味あいを持った「標準語」に対していう。 (北原保雄・久保田淳・谷脇理史・徳川宗賢・林大・前田富棋・松井栄一・渡辺実)
標準語	その国または社会の公的生活における言語の規範となるもの。一般に、方言の中から選ばれた言語を基礎として、これに修整・整理を加えた形で定まる。 東京の山手方言に基盤を置き、各地方言に対し全国の共通語として用いられ、国語を代表するものと考えられている言語。 (北原保雄・久保田淳・谷脇理史・徳川宗賢・林大・前田富棋・松井栄一・渡辺実)

2.2 国語科の学習指導要領から

学習指導要領について文部科学省のホームページ（学習指導要領「生きる力」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm）ではこのように述べている。

全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めています。これを「学習指導要領」といいます。

「学習指導要領」では、小学校、中学校、高等学校等ごとに、それぞれの教科等の目標や大まかな教育内容を定めています。また、これとは別に、学校教育法施行規則で、例えば小・中学校の教科等の年間の標準授業時数等が定められています。各学校では、この「学習指導要領」や年間の標準授業時数等を踏まえ、地域や学校の実態に応じて、教育課程（カリキュラム）を編成しています。

つまり、どの教科・科目にしてもこの学習指導要領に準拠して指導することが求められている。

ここでは、国語科の学習指導要領において方言の位置づけがどのように変化しているのか、学習指導要領の変遷を踏まえて比較し、明らかにする。学習指導要領の本文は、学習指導要領データベース (<https://www.nier.go.jp/guideline/>) より、昭和 22 年版から平成 10 年版まで引用する。現行学習指導要領 (平成 20 年版) と新学習指導要領 (平成 29 年版) については、それぞれ以下による。

- ・文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社
- ・文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編 平成 29 年 6 月」
(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_2.pdf)
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編 平成 29 年 6 月」
(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387018_2.pdf)

2.2.1 学習指導要領における方言と標準語および共通語の変遷 (小学校)

まず、昭和 22 年から平成 29 年における小学校学習指導要領上方言と標準語および共通語の位置づけを確認する。

【昭和 22 年小学校学習指導要領】

第一章 まえがき

第二節 国語科学習指導の目標

二 相手によくわかるように、はっきりとものをいう。

(二) なるべく、方言や、なまり、舌のもつれをなおして、標準語に近づける。

第二章 小学校一、二、三学年の国語科学習指導

第一節 話しかた

二 教育計画

読みかたでは、次のような学習活動が行われる。

(三) 次の発展段階。(一年後期から三年まで)

- 1 文章を朗読することによって、思想を理解することを学び、また、正しい発音や、語調などを身につける。

第三章 小学校四、五、六学年の国語科学習指導

第一節 話しかた

三 話しかた学習指導上注意すべき点

(三) できるだけ、語法の正しいことばをつかい、俗語または方言をさけるようにする。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「昭和 22 年度 (試案) 学習指導要領 国語科編」<https://www.nier.go.jp/guideline/s22ejj/index.htm>

【昭和 26 年小学校学習指導要領】

第三章 国語科学習指導の計画

第三節 国語能力表

第一学年

二 話すことの能力

13 なまりのない発音で話すことができる。

第五節 第一学年の国語科学習指導はどう進めたらよいか

四 話すことの学習指導はどうしたらよいか

(一) 指導の目あてをどこにおくか

9 なまりのない、はっきりした発音で話すことができるようにする。

(二) どう指導したらよいか

3 話をするときには、相手の顔を見ながら、相手にわかるように、なまりのないはっきりした声で話すように導く。発音のふめいりょうなものは、ラジオ・レコードなど聴覚教具を利用したり、音楽の指導と関連したりして、発音・発声・アクセントなどについて指導を進めていく。

12 音楽では、発音・発声などの指導をして、なまりをなおす。

第二学年

第六節 第二学年の国語科学習指導はどう進めたらよいか

一 この学年の具体的指導目標は何か

(二) この学年の具体的指導目標は何か

4 ゆっくりと落付いて語勢や語調に注意しながら、人にわかるようにはっきりと共通語を話すことができるようにする。

三 話すことの学習指導はどうしたらよいか

(一) 指導の目あてをどこにおくか

2 ゆっくり落ち付いて語勢や語調に注意しながら、人にわかるようにはっきりと共通語を話すことができるようにする。

第三学年

第七節 第三学年の国語科学習指導はどう進めたらよいか

三 話すことの学習指導はどうしたらよいか

(一) 指導の目あてをどこにおくか

三年生になって、聞くことについての興味が増し、その範囲が広がるのにつれて、話すことに対しても興味加わり、態度も自由になり、さらにまた、その内容も豊富になる。そうして、日常の言語生活では、おとなの仲間入りをして話すことができるまでに進んでくる。この学年での目あてとしては、次のようなことが考えられる。

- 4 正しい共通語であることはいうまでもなく、抑揚のある声で、しかも、その場にあった語調で話すことができるようにする。

(二) どう指導したらよいか

- 3 国語科の学習で、話すことを計画的に指導する。

- (4) 教科書や、いろいろな読み物の文を読んだり、ラジオを聞いたりすることによって、自分の使っていることばの中に、幼児語・方言・なまり・野卑なことばなどのあることに気づかせ、だんだんとよいことばや、共通語を使わせていくようにする。

第四学年

第三節 国語能力表

二 話すこと的能力

- 9 方言を使わないで話すことができる

第八節 第四学年の国語科学習指導はどう進めたらよいか

一 この学年の具体的指導目標は何か

(二) この学年の具体的指導目標は何か

- 4 方言を使わないで話したり、自分の語法の誤りを認めることができるようにする。

三 話すことの学習指導はどうしたらよいか

(一) 指導の目あてをどこにおくか

- 6 方言を使わないで話したり、自分の語法の誤りを認めることができる。

(二) どう指導したらよいか

- 5 共通語を意識して使うようにするためには、ことばに対する意識を深めることがたいせつである。したがって、読本や、児童読み物からそういう意識を導き出すとともに、共通語の最も自然に使用される場面に立たせることがよい。たとえば、道路上で旅人に話しかけられた場合、目上の人(ことに先生)に話す場合、訪問先とか公的な席上での対話、転校してきた児童と話す場合などである。必要な場に立たされて習慣づけられること、このための不断の留意を教師がもたなくてはならない。

第五学年

第三節 国語能力表

四 書くこと的能力(作文)

- 8 方言を区別して書くことができる。

第九節 第五学年の国語科学習指導はどう進めたらよいか

一 この学年の具体的指導目標は何か

(二) この学年の具体的指導目標は何か

- 7 適切な語を選んだり、方言を区別して書いたり、敬語を適切に使って文を書くことができるようにする。

五 書くこと(作文)の学習指導をどうしたらよいか

(一) 指導の目あてをどこにおくか

- 5 適切なことばを選んだり、方言を区別して書いたり、敬語を適切に使ったりして、文を書くことができるようにする

第六学年

第十節 第六学年の国語科学習指導はどう進めたらよいか

三 話すことの学習指導はどうしたらよいか

(一) 指導の目あてをどこにおくか

- 6 正しい語法に基いた共通語を話し、俗語や方言はできるだけ避けるようにする。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「小学校学習指導要領国語編 昭和26年改訂」<https://www.nier.go.jp/guideline/s26eja/index.htm>

【昭和33年小学校学習指導要領】

第4学年

2 内 容

B 以上の聞くこと、話すこと、読むこと、書くことにわたって、ことばに関する次のような事項を指導する。

- (7) 全国に通用することばとその土地でしか使われないことばとの違いを理解すること。

上に示す指導事項のほか、「全国に通用することばで文章を書いたり、また、話をしたりするように努めること」も望ましい。

第5学年

2 内 容

B 以上の聞くこと、話すこと、読むこと、書くことにわたって、ことばに関する次のような事項を指導する。

- (5) 全国に通用することばで書くようにすること。

第6学年

2 内 容

B 以上の聞くこと、話すこと、読むこと、書くことにわたって、ことばに関する次のような事項を指導する。

- (6) 必要な場合に全国に通用することばで話すこと。

第3 指導計画作成および学習指導の方針

3 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことのうち、聞くこと、話すことに関しては

低学年からじゅうぶんに指導し、小学校の第6学年を終了するまでに、どのような地域においても、全国に通用することばで、一応聞いたり話したりすることができるようにする。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「小学校学習指導要領 昭和33年改訂」<https://www.nier.go.jp/guideline/s33e/index.htm>

【昭和43年小学校学習指導要領】

第3学年

2 内 容

A 聞くこと、話すこと

(2) (1)の指導と関連させて、ことばに関する次の事項について指導する。

ア 発音のなまりや癖を直すようにすること。

第4学年

2 内 容

A 聞くこと、話すこと

(2) (1)の指導と関連させて、ことばに関する次の事項について指導する。

ウ 共通語と方言とは違いがあることを理解し、また、必要な場合には共通語で話すようにすること。

第5学年

2 内 容

A 聞くこと、話すこと

(2) (1)の指導と関連させて、ことばに関する次の事項について指導する。

ウ 必要な場合には共通語で話すこと。

第6学年

2 内 容

A 聞くこと、話すこと

(2) (1)の指導と関連させて、ことばに関する次の事項について指導する。

ウ 必要な場合には共通語で話すこと。

第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い

2 国語の指導の効果をいっそう高めるため、児童の言語活動が常に正しく行なわれるような言語環境を整えるよう留意することが必要である。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「小学校学習指導要領 昭和43年7月 文部省」<https://www.nier.go.jp/guideline/s43e/index.htm>

【昭和 52 年小学校学習指導要領】

第 3 学年

2 内 容

[言語事項]

- (1) 国語による表現力及び理解力の基礎を養うため、A及びBの指導を通して、次の言語に関する事項について指導する。

ア 発音のなまりや癖を直すようにして話すこと。

第 4 学年

2 内 容

[言語事項]

- (1) 国語による表現力及び理解力の基礎を養うため、A及びBの指導を通して、次の言語に関する事項について指導する。

ア なまりや癖のない正しい発音で話すこと。

タ 共通語と方言とでは違いがあることを理解し、また、必要に応じて共通語で話すようにすること。

第 5 学年

2 内 容

[言語事項]

- (1) 国語による表現力及び理解力の基礎を養うため、A及びBの指導を通して次の言語に関する事項について指導する。

ア 正しい発音で話すこと。

ツ 必要な場合には、共通語で話すこと。

第 6 学年

2 内 容

[言語事項]

- (1) 国語による表現力及び理解力の基礎を養うため、A及びBの指導を通して、次の言語に関する事項について指導する。

ア 正しい発音で話すこと。

ツ 必要な場合には、共通語で話すこと。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「小学校学習指導要領 昭和 52 年 7 月 文部省」<https://www.nier.go.jp/guideline/s52e/index.htm>

【平成元年小学校学習指導要領】

第 3 学年

2 内 容

言語事項

(1) 国語による表現力及び理解力の基礎を養うため、「A 表現」及び「B 理解」の指導を通して、次の言語に関する事項について指導する。

ア 発音及び発声に関する事項

(ア) 発音のなまりや癖を直すようにして話すこと。

第4学年

2 内 容

言語事項

(1) 国語による表現力及び理解力の基礎を養うため、「A 表現」及び「B 理解」の指導を通して、次の言語に関する事項について指導する。

ア 発音及び発声に関する事項

(ア) なまりや癖のない正しい発音で話すこと。

カ 言葉遣いに関する事項

(ウ) 共通語と方言とでは違いがあることを理解し、また、必要に応じて共通語で話すようにすること。

第5学年

2 内 容

言語事項

(1) 国語による表現力及び理解力の基礎を養うため、「A 表現」及び「B 理解」の指導を通して、次の言語に関する事項について指導する。

カ 言葉遣いに関する事項

(ウ) 必要な場合には、共通語で話すこと。

第6学年

2 内 容

言語事項

(1) 国語による表現力及び理解力の基礎を養うため、「A 表現」及び「B 理解」の指導を通して、次の言語に関する事項について指導する。

カ 言葉遣いに関する事項

(ウ) 必要な場合には、共通語で話すこと。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「小学校学習指導要領 平成元年3月 文部省」<https://www.nier.go.jp/guideline/h01e/index.htm>

【平成10年小学校学習指導要領】

第5学年及び第6学年

言語事項

(1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次

の事項について指導する。

カ 言葉遣いに関する事項

(イ) 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「文部省告示 小学校学習指導要領国語編 平成 10 年 12 月 <https://www.nier.go.jp/guideline/h10e/index.htm>

【平成 20 年小学校学習指導要領解説】

第 3 節 第 5 学年及び第 6 学年の内容

A 話すこと・聞くこと

2 内 容

ウ 共通語と方言を理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。

ウは、共通語と方言の違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すことを示している。

従前は[言語活動]に示していたが、話すこと・聞くことの実際の場面における重要性を考えて、「A 話すこと・聞くこと」に位置付けた。共通語と方言とを比較、対照させながら違いを理解し、それぞれのよさを知り、共通語を用いることが必要な場合を判断しながら話すことができるように指導することが大切である。

文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

【平成 29 年小学校学習指導要領解説】

第 3 節 第 5 学年及び第 6 学年の内容

1 [知識及び技能]

(3) 我が国の言語文化に関する事項

ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

共通語と方言との違いを理解するためには、共通語と方言とを比較、対照させながら違いを理解し、それぞれの特質とよさを知り、共通語を用いることが必要な場合を判断しながら話すことができるようにすることが重要である。

文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編 平成 29 年 6 月」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_2.pdf

以上が、小学校学習指導要領における方言と標準語および共通語に関する記述である。

2.2.2 小学校学習指導要領の内容の比較

小学校学習指導要領の方言と標準語および共通語の内容の変化について、今村（2004、2005、2008）を参考にまとめる。

昭和 22 年小学校学習指導要領

1～3 学年	正しい発音や語調をなどを身につける。
4～6 学年	語法の正しい言葉を使い、方言はできる限りさけるようにする。

1～3 学年では正しい発音や語調を身につけることを求めている。

4～6 学年では方言を話すことはできる限り避け、学校教育の中で共通語を使えるように注意し、指導することを求めている。

また、今村（2004）では次のように述べている。

「方言や、なまり」は「なお」すものであったり、「さける」ものであり、其の結果として「標準語に近づけ」という扱いであることが確認できる。

昭和 26 年小学校学習指導要領

第 1 学年	なまりのない発音で話すことができるようにする。指導の際には、話をするときに相手の顔を見ながら、相手にわかるように、なまりのないはっきりした声で話すように導く。発音のふめいりょうなものは聴覚教具や音楽の指導と関与したりして、発音・発声・アクセントなどについて指導を進めていく。
第 2 学年	ゆっくりと落ち着いて語勢や語調に注意しながら、人にわかるようにはっきりと共通語を話すことができるようにする。
第 3 学年	正しい共通語であることはいうまでもなく、抑揚のある声で、しかも、その場にあった語調で話すことができるようにする。指導の際は、教科書やいろいろな読み物の文を読んだり、ラジオを聞いたりすることによって、自分の使っている言葉の中に、幼児語・方言・なまり・野卑なことばなどのあることに気づかせ、だんだんとよいことばや、共通語を使わせていくようにする。
第 4 学年	方言を使わないで話したり、自分の語法の誤りを認めることができるようにする。指導の際に、共通語を意識して使うようにするためにことばに対する意識を深めることがたいせつである。読本や児童読み物からそういう意識を導き出すとともに、共通語の最も自然に使用される場面に立たせることがよい。
第 5 学年	適切な語を選んだり、方言を区別して書いたり、敬語を適切に使って文を書くことができる。
第 6 学年	指導の際に、正しい語法に基いた共通語を話し、俗語や方言はできるだけ避けるようにする。

昭和 22 年には、「標準語」という用語が用いられていたが、昭和 26 年には「共通語」の用語が初めて用いられた。これは昭和 24 年に国立国語研究所によって行われたいわゆる白河調査において、作業仮説として用いられ昭和 26 年に表された「共通語」を受けてのことである。

また、今村（2004）では、次のように述べている。

方言は「よいことば」、「語法の正しいことば」や「共通語」と対比され、「できるだけ避けるようにする」という位置づけである。

昭和 33 年小学校学習指導要領

第 4 学年	全国に通用することばとその土地でしか使われないことば（方言）の違いを理解する。
第 5 学年	全国に通用することばで書く。
第 6 学年	必要な場合に全国に通用することばで話す。

「共通語」から「全国に通用することば」に変化していることがわかる。第 4 学年で共通語と方言の違いを理解し、第 5 学年では「書く」、第 6 学年では「話す」を主として共通語（全国に通用することば）を使うことを求めている。昭和 22 年と昭和 33 年を比較すると、方言をさけるのではなく、共通語（全国に通用することば）と方言の違いを理解したうえで共通語を使うよう求めている。

また、今村（2005）では、次のように述べている。

標準語・共通語と方言については、その用語と、方言と「全国に通用することば」との位置づけの変化がみられる。つまり、前時代のような方言撲滅はもちろん、これ以前の指導要領にみられたような「さける」とか「なおす」という位置づけから、「違いを理解する」とか「必要な場合に」といった使い分けへの方向の変化である。

昭和 43 年小学校学習指導要領

第 3 学年	発音のなまりや癖（方言）を直し、共通語を自然に使えるよう指導する。
第 4 学年	共通語と方言の違いを理解し、必要な場合は共通語で話すようにする。
第 5 学年	必要な場合は共通語で話す。
第 6 学年	必要な場合は共通語で話す。

昭和 33 年版に比べると第 3 学年から共通語を使うことが述べられているため、できる限り早く共通語を使うことが必要とされていることがわかる。共通語を使えるようになること求められている。

また、今村（2008）では、このように述べている。

方言と共通語の「違いを理解する」とこと、「必要な場合には共通語で話す」ことがポイントとなっており、これまでのような学校教育ではあくまで共通語を目指すもので、方言を「なおす」・「矯正する」や、「なるべく標準語に近づける」という強引なものではなくなっていることが見て取れる。

昭和 52 年小学校学習指導要領

第 3 学年	発音のなまりや癖を直すように話す。
第 4 学年	なまりや癖のない正しい発音で話す。共通語と方言の違いを理解し、必要な場合は共通語で話すようにする。
第 5 学年	必要な場合には共通語で話す。
第 6 学年	必要な場合には共通語で話す。

昭和 43 年版と昭和 52 年版を比較すると、第 4 学年に違いがみられる。第 3 学年では「発音のなまりや癖を直すように話す」という過程を経て、第 4 学年では「なまりや癖のない正しい発音で話す」という変化がある。

平成元年小学校学習指導要領

第 3 学年	発音のなまりや癖（方言）を直すように話す。
第 4 学年	なまりや癖（方言）のない正しい発音（共通語）で話す。共通語と方言の違いを理解し、必要な場合は共通語で話すようにする。
第 5 学年	必要な場合には共通語で話す。
第 6 学年	必要な場合には共通語で話す。

昭和 52 年版と同様に、必要な場合には共通語を使うように求められている。

平成 10 年小学校学習指導要領解説

第 5 学年及び第 6 学年	「言語事項」の中で、共通語と方言の違いを理解し、必要に応じて共通語で話す。
----------------	---------------------------------------

平成元年版と平成 10 年版を比較すると、第 5 学年から共通語と方言について述べられている。ここから、第 5 学年までに言語学習を行い、それらを理解したうえで共通語と方言を学ぶということに変化している。

平成 20 年小学校学習指導要領解説（現行学習指導要領）

第 5 学年及び第 6 学年	「話すこと・聞くこと」の中で、共通語と方言の違いを理解し、必要に応じて共通語で話す。
----------------	--

平成 10 年版では「言語事項」の中に共通語と方言が位置づけられていたが、平成 20 年では「話すこと・聞くこと」の中に共通語と方言が位置づけられている。

また、『小学校学習指導要領解説 国語編』では、次のように述べられている。

言語事項に示していたが、話すこと・聞くことの実際の場面における重要性を考慮して、「A 話すこと・聞くこと」に位置づけた。共通語と方言とを比較、対照させながら違いを理解し、それぞれの特質とよさを知り、共通語を用いることが必要な場合を判

断しながら話すことが出来るように指導する事が大切である。

ここから、〔言語事項〕から「話すこと・聞くこと」への位置づけの変化は、「実際の場面における重要性」が変化した。なお、平成10年版と平成20年版の内容は変化していない。

平成29年小学校学習指導要領解説（新学習指導要領）

第5学年及び第6学年	語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 共通語と方言との違いを理解するためには、共通語と方言とを比較、対照させながら違いを理解し、それぞれの特質とよさを知り、共通語を用いることが必要な場合を判断しながら話すことができるようにすることが重要である。
-------------------	--

平成30年小学校学習指導要領では、位置づけ・区分が変わり、〔知識及び技能〕の中に「共通語と方言」が位置づけされている。ここから、国語教育の中で方言を理解することが知識・技能として必要になることがわかる。加えて、以前よりも「共通語と方言」を理解するために重要なこととして、「共通語と方言とを比較、対照させながら違いを理解する」「それぞれの特質とよさを知る」「共通語を用いることが必要な場合を判断しながら話すことができるようにする」と具体的に述べられるようになった。

2.2.3 学習指導要領における方言と標準語および共通語の変遷（中学校）

次から中学校における昭和22年から平成29年における中学校学習指導要領上の位置づけを確認する。

【昭和22年中学校学習指導要領】 第一章 まえがき 第二節 国語科学習指導の目標 二 相手によくわかるように、はっきりとものをいう。 （二）なるべく、方言や、なまり、舌のもつれをなおして、標準語に近づける。 第二節 話しかた 三 目 標 中学校の話しかた学習指導においては、次のことが強調される。 （一）標準語で話す 六 話しかたの学習指導 （一）第一学年の学習指導。 2 ふだんのことばにおける誤りやなまりを訂正する。
--

第四節 読みかた

一 一般目標

中学校の読みかた学習指導は、小学校の六年間にえた習慣・態度・方法を正しくし、ふかくすることが根本である。そのうえに次のような技術を伸ばすことをめざす。

(四) 正しい言語感覚をやしない、標準語を身につける。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「昭和 22 年度（試案）学習指導要領 国語科編」<https://www.nier.go.jp/guideline/s22ejj/index.htm>

【昭和 26 年中学校学習指導要領】

第一章 国語科の目標

三 小学校・中学校・高等学校における国語学習指導の一般目標は何か

今までは、国語は家庭や社会で自然に学ばれるもので、学校では生徒の言語の誤りを正し、特に話しことばにおける方言やなまりを正せばよい、ただ、読み書きの仕事は高い知的活動であるから、学校の系統的な学習指導は読み方と書き方と作文とに向けられなければならないと考えられていた。しかし、この考え方では、学校の国語教育の領域は非常に狭くなってしまう。

第二章 中学校の国語科の計画

二 話すこと

(五) 各学年の学習上の注意

各種の社会的場面において話をする機会を、学校生活中に与えてやることが、特に重大である。そして、どんな地域の生徒たちも中学校を卒業するまでに、必要に応じて共通語を正しく使えるようにならなければならない。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「中学校学習指導要領国語編 昭和 26 年改訂」<https://www.nier.go.jp/guideline/s26jhj/index.htm>

【昭和 33 年中学校学習指導要領】

第 2 各学年の目標および内容

〔第 1 学年〕

2 内 容

B 以上の聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの学習を通して、ことばに関する次のような指導を行う。

(3) なお、指導にあたっては、次のような点に留意する。

オ 話しことばと書きことば、共通語と方言などのそれぞれの違いを考えさせる。

〔第 2 学年〕

2 内 容

B 以上の聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの学習を通して、ことばに関する次のような指導を行う。

(3) なお、指導にあたって留意する点については、第 1 学年の内容の B の(3)に同じと

する。

〔第3学年〕

2 内 容

B 以上の聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの学習を通して、ことばに関する次のような指導を行う。

(3) なお、指導にあたって留意する点については、第1学年の内容のBの(3)に同じとする。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「中学校学習指導要領 昭和33年改訂」<https://www.nier.go.jp/guideline/s33j/index.htm>

【昭和44年中学校学習指導要領】

第2 各学年の目標および内容

〔第1学年〕

2 内 容

D ことばに関する事項

(1) 次の事項について指導する。

ア 文章の中の意味の切れ目と続き方に注意し、文章の組み立てを考えて、理解し表現すること。

イ 文の中の意味の切れ目と続き方に注意し、文の組み立てを考えて、理解し表現すること。

ウ 語句の意味と用法を確実にとらえて、理解し表現すること。

(2) 上記(1)の指導に当たっては、次の事項を理解させるようにする。

オ 話しことばと書きことばとの関係、共通語と方言との関係など。

〔第2学年〕

2 内 容

D ことばに関する事項

(1) 次の事項について指導する。

ア 文章の中の意味の切れ目と続き方に注意し、文章の組み立てを考えて、理解し表現すること。

イ 文の中の意味の切れ目と続き方に注意し、文の組み立てを考えて、理解し表現すること。

ウ 語句の意味と用法を確実にとらえて、理解し表現すること。

エ 国語の特質について気づくこと。

(2) 上記(1)の指導に当たっては、第1学年の内容のDの(2)と同じ事項を理解させるようにする。

〔第3学年〕

2 内 容

D ことばに関する事項

(1) 次の事項について指導する。

ア 文章の中の意味の切れ目と続き方に注意し、文章の組み立てを考えて、理解し表現すること。

イ 文の中の意味の切れ目と続き方に注意し、文の組み立てを考えて、理解し表現すること。

ウ 語句の意味と用法を確実にとらえて、理解し表現すること。

エ 国語の特質について気づくこと。

(2) 上記(1)の指導に当たっては、第1学年の内容のDの(2)と同じ事項を理解させるようにする。

第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い

3 第2の各学年の内容のAの指導に当たっては、次の事項に留意するものとする。

(2) 共通語については、適切に話すことができるようにすること。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「中学校学習指導要領 昭和44年4月 文部省」<https://www.nier.go.jp/guideline/s44j/index.htm>

【昭和52年中学校学習指導要領】

〔第1学年〕

2 内 容

B 理 解

〔言語事項〕

(1) 国語の表現と理解に役立てるため、次の事項について指導する。

カ 話し言葉と書き言葉、共通語と方言、音声と文字、表記の仕方などについて理解し、また、敬語の使い方を身につけること。

〔第2学年〕

2 内 容

B 理 解

〔言語事項〕

(1) 国語の表現と理解に役立てるため、第2学年の目標に基づいて、第1学年の〔言語事項〕の(1)に示す事項について指導する。

〔第3学年〕

2 内 容

B 理 解

〔言語事項〕

- (1) 国語の表現と理解に役立てるため、第3学年の目標に基づいて、第1学年の〔言語事項〕の(1)に示す事項について指導する。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「中学校学習指導要領 昭和52年7月 文部省」<https://www.nier.go.jp/guideline/s52j/index.htm>

【平成元年中学校学習指導要領】

〔第二学年〕

2 内 容

〔言語事項〕

- (1) 国語の表現と理解に役立てるため、次の事項について指導する。

カ 共通語と方言の果たす役割などについて理解すること。

立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「中学校学習指導要領 平成元年3月 文部省」<https://www.nier.go.jp/guideline/h01j/index.htm>

【平成10年中学校学習指導要領】

第2学年及び第3学年

2 内 容

〔言語事項〕

- (1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

キ 共通語と方言の果たす役割などについて理解するとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に使えるようにすること。

国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス「文部省告示 中学校学習指導要領国語編 平成10年12月」<https://www.nier.go.jp/guideline/h10j/index.htm>

【平成20年中学校学習指導要領解説】

〔第2学年〕

第1節 第2学年の内容

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

- (ア) 話し言葉と書き言葉の違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。

「共通語と方言の果たす役割」については、小学校第5学年及び第6学年の「A話すこと・聞くこと」(1)の「ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。」を指導している。これを踏まえ、共通語と方言の果たす役割について理解させるよう指導する。共通語は地域を越えて通じる言葉であり、方言はある地域に限って使用される言葉である。共通語を適切に使うことは、人々が相互の理解を進めるために不可欠な能力である。

一方、方言は、生まれ育った地域の風土や文化とともに歴史的・社会的な伝統に裏付け

られた言語である。その表現の豊かさを魅力など、方言が担っている役割を十分理解させ、方言を尊重する気持ちをもたせるようにしながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて使い分けられるように指導することが大切である。

文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

【平成 29 年中学校学習指導要領解説】

第 1 節 第 1 学年の内容

1 [知識及び技能]

(3) 我が国の言語文化に関する事項

(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができることができるよう指導する。

ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。

小学校第 5 学年及び第 6 学年の[知識及び技能]の (3) ウの「共通語と方言との違いを理解すること。」を受けて、共通語と方言のそれぞれが果たす役割について理解することを示している。

共通語は地域を越えて通じる言葉であり、方言はある地域に限って使用される言葉である。共通語を適切に使うことで、異なる地域の人々が互いの伝えたいことを理解することができる。一方、方言は、生まれ育った地域の風土や文化とともに歴史的、社会的な伝統に根ざした言葉であり、その価値を見直し、保存・継承に取り組んでいる地域もある。

例えば、東日本大震災による被災地域においても、方言を使うことで被災者の心が癒されるなどした事例が報告されるとともに、方言の保存・継承の取組そのものが地域コミュニティの再生に寄与するなど、地域の復興に方言の力を活用する取組も進められている。

こうした方言が担っている役割を、その表現の豊かさなど地域による言葉の多様性の面から十分理解し、方言を尊重する気持ちをもちながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて適切に使い分けられるようにすることが大切である。

文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編 平成 29 年 6 月」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387018_2.pdf

以上が、中学校学習指導要領における方言と標準語および共通語に関する記述である。

2.2.4 中学校学習指導要領の比較

中学校学習指導要領の方言と標準語および共通語について、内容の変化を見る。

昭和 22 年中学校学習指導要領

全学年	標準語で話す。
全学年	正しい言語感覚をやしない、標準語を身につける。
第 1 学年	ふだんのことばにおける誤りやなまりを訂正する。

昭和 22 年版では、「標準語」を話すこと、また、「なまり」を直すことが求められている。

昭和 26 年中学校学習指導要領

全学年	今までは、国語は家庭や社会で自然に学ばれるもので、学校では生徒の言語の誤りを正し、特に話しことばにおける方言やなまりを正せばよい。ただ、読み書きの仕事は高い知的活動であるから、学校の系統的な学習指導は読み方と書き方と作文とに向けられなければならないと考えられていた。しかし、この考え方では、学校の国語教育の領域は非常に狭くなってしまう。
全学年	各種の社会的場面において話をする機会を、学校生活中に与えてやること、特に重大である。そして、どんな地域の生徒たちも中学校を卒業するまでに、必要に応じて共通語を正しく使えるようにならなければならない。

昭和 22 年版と 26 年版を比較すると「標準語」から「共通語」へと表現が変わっている。また、「なまり」が「方言やなまり」となっている。

昭和 33 年中学校学習指導要領

全学年	話し言葉と書き言葉、共通語と方言などのそれぞれの違いを考えさせる。
-----	-----------------------------------

昭和 26 年版では「方言やなまりを正し、共通語を話せるようにしなければならない」とあるが、昭和 33 年では、「共通語と方言などのそれぞれの違いを考えさせる」となっている。

昭和 44 年中学校学習指導要領

全学年	共通語については、適切に話すことができるようにすること。
全学年	話しことばと書きことばとの関係、共通語と方言との関係などを理解させる。

昭和 44 年版では、「共通語を話すことができるようにすること」が追加されている。これは、昭和 33 年版にはないが、その前の昭和 22 年版と昭和 26 年版では「標準語を話す」や「共通語を正しく使えるようにしなければならない」など、相応の表記がある。

昭和 52 年中学校学習指導要領

全学年	話し言葉と書き言葉、共通語と方言、音声と文字、表記の仕方などについて理解し、また、敬語の使い方を身につけること。
-----	--

昭和 44 年版では「話しことばと書きことば」と「共通語と方言」について述べられているが、昭和 52 年版ではそれに加え、「音声と文字」、「表記の仕方」、「敬語の使い方」についても述べられている。

また、ここから平成 10 年版までは「方言と共通語」についての項目は「言語事項」において述べられている。

「適切にすることができるようにする」という記述が外され、「理解する」のみとなった。

平成元年中学校学習指導要領

第2学年	共通語と方言の果たす役割などについて理解すること。
------	---------------------------

平成元年版から、対象学年が「第2学年」と定められている。これは、既に共通語化が進み、あえて「話せるようにする」ことをめざすことを掲げなくてもよい現状になったと判断されよう。

平成10年中学校学習指導要領

第2学年 及び 第3学年	共通語と方言の果たす役割などについて理解するとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に使えるようにすること。
--------------------	--

平成元年版と比較すると、対象学年が「第2学年及び第3学年」と広がっている。内容は、「共通語と方言」と「敬語について」が同項目に書かれている。

平成20年中学校学習指導要領解説国語編

第2学年	話し言葉と書き言葉の違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。
------	--

これまで全学年が対象であったものが、平成から2学年及び3学年のみが対象となっている。また、平成10年・20年版では、昭和52年版のように「敬語」と同じ項目に表記されている。

平成29年中学校学習指導要領解説国語編

第1学年	ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。
------	---------------------------

平成29年中学校学習指導要領では、位置づけ・区分が変わり、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の中に方言と共通語が位置づけされている。対象が第1学年になっている。現行学習指導要領（平成20年）では第2学年、その前の学習指導要領では第2学年及び第3学年が対象であったため、対象学年が下がっていることが分かる。これは、共通語と方言を早くから学ぶべきという意識が表れていると考えられる。学習指導要領解説国語編において「方言の果たす役割」について、「東日本大震災による被災地域においても、方言を使うことで被災者の心が癒されるなどした事例が報告されるとともに、方言の保存・継承の取組そのものが地域コミュニティの再生に寄与するなど、地域の復興に方言の力を活用する取組も進められている。」とあるように、方言をただ学ぶのではなく、活用していくことが重要であるといえる。

2.2.5 国語教育における方言と共通語の現在の位置づけ

平成 28 年 8 月に教育課程部会から「国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（報告）」が出された。その後、平成 29 年 3 月に新学習指導要領が公示された。これらから、現在求められている方言と共通語についてまとめる。

方言と共通語の位置づけについて、「教育課程部会国語ワーキンググループ」で述べられた内容は下表のようになる。

3. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

(3) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

(地域の言語文化に関する学習の充実)

- 我が国には、長い歴史の中で形成されてきた多様な方言が各地域に存在する。しかし、近年の社会状況の大きな変化に伴って、共通語の浸透が進み、その伝統的な特徴を失いつつある。そのような中、東日本大震災における被災や避難に伴い消滅の危機と考えられる被災地の方言に関し、方言の力を活用した復興の取組が進むなど、地域の生活や文化を支える言葉としての重要性が再認識されている。
- 方言や民話など地域が育んできた言語文化を地域の一員として継承していく態度の育成が求められており、そのためには、地域の言語文化を調べたり、地域の人たちによる民話の語りを聞いたり、方言を用いた劇を行ったりする機会を充実することなどが考えられる。

5. 必要な条件整備等について

- 社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域と連携して学びの基盤を整えていくことが求められる。例えば、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題を設定する際に、身近な社会である地域の問題を取り上げたり、読み聞かせや取材などを行う際に、地域の人たちの協力を得たり、伝統文化に関する学習を行う際に、地域に受け継がれてきた方言や民話などを題材にして地域の人たちと交流したりすることが考えられる。

「国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（報告）」の方言と共通語の内容をまとめると、

- ・ 共通語が浸透している中で、東日本大震災の復興のために方言への取組が進むことで、地域の生活や文化を支える言葉としての重要性が再認識されている。
- ・ 「地域と連携する」 ことに関して民話や劇などの具体例がある。

また、今村（2016）はこの内容について次のように述べている。

長く行われてきた方言の撲滅や矯正の教育を受けてきた世代からすれば、隔世の感があるのではないだろうか。学校教育で共通語ではなく、方言を教えるなんてと驚く方もいるだろう。しかし、今は方言を継承していくために努力が必要な時代なのである。

（中略）学校で方言を教える、それは方言が持つ地域の知恵の総体の継承である。それは地域を支える人材の育成をすることである。

小学校における現行学習指導要領と新学習指導要領を比較し、現在の方言と共通語の位置づけについて明らかにする。

平成 20 年 6 月小学校学習指導要領解説 国語編	平成 29 年 6 月小学校学習指導要領解説 国語編
第 3 節 第 5 学年及び第 6 学年の内容 A 話すこと・聞くこと 2 内容 ウ 共通語と方言を理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。	第 3 節 第 5 学年及び第 6 学年の内容 1 [知識及び技能] (3) 我が国の言語文化に関する事項 共通語と方言との違いを理解するためには、共通語と方言とを比較、対照させながら違いを理解し、それぞれの特質とよさを知り、共通語を用いることが必要な場合を判断しながら話すことができるようにすることが重要である。 ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

- この表より、現行小学校学習指導要領解説と新小学校学習指導要領解説を比較すると、
- ・方言と共通語の項目が「A話すこと・聞くこと」から「知識及び技能」へと位置づけが変わった。
 - ・方言と共通語について理解する方法も述べられており、特質やよさについて知ることについて述べられていることがわかる。

中学校における現行学習指導要領と新学習指導要領を比較すると、下表になる。

平成 20 年 7 月中学校学習指導要領解説 国語編	平成 29 年 6 月中学校学習指導要領解説 国語編
第 1 節 第 2 学年の内容 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 イ 言葉の特徴やきまりに関する事項 (ア) 話し言葉と書き言葉の違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。 「共通語と方言の果たす役割」については、小学校第 5 学年及び第 6 学年の「A 話すこと・聞くこと」(1) の「ウ 共通語と	第 1 節 第 2 学年の内容 1 [知識及び技能] (3) 我が国の言語文化に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。 小学校第 5 学年及び第 6 学年の[知識及び技能]の (3) ウの「共通語と方言との違

方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。」を指導している。 これを踏まえ、共通語と方言の果たす役割について理解させるよう指導する。共通語は地域を越えて通じる言葉であり、方言はある地域に限って使用される言葉である。共通語を適切に使うことは、人々が相互の理解を進めるために不可欠な能力である。 一方、方言は、生まれ育った地域の風土や文化とともに歴史的・社会的な伝統に裏付けられた言語である。その表現の豊かさを魅力など、方言が担っている役割を十分理解させ、方言を尊重する気持ちをもたせるようにしながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて使い分けられるように指導することが大切である。	いを理解すること。」を受けて、共通語と方言のそれぞれが果たす役割について理解することを示している。 共通語は地域を越えて通じる言葉であり、方言はある地域に限って使用される言葉である。共通語は適切に使うことで、異なる地域の人々が互いに伝えたいことを理解することができる。一方、方言は、生まれ育った地域の風土や文化とともに歴史的、社会的な伝統に根ざした言葉であり、その価値を見直し、保存・継承に取り組んでいる地域もある。 例えば、東日本大震災による被災地域においても、方言を使うことで被災者の心が癒されるなどした事例が報告されるとともに、方言の保存・継承の取組そのものが地域コミュニティの再生に寄与するなど、地域の復興に方言の力を活用する取組も進められている。 こうした方言が担っている役割を、その表現の豊かさなど地域による言葉の多様性の面から十分理解し、方言を尊重する気持ちをもちながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて適切に使い分けられるようにすることが大切である。
---	---

以上が学習指導要領に位置づけられている方言と共通語の内容である。

- この表より、現行中学校学習指導要領解説と新中学校学習指導要領解説を比較すると、
- ・方言と共通語の項目が「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」から「知識及び技能」へと位置づけが変わった。
 - ・共通語と方言を学ぶ学年が第2学年から第1学年に早まっている。
 - ・具体的な事例（東日本大震災）が追加されていることがわかる。

2.2.6 学習指導要領について「方言と共通語」の位置づけのまとめ

学習指導要領の改訂に伴い、徐々に方言の重要性が求められていることがわかる。特に新学習指導要領では共通語と方言のどちらも理解することが必要であると述べられているため、共通語と方言の両方をよさや特質を知り、理解することが重要であることがわかる。

2.3 小学校・中学校で使用されている教科書について

国語科の教科書で、方言や共通語、これらの使い分けがどのように示されているのかについて確認する。

小学校・中学校ともに使用されている国語科教科書は、5社ある。東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書の中で「方言と共通語」がどのように示されているのかをまとめた。小学校では、第5学年または第6学年、中学校では第2学年で「方言と共通語」の単元が設定されている。

本調査では主に、以下の3点について、小学校・中学校ごとに国語科教科書の考察・比較を行った。また、最後にそれぞれのまとめの比較の表を作成した。

- | |
|------------------|
| ①方言の定義 |
| ②共通語の定義 |
| ③方言と共通語の使い分けについて |

なお、調査に使用した教科書は参考文献の末尾に示した。

2.3.1 小学校 教科書比較

・方言の定義

東京書籍	それぞれの地域には、その土地の人たちの間で伝統的に使われてきた言葉や言い方がある。それを方言という。
学校図書	ある地方で使われている言葉や発音の体系全体を方言と呼ぶ。
三省堂	地方の人たちの間で伝統的に使われてきた言葉や言い方。
教育出版	ある地方だけで使われる言葉。
光村図書	家族や友達と話すとき、住んでいる地域特有の表現をふくんだ言葉づかいをしている。これを「方言」という。そこに住む人々の気持ちや感情をぴったりと言い表すことができる。

・共通語の定義

東京書籍	テレビやラジオのニュースの言葉のように全国的に使われ、どの地域の人たちにも通じる言葉を共通語という。
学校図書	新聞で使われている言葉や、テレビのアナウンサーが話している言葉のように、全国のどの地方の人たちにも通じる言葉を共通語という。
三省堂	テレビやラジオのニュースの言葉のように全国的に使われ、どの地方の人にも通じる言葉。
教育出版	全国のいろいろな地方の人が、意思を伝え合うために使う言葉。
光村図書	どの地方の人でも分かる言葉づかいも必要。これを「共通語」という。

・方言と共通語の使い分けについて

東京書籍	どの地域の人たちとも話し合えるように、共通語を身につけることは必要だが、自分たちの土地の方言も大切にしていかなければならない。
学校図書	親しみや本当の気持ちをうまく表現するためには、うまれ育った土地の方言は必要である。反対に、大勢の前で発表したり話したりするときは、共通語を使う方がふさわしい。
三省堂	はっきりとした説明は見られない。

教育出版	はっきりとした説明は見られない。
光村図書	方言と共通語は、どちらも大事なもの。それぞれの特徴をよく知り、相手や場面によって使い分けるようにする。

・教科書会社 5 社の比較表（小学校）

比較項目	東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
方言の定義	○	○	○	○	○
共通語の定義	○	○	○	○	○
方言と共通語の使い分け	△	○	×	×	○
県名（地域・地方）を挙げている	○	○	△	○	△
アクセント	×	○	○	○	×
ページ数	2	4	4	2	1

※○…はっきりとした説明が見られる。

×…はっきりとした説明が見られない。

△…比較内容に触れているが、はっきりとした説明は見られない。

2.3.2 中学校 教科書比較

・方言の定義

東京書籍	ある地域の言葉が、こうした違いをいくつも持ち、他の地域の言葉とは異なる場合、その言葉を、「(その地域の) 方言」という。
学校図書	はっきりとした説明は見られない。
三省堂	それぞれの地域の人々の間で使われることばが方言。
教育出版	地域によって違いがみられる言葉を方言という。
光村図書	語句・表現、文法、発音などに、地域ごとの特色が表れた言葉を方言という。

・共通語の定義

東京書籍	どこでも通用するようにと、主に東京の言葉をもとに作られてきた言葉で、「(全国) 共通語」という。
学校図書	はっきりとした説明は見られない。
三省堂	どこでも、誰とでも通じるようにと考えて生まれたことばが共通語。
教育出版	共通語は、東京の山の手の言葉をもとにつくられたといわれているが、東京の言葉には、もともと近畿地方の言葉が入っていたという。
光村図書	日本全国、どの地域の人にも通用する言葉が必要になる。このような言葉を共通語という。

・方言と共通語の使い分けについて

東京書籍	共通語が改まった場合で使われるよそ行きの言葉であるのに対し、方言は、生活に密着したふだん着の言葉だといえる。例えば、家で家族と話す場合には方言を使い、町でよそから来た知らない人と話すときには共通語を使うといったような使い分けが行われている。
学校図書	広く多くの人々と付き合うには、全国共通語を身につけなければならない。生まれ育った土地の言葉を持っている人は、二重に恵まれていると言うこともできる。
三省堂	多くの人は、方言と共通語の両方を使い分けて生活している。
教育出版	現代の人は、方言と共通語を、相手や場面によって使い分けているのが一般的である。
光村図書	日本全国で使える共通語をしっかりと習得すると共に、ふるさとに受け継がれてきた方言を、これからも大切に守っていききたい。

・教科書会社 5 社の比較表（中学校）

比較項目	東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
方言の定義	○	△	○	○	○
共通語の定義	○	△	○	×	○
方言と共通語の使い分け	△	×	○	△	△
県名（地域・地方）を挙げている	○	○	○	○	○
アクセント	△	×	○	△	△
ページ数	2	2	2	4	2

※○…はっきりとした説明が見られる。

×…はっきりとした説明が見られない。

△…比較内容に触れているが、はっきりとした説明は見られない。

2.4 「方言と共通語」 小学校研究授業

2015（平成 27）年度から、総合的学習の枠組みを超えて、国語教育の授業実践を開始した。まず、手始めに研究授業の実績の多い津軽方言を扱い、小学校の現場の先生方と協力して、指導案を作成し、研究事業を行った。

研究授業は八戸市立湊小学校の川村洋校長先生・比内信二教頭先生・5 学年主任横濱睦子先生・5 年 2 組担任野里貴広先生、黒石市教育委員会指導主事庭田瑞穂先生のご協力を得て、津軽方言と南部方言を素材として行った。学習指導要領の改訂に伴い、特定の方言だけでなく、教材や教育方法の一般化のための試験的取り組みとなった。また、昨年度に引き続き、津軽方言と南部方言を素材として、児童の反応や、新しい学習指導要領で求められている方言と共通語の役割や使い分けなどが理解させるか等の検証を兼ねて研究授業を行ってもらった。庭田先生の授業に学生が、児童のグループワークのリーダー役として授業に加わって活動した。

詳細は以下のとおりである。

1. 期日：9月26日（木）
2. 授業者：庭田瑞穂先生（黒石市教育委員会）
3. 開催校：八戸市立湊小学校
4. 参加児童：八戸市立湊小学校 第5学年（42名）
5. 参加学生氏名：一戸萌里、工藤沙蓮、今夏美、
佐藤敬太郎、中澤安里、成田元希、三浦紗椿



授業者の庭田瑞穂先生、湊小学校の川村洋校長先生、比内信二教頭先生、5年担任横濱睦子先生、野里貴広先生には貴重な時間と学びの機会を設けて頂いた事に感謝する。

次から、八戸市立湊小学校における「第5学年 国語科学習指導案」、授業内で用いたワークシート、発問と児童の答え等を示す。

授業の指導案

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成29年9月28日（木）

対 象 八戸市立湊小学校 5学年

授業者 庭田 瑞穂

- 1 単元名 自分の意見を伝え合おう～方言は必要か不必要か～
- 2 学習の中に位置付けた言語活動について

本単元では、私たちが日常使っている話し言葉に着目し、その意味や意義について意見を交流し合うという言語活動を行う。意見を交流するという言語活動をとおして、子どもたちが、必要感をもって自分の考えをもち、自分の考えを伝え、相手の考えを聞くことができるようにしていく。子どもたちが主体的に考え、互いの意見に耳を傾けることができるようにするため、子どもたちにとって最も身近な話し言葉である「方言」を意見交流の教材として取り上げる。

方言についての学習は、地域によって異なる言葉があることや、共通語と使い分けるといったことなどについては、教科書教材に書かれている内容を基に各校でも学習されている。しかしながら、自分たちの地域の方言の意味や意義について深く考える機会は少なく、知識としての学習で終わることが多い。そこで、これまでにない視点で自分たちが使っている方言について考え、意見を交流する場を学習の中に位置付ける。このことによって、子どもたちの方言に対しての認識が変わるものと考え。日常生活の言葉を取り上げることで、子どもにとって必要感のある学びがいのある学習の場にしていきたい。

本授業は、5年生2学級全員が共に学ぶという貴重な時間である。日常あまり意見を交流したことがない子どもたちもいることが考えられるが、一つのテーマについて語り合うことをとおして、それぞれの考えに触れることで、学びの協働体としての認識をもつことができるようにしていきたい。

3 単元について

(1) 児童について

青森県には、複数の方言があるが、広く知られているものとしては、津軽方言と南部方言がある。同じ県内の方言ではあるが、単語やイントネーションに大きく異なる面が見られる。子どもたちは、津軽においても南部においても、日常、自分たちが使っている言葉に関しては、方言であることへの認識が薄く、共通語を話しているような意識をもっている子どもも多い。実際、方言特有の単語を使っている子どもは少なく、周囲の家族や地域の人々が使っているという意識である。しかしながら、実際は、特有の単語は使用していないものの、方言特有のイントネーションで話している子どもがほとんどである。このことから子どもたちの方言に対しての認識は、共通語とは違う物の名前や語尾に特徴があることといった言葉の違いといったものであると考えられる。

子どもたちに方言の存在について尋ねると「大切であり、なくさないようにしなくてはならない」という回答をすることが多い。この回答は、これまで学んだ知識や周囲の環境から感じるあまり理由の明確ではない表層的な意識を言葉にしたもののように感じる。方言について深く考えることのない環境にいる子どもたちにとっては、精一杯の答であるように思う。そこで、本単元の学習をとおして、これまでもっていた方言についての子どもの概念を揺さぶり、新たな認識を生みだせるようにしていきたいと考える。

(2) 教材について

本単元では、青森県の方言である南部方言と津軽方言、そして沖縄、京都の方言

を取り上げる。方言については、ある地方だけで使われる言葉であり、いろいろな地方の人が、意思を伝え合うために使う言葉を共通語ととらえ学習を進める。

南部方言、津軽方言については、青森県内で話されている方言の総称であるが、地域によって言葉自体やイントネーションの特徴が異なる。同じ南部方言、津軽方言であっても、地域によって用いられている名詞やイントネーションは同じではない。本単元では、子どもたちが住む湊小学校に通っている子どもたちが話している南部方言にスポットをあてて学習の中で取り上げていく。

子どもたち自身は、自分たちが話している言葉が南部方言という方言であることを強く認識はしていないと考えられる。実際、南部方言について改めて考えるという機会は少なく、教科書教材において、各地域の言葉を学び、共通語との違いや使い分けが必要であるということが取り上げている程度であると考えられる。

本授業では教科書教材を用いての学習ではなく、日常の言葉である「方言」とそれを使う私たち「人」を教材に学習を進める。

(3) 学習指導要領との関連

本単元は、以下に示す第5学年及び第6学年の「話すこと・聞くこと」の目標を達成するために設定したものである。

〔A 話すこと・聞くこと〕

第5学年及び第6学年

- (1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

また、この領域で学習する本単元の指導事項は、以下の通りである。

〔A 話すこと・聞くこと〕

- ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
- エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。

上記の目標を、単元をとおして達成することができるよう、指導事項を網羅した言語活動を位置付けながら学習を進めていく。単元の中で、「方言は必要か不必要か」というテーマで意見を交流することで、「話すこと・聞くこと」の能力を養っていくようにする。

4 指導の手だてについて

子どもたちが興味をもって方言のもつ意義や役割について主体的に考えることができるように、次の三点の手立てを講ずる。

一点目は、方言の言葉として身体語彙を取り上げることである。身体語彙は日本各地においてその土地ならではの言葉で表されていることが多い。逆に言うと、距離的には離れていても同じような言葉で言い表されていることもある。言葉の成り立ちと地理的歴史的背景からも子どもたちが方言を理解するに提示する最も適切な言葉と考える。

二点目は、方言の意味や意義を考えるにあたって共通語との比較を行うということ

ある。全国どこでも理解される言葉である共通語と地方独特の方言を比較することによって、その存在価値について取り上げて考えるようにする。共通語と方言の両者を子どもたち自身、どのように使い分けるとよいのかを考えることで、方言のもつ意味合いを自分のこととして実感できるようにしていく。

三点目は、方言が必要であるかどうかを表層的な概念で語るのではなく、自分たちの方言の存在意義を考えて真剣に考え話す場を設けることである。日常、使われている方言について時や場、人にも着目しながら再認識することで、自分にとっての方言について考えを深めることができるようにしたい。

上記、三点の手立てを学習の中心に据え、子どもたちの言葉に対する興味関心を高めると同時にその価値も実感できるようにする。

5 単元の目標

- 自分たちが、どのように方言と共通語を使っているのかを振り返ることができる。
(国語に関しての関心・意欲・態度)
- 方言と共通語の違いや意味や使われ方などについて、理解することができる。
(話すこと・聞くこと ウ)
- 方言についてのお互いの意見を聞き合いながら、話し合うことができる。
(話すこと・聞くこと オ)
- 方言と共通語の使い方について考えることができる。
〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話 す・聞 く 能 力	言語についての知識・理解・技能
◇自分たちがこれまで使ってきた南部方言について振り返り、どのように使っているのかを考えている。	◇南部方言の特徴について、日常の会話の中から気付いたことや考えたことを話している。 (ウ) ◇地域によって異なる方言の特徴についてとらえ、その意味や意義についてお互いの意見を交流している。 (オ)	◇時と場に応じて共通語と方言を使い分ける必要性について、考えている。

7 単元の指導計画 (全2時間)

次	時	主な学習活動	指導のねらい	◇ 評 価 規 準 ◆ 評 価 方 法
一	1	・南部方言の特徴について考える。	・自分たちのふるさとの言葉である方言について再認識することがで	◇自分たちがこれまで使ってきた南部方言について振り返り、どのような言葉を使ってきたか考

			きる。 ・南部方言の特徴について、実際の言葉を取り上げながら意見を交流することができる。	えている。 (国語への関心・意欲・態度) ◆発言の様子・内容 ◇南部方言の特徴について、日常の会話の中から気付いたことや考えたことを話している。 (話す能力・聞く能力) ◆発言の様子・内容
	2	・青森県以外の地域の方言と南部方言の言葉とを比べ、その相違点に気付くことができる。	・地域によって、いろいろな方言が使われており、生きた文化の継承が行われていることに気付くことができる。	◇地域によって異なる方言の特徴についてとらえ、その意味や意義についてお互いの意見を交流している。 (話す能力・聞く能力) ◆発言の様子・内容 ◇時と場に応じて共通語と方言を使い分ける必要性について考えている。 (言語についての知識・理解・技能) ◆発言の様子・内容

8 本時の学習

A 1/2 時間目

(1) 題材名 南部方言の特徴を考えよう

(2) 本時の目標

- 自分たちのふるさとの言葉である南部方言に興味をもち考えを進んで発表することができる。

(国語への関心・意欲・態度)

- 南部方言の特徴について、お互いの考えを交流することができる。

(話すこと・聞くこと)

(3) 本時の展開

学 習 活 動	・教師のかかわり◎評価規準
1 日常、自分たちが使っている言葉について振り返る。	・家庭や学校で自分たちが使っている言葉について、テレビのアナウンサーや、他地域の方々が話している言葉と比べて考えるようにする。
2 学習のめあてを確認する。	
津軽から来た南部方言を知らない庭田先生に、南部方言について教える	

3 学習課題を考える。	・具体的な相手を明示することで、相手意識、目的意識を明確にもつようにする。
南部弁のベスト5を決めよう	
4 日常、使われている南部方言について振り返り、教えた言葉を決める。	・自分たちの地域の言葉である方言について、どのような特徴があるのかを考えるようにする。 ・自分が使っている南部方言や、家族や友達が使っている南部方言についても振り返るようにする。 ・個人で考えた南部方言をもとに、グループで5つ選ぶようにする。 ◎自分たちが、これまで使ってきた南部方言について振り返り、どのような言葉を使ってきたか考えている。 (国語への関心・意欲・態度) ◆発言の様子・ワークシート ・児童の発表した言葉を黒板にジャンル別にまとめる。
5 それぞれのグループでまとめたことを発表し合う。	・それぞれが出した南部方言を見直し、南部方言の特徴について考えるようにする。 ・津軽方言の特徴を示し、比べて考えるようにする。 ◎南部方言の特徴について、日常の会話の中から気付いたことや考えたことを話している。 (話す能力)
6 各グループで出された南部方言から、その特徴をまとめる。	◆発言の様子・内容
〔南部方言の特徴〕 ○南部方言には、共通語と同じ意味でも全く違う音の言葉がある。 ○イントネーションは、津軽方言とも共通語とも違う。 ○鹿児島方言に似ている。	

B 2/2 時間目

(1) 題材名 南部方言と他の地域の方言とを比べてみよう

(2) 本時の目標

- ・ 青森の方言と他の地域の方言を比べ、相違点について気付いたことを話し合うことができる。

(話すこと・聞くこと)

- ・ 方言と共通語の使い方について考えることができる。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(3) 本時の展開

学 習 活 動	・ 教師のかかわり ◎評価規準
1 津軽方言を聞く。 2 南部方言と津軽方言の似ているところや違うところについて気付いたことを発表する。 3 学習課題を考える	・ 言葉の違いに気を付けながら聞くように促す。 ・ 同じ意味であっても表現が異なる言葉やイントネーション、語尾などに着目して考えるようにする。
他の地域の方言と南部方言・津軽方言を比べて同じところや違うところを見付けよう	
4 沖縄と京都の方言と青森の方言とを比べてみる。 5 沖縄と京都の方言と青森の方言を比べて分かったことを発表する。	・ 日本地図を示し、日本の各地域で使われている方言について知っていることを話すようにする。 ・ 体の部分を示す青森の方言の意味を確認する。 ・ 沖縄・京都の方言をカードに書いて提示し、それぞれの意味と青森の方言とを比べ同じ意味を示す方言を、見付けることを説明する。 ・ 三つの地域の言葉を比べてみて似ているところや同じところについて自分の考えを話すようにする。 ◎地域によって異なる方言の特徴についてとらえ、その意味や意義についてお互いの意見を交流している。 (話す能力・聞く能力) ◆発言の様子・内容
方言には、同じ意味なのに音が全く違う言葉がある。	
6 方言の必要性について考える。	・ 方言が使えなくなった場合のことを想像させることで、方言の意味や意義を考えるようにする。 ◇時と場に応じて共通語と方言を使い分ける必要性について考えている。 (言語についての知識・理解・技能) ◆発言の様子・内容

授業内ワークシート①

月 日 ()

名前

学習のめあて

--

学 習 課 題

--

知っている南部弁

南 部 弁	教 え た い 理 由

授業内ワークシート②

学 習 課 題

--

南 部 弁・津 軽 弁	京 都 弁	沖 縄 弁

2.4.1 授業内における庭田先生の発問とそれに対する児童の発言・反応

以下は、4、5 時間目の授業での庭田先生の発問とそれに対する子どもたちの発言、反応について、また校長先生の南部弁、今村の発言、お手伝いさせていただいた学生の発言を録画した映像をもとに文字に起こした。発問を場面ごとに分けて示していく。

問…庭田先生の発問「」	庭田…庭田先生の発言
学生…学生の発言	今村…今村の発言
校長…湊小学校校長先生の発言	
児童…児童の発言	児童の反応→（ ）

※導入では、青森県の地図を書いて津軽と南部の位置を理解させた。

①「方言」ということばを知っているか

庭田：（黒板に方言を書く）聞いたことがある人？

児童 （ほぼ手を挙げる）

問 「(方言を) 説明できる？」(説明できそうな児童起立)

児童：その地方ならではのことば

児童：その地域のことば

児童：その地域（土地）で使われていることば

児童：その土地の人々の独特な言い方で、その土地の特徴

児童：その地域で昔から言われて続けていることば

児童：その地域で昔から伝わっていることば

②青森県の地域の方言について

問 「地域といたらここの地域（の方言）は？」

児童：南部弁（自信なさそうに言う）

庭田：弘前や五所川原や青森市の方言なに？

児童：津軽弁

庭田：みんなも津軽弁話してる？

児童：いいえ

庭田：ところで、津軽弁聞いたことある？

児童：ない

庭田：津軽弁っていったときに、どんなのが津軽弁か分かる？

児童：なまっている

庭田：どういうのがTHE津軽弁か聞きたくない？

児童：聞きたい（うなずく）

③学生による津軽弁の紹介

※学生（7人）が津軽弁を一つずつ紹介する。

先生のあとに続いて児童が何度か声に出して発音する。

学生1：津軽弁といえば、かちゃくちゃねー

庭田：かちゃくちゃねーって分かる？

児童：嬉しいだと思ふ

庭田（かちやくちゃねーの動作の例をみせる）

児童：やめてー

学生2：めごい

児童：可愛い（何度も発音している）（児童はわかっている様子）

学生3：わいは

児童：ハワイ

庭田：わいはってどのような時に使いますか？

学生3：驚いたとき

庭田：びっくりしたときだよ

学生4：わぁ、まんず、あずましいな

児童（全く見当がつかず、興味深そうに聞いている）

庭田：わぁ は二つの意味があります。

私っていうときもあるし、感情、心の声だよ

まんずは、ずいぶん、かなりって意味で

あずましいなは、気持ちいいという意味

私、ずいぶんと気持ちいいなあ、お風呂の中で

学生5：どんず

児童：目

児童：足

児童：心臓

児童：けつ

児童：おしり

児童：命

学生6：けっぱる

児童：頑張る

児童：引っ張る

庭田：なんでそう思った？

児童：ことば、音が似ているから

学生7：な

児童：名前

児童：あなた

庭田：津軽弁で言うと（自分を指し）わ、と（学生7を指し）な

④南部弁と津軽弁の比較

問 「THE南部弁ってことばないの？」

児童：めんこい

児童：おめな～

児童：捨てることを、なげるっていう

児童：暑いことを、ぬぐいっていう

庭田：津軽弁もぬぐいっていうの

児童（津軽弁と南部弁が同じものがあることに気づく）

問 「今日覚えたことってなんですか？」

児童：南部弁は聞き慣れているけど、津軽弁はあんまり聞かないから難しい

問 「津軽弁が難しいと思った人？」

児童（ほぼ全員が挙手する。）

⑤津軽弁の民話『あかいくし』を読み聞かせる

※前時の確認を行う

庭田：（あかいくしを取り出し）この中の津軽弁のお話を読みます

どんなお話なのか聞いててください。

『あかいくし』（庭田先生が読んだところ）

「なんげえはなしっこ（つがるのことばで）」

なんげえ はなしっこ しかへがな。

むらの はじれの くの ながさ

三万五千ぴぎんの か(・)が うまれだ。

——そどさ でたいじゃ ぶんぶんぶん。

——そどさ でたいじゃ ぶんぶんぶん。

そのとき とびらの ふしあなっこ

ぽろりこんど とれだ。

——よし こっから ではてやれ。

かこだじあ よろごんで

ちゃっこい ちゃっこい ふしあなっこがら

いっぴぎ ずんず、いっぴぎ ずんず

ではて いった。

——ぶーん ぶーん ぶんぶんぶん。

——ぶーん ぶーん ぶんぶんぶん。

——ぶーん ぶーん ぶんぶんぶん。

……かこだちあ みんな ではるまで

五ねんど 十三にち かかったどせ。

なんげえ はなしっこ しかへがな。

のはらさ　へびの　あなっこあったど。
あなの　ながさ　へびあ　ずっぱど　いだど。
へびの　あなこあ　ちっちゃがったがら
ずるらって　いっぴぎ　ではんど。
ずるらって　まんだ　いっぴぎ　ではんど。
ずるらって　まんだ　いっぴぎ　ではんど。
……へびあ　みんな　ではるまで
六ねんど　十六にち　かがったどせ。

なんげえ　はなしっこ　しかへがな。
やまの　ながの　と(・)ち(・)の　きさ
なん千　なん万って　みこ　なっただ。
そごさ　からすあ　とんできて
があって　ないだっきゃ
とちの　みあ　ひとつ
ぼたんって　おちだど。
まんだ　からすあ
があって　ないだっきゃ
とちの　みあ　ぼたんって　おちだど。
があってば　ぼたん。
があってば　ぼたん。
があ　ぼたん。
があ　ぼたん。
があ　ぼたん。
……とちの　みあ　みんな　おちるまで
十ねんど　二十三にち　かがったどせ。

—『あかいくし』を聞いた後—

問　「聞いててお話の内容分かった？」

児童(3割ほど頷く)

児童(7割ほど首を傾げる)

庭田：半分は分かった？

児童(手を挙げた人数は0)

庭田：半分よりは分かった？

児童(ほとんどの子どもが手を挙げる)

⑥グループでの活動

問　「日本全国で見ると他の地域には方言はあると思う？ないと思う？」

児童：あります(頷きながら)

問 「なんでありますって言うの？」

児童：テレビでよく聞く

問 「津軽弁、南部弁以外に何がある？グループで話し合ってみて！」(一斉に話し始める)

問 「どんなのが出た？」

児童(手を挙げて当てられてから答えていく)

児童：大阪弁

児童：茨城弁

児童：広島弁

児童：関西弁

児童：熊本弁

児童：沖縄弁

児童：博多弁

児童：京都弁

問 「上品で自分でも話せたらいいなあって言うものは？」

児童：東京弁

⑦方言の数え方

問 「全国に『～弁』ていくつあると思う？」

児童：47。47 都道府県だから

問 「47 よりも多いか少ないか」

児童(多いと思うに手を挙げたのがほとんど)

問 「70 よりはあると思う？」

児童(少ないと思うに手を挙げたのがほとんど)

庭田：今村先生に聞いてみたいんですけど方言はいくつあるんですか？

今村：数え方がたくさんあります。数限りなくあるというのも本当ですし、一番少ないのだと東日本と西日本と九州をひとつにして、沖縄を別にする 2 つ。それは、どこの方言を比べるか、比べる相手によります。例えば、同じ八戸でも、ここは湊小学校がある湊という地域だと湊弁ですよ。それは、この小さな地域だけど皆で話しているから。でもそれは、近くにある種差や鮫とかと比べてみると似ている。でもちょっと違う。ちょっと違うという風に考えれば、さっき言ったみたいに数限りなくある。でも、津軽弁と鮫と湊と比べると、鮫と湊ってよく似ている。津軽弁ほどじゃない

よ、そんな風には違うと思えば、鯨と湊は一緒に数えていい、ということになります。

なので、すごおーく大きく数えるか小さく数えるかによって数が違ってきます。

津軽弁・南部弁は一緒にいいという考え方もできますし、

鯨と湊は違うでしょという風に考えれば、分けることができるので、正直なところ、いくつというのは一つに決まらないですね

庭田：考え方によって数え方があるっていうことだ。

いっぱいあるということですね。

今日は皆さんに沖縄弁と京都弁と津軽弁・南部弁を比べてもらいたいと思います。

おんなじ日本人なんだから全然分からないことはないなんてことはないと思うんだけどちょっとやってもらいたいと思います

⑧津軽弁・南部弁で身体の部位について

問 「どんずってどこのことだっけ。」

児童：お尻(指差す)

問 「津軽弁でマナグって体のどこだと思う？」

児童：頭

児童：顔

児童：眉

児童：耳

庭田：体でいうと上の部分…

体のどこかというのと…目のことなんです。

児童：目？(驚いた反応をしている)

庭田：校長先生に聞いてみましょう。

南部弁だと目は何と言うんですか？

校長：マナグ、同じです

児童：え？え？

児童：えー

児童：知りませんでした

問 「ペロは？」

児童：舌

問 「なんで知ってるの？」

児童：普通に言う

庭田：ということは南部弁でも…同じ

児童：同じ(庭田先生と同じタイミングで話す)

問 「ナズキは？」

児童：え？

児童：知ってる、けど思い出せない

児童：ナズキってなんだっけ

児童：顔？

児童：でこ？

児童：上？下？

児童：額！

庭田：あ、当ってる人いる！（額を指さしながら）

それでは校長先生に聞いてみましょう

児童(身体を校長先生に向ける)

校長：ナズキは一緒。さっきのベロは南部弁で唾のことなの

問 「ヘンジャカブはどこ？」

児童：へそ！

児童：足

児童：膝

児童：つまさき

庭田：ヘンジャカブは膝(膝を指さしながら)

じゃあ、校長先生に聞いてみましょう

校長：ヘチャカブ

児童：イントネーション違う

庭田：似てるけど…(児童を見て)

児童：違う(庭田先生の合図を受けて)

問 「アグドはどこだ？」

児童：あご

庭田：アグドはかかと(かかとを指さしながら)

校長：アグドです。アグドいだい

児童：聞いたことない(驚いた表情)

問 「比べてみてわかることは？」

児童：似てる

児童：同じ

⑨ことば当てっこゲーム

問 「ここでチームで言葉あてっこゲームです！」

児童：いえーい！（はしゃぐ）

—ゲームの内容説明・作業中の児童の様子、発言と答え合わせ—

問 「京都弁と沖縄弁だとどちらの方が理解しやすい？」

児童：京都

児童：沖縄は難しい

⑩方言はなくした方がいいと問いかける

—沖縄県・那覇市の方言で桃太郎—

児童：ん？（聞きながら首を傾げる）

児童：え？

問 「（聞いてみて）すごくよくわかるでしょ？」

児童：えー！？（首を横に振る）

問 「不便じゃないですか？（地域ごとに言葉が違うと）」

児童：話が通じない

児童：理解できない

児童：何言ってるか分からない

問 「不便なら、方言なんて禁止・やめちゃえ。イントネーションも禁止。

日本全国みんなが分かる共通語でお話ししましょう。」

児童：えー…（戸惑ったように庭田先生を見ている）

問 「みんな、NHKのアナウンサーのような話し方をする。

これを総理大臣に言って案を出してもらおうってのはどう？」

児童：いやです

児童：え…（首を横に振る）

問 「みんな不便って言ったじゃん。」

児童：方言はその地域の特徴だから

児童：その地方の伝統みたいなものだからそれがなくなったら面白くない

児童：すぐには直せないし、話すのには使い慣れてる言葉だからそれを急に变えることは出来ない

児童：昔からある言葉だから受け継いでいきたい

⑪まとめ

庭田：今、大事なことを言ってくれましたよね。

(方言は)地域の言葉であって、無くしちゃいけない、伝統なんですよ。

でも、そんな言葉がだんだん少しずつ無くなってきているような気がしませんか？

言葉って、人がやはり受け継いでいかなきゃいけないことだよ。

君たちの地域にも南部弁という言葉の宝があります。

それは本を読むだけだったら分からないでしょ。聞いてみなきゃ分からないよね。

それを繋いでいくのはもう先生たちじゃない。君たちの時代です。

何年か後にこの南部弁という言葉の宝がこの湊にも残っていたら

うれしいなって思います。

2.4.2 湊小学校5年生の感想文について

「おしえてくれた先生へ」

ぼくは、方言などをすこしもしらなかったけど、メーやミーなどの沖なわべんや、いろいろな方言があったのでおもしろくていい勉強になりました。最後のゲームでは、京都べんと沖なわべんをあてるゲームがたのしかったです。ぼくは、この勉強ですごく方言が大切なものだということがわかりました。またあえるのをまっています。方言の勉強をおしえてくれてありがとうございました。

「方言と共通語について」

今日、私は、方言についてたくさんの事を知りました。津軽弁、南部弁、沖縄弁などの方言、京都弁と沖縄弁と津軽弁と南部弁のちがいについてよくわかりました。この勉強があったことで方言の大切さ、グループと話し合う大切さを学びました。私は方言は地域の特ちょうなので、もしも、方言がなくなりみんな共通語だったら、おもしろくないし、昔から伝わってきたことがとぎれてしまうのでだめだと思います。

「教えてくださった先生方へ」

わたしは、方言がぜんぜんわからなくて、できるかなと心ばいでした。方言は日本各地のどくどく言葉で4時間目のつがる弁がなにを言っているのかを想像していました。5時間目に沖縄弁、京都弁、南部弁、つがる弁で沖縄弁と京都弁で想像とは全くちがいました。南部弁とつがる弁は、ほとんどわからずおぼえやすかったです。一文のつがる弁があり、おどろきました。おじいちゃんとおばあちゃんも使うときがあって、何をしゃべっているのかわからなかったけど方言の勉強をしたのでまだまだ調べたいことがたくさんあるのでいろいろ方言を調べたいと思いました。方言を教えてくださいありがとうございました。

「大学の人へ」

日本、いろいろな、方言を学習して、日本には、いろいろな方言があることがよくわかりました。たのしく学習できたのでとてもよかったです。とてもむずかしい言葉が多くて、

いろいろな言葉が外国語に聞こえました。でも最後には、どんな言葉かがわかったので、とてもスッキリしました。とても楽しく、おもしろく学習できたのでとてもよかったです。ありがとうございました。

「方言を学習して分かったこと」

ぼくは、方言を学習して、かご島弁や沖なわ弁とか知らないのがたくさんありました。また沖なわ弁と京と弁の方言を探すゲームで沖なわ弁が全てたてぼうがついているのかなと思ったけどちがったので残念でした。あと青森県内に2つの違った方言があったのでびっくりしました。それに同じ読み方でもイントネーションがちがったり同じ読み方でイントネーションがちがった物もあってびっくりしました。もっとちがう地方の方言も知りたいなと思いました。今日は方言についておしえてくださりありがとうございました。

「方言の学習をして」

わたしが面白いなと思ったことは、同じ日本人なのにちがう県の人同士が方言で会話すると、意味が通じないということです。南部地方と津軽地方の方言では、同じ意味の言葉でも発音の仕方やイントネーションがちがうということが分かりました。また、今は、ひょう準語を話す人が多くなり、地方の言葉がうしなわれつつあることも知りました。わたしは、青森県の地方の伝統的な言葉を忘れずに、南部弁のおもしろさなどを、青森県の方言を知らない人に教えたいと思いました。そして、他にもたくさんある方言を本などで調べてみたいと思いました。今日はわたしたちに方言について教えてくださりありがとうございました。

「楽しかった方言学習」

ぼくは、方言のじゅ業をして、いろいろな方言があって何をしゃべっているのか分からないところもあったけどすごくたのしいじゅ業でした。方言ではきょうと弁があってさいごのゲームでは、友だちといっしょに考えてあっている問題が3つくらいしかなかったけどとてもたのしいじゅ業でした。ぼくのはんの先生もいろいろなことをてつだってくれてありがたいと思いました。そして方言の意味が分かる方言もあってとてもたのしかったです。とちゅうほんの話のときに、ぼくのほうに本にでてくる虫がぼくの方にもきて、とてもおもしろい本だったのでその本を買ってよみたいと思いました。今日の方言の学習は分かりやすくておもしろかったのでとてもいいべんきょうになりました。ありがとうございました。

「方言の勉強をして」

わたしは、津軽弁、南部弁が似ているということを知りました。「方言」の意味も知れてよかったです。みんなで話し合い、意見がぶつかりあったけど、意見がまとめられました。結果は、ほぼ反対でした。京都弁も沖縄弁もむずかしかったし、最後に、聞いた話もむずかしかったです。だけど方言は、大事だなと、勉強してわかりました。今日2時間ありがとうございました。

「方言の学習をして」

ぼくは、方言の学習をしてわかったことは、同じ県の中でも、言葉がちがうことが分かりました。その場所によって、言葉に特ちょうがあることを知れたのでよかったです。あと、南部弁やつがる弁は、アグトなどと同じ部分があることが分かってよかったです。あと、方言が数限りなくあることを知れてよかったです。最後のどこの方言かあてるクイズで、目、舌、おでこの三問を全て、京都弁と大阪弁を逆にしていたのでおしかったなあと思いました。二時間方言を教えてくださいありがとうございました。

「おもしろかった先生方へ」

わたしは、「方言と共通語」という勉強で、たくさんのことをまなびました。一つ目は、つがるの言葉、「つがる弁」というのです。「な」というのは相手を意味することや「けっぱれ」は、がんばれという意味を覚えました。二つ目は、日本全国の言葉です。まず、「南部弁」と「津軽弁」、そして「京都弁」や「大阪弁」、「関西弁」、「沖縄弁」、「広島弁」などなどたくさんあって、びっくりしました。聞いたことない言葉もたくさんあったのですごくたのしかったです。方言というのはそこの地いきのとくちょうがあつたのですごくたのしかったです。方言というのはそこの地いきのとくちょうがあつて、すごくいいと思います。きちょうなお時間をたくさん取ってもらって、ありがとうございました。勉強も楽しくておもしろかったです。本当にありがとうございました。

「方言を覚えて」

今日は、方言をおしえてくれてありがとうございました。わたしは今まで方言をあまりきにしていませんでした。でも、この勉強をとおして方言をきにすることができました。方言はいろいろないい方がありその県内でちがうことがわかりました。とくに津軽弁と南部弁はにているようでにていない。そして同じ言葉の使い方もあるということを知りました。これからも方言を大切にしていきたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。

「方言の学習をして」

わたしは、今日の「方言と共通語」の学習で、日本全国の方言は、数限りなくあるということを始めて知りました。わたしは、方言の種類は、南部弁、津軽弁、大阪弁、関西弁の他に種類があるということは知りませんでした。ふだん身近にある方言でもあまり知らなかったりしていたのでびっくりしました。また、他の地方の方言と似たりしている、方言の種類があつたりしていてもっと方言の勉強を試みようと思いました。今、言われている方言もあまり聞かなくなっています。南部弁以外の方言がなくなるのはさびしいです。だからわたしは、今言われている方言を次の世代へと語り継いでいきたいです。

「方言の授業で学んだこと」

ぼくは、方言の授業からたくさんを学びました。まず、方言は考え方によって三つに分けたり数えきれないほどあつたりさまざまでした。ぼくは細かく分けたいです。アグドやベロなど南部弁と津軽弁ではにている言葉や同じ読み方、意味がありました。同じ県

内だからかなぁと思いました。またなまりを無くしたらその地方でわかり合っている言葉をなくしたらその地方の人達もこまるので残し、受けついではしいと思いました。今日は本当にありがとうございました。

「方言の授業で学んだこと」

わたしは、方言の授業をやって、わたしたちのすんでいる青森県以外の方言を今までほとんど知らなかったけれど、京都、沖縄の方言を知って、沖縄の方言の中には、全部のぼす音がつくのが沖縄弁ではなくて、自分の沖縄弁のイメージがちがったので全部が全部同じような言葉ではなく、その地方とくゆうの言葉でとてもおもしろかったです。他にも自分の知らなかった博多弁、京都弁、などがでてきてとても勉強になりました。今回の授業で方言の意味、言葉を知れて良かったです。本当にありがとうございました。

「びっくりしたこと」

私は、今日の二時間で「方言」には、たくさんの言葉と意味が分かりました。私はその中でも、沖縄弁にびっくりしました。言葉の意味が分からず、答えを聞いたときはびっくりしました。一番「チンシ」と言葉の意味が全く分かりませんでした。南部弁といっしょの言葉など、別の言葉などが分かって「方言っておもしろいな」と思いました。私は「方言」について学習して、まだ行ったことのない市、県に行ってどういう方言なのか聞いてもっと方言について知りたいと思いました。今日は一日ありがとうございました。

「方言の勉強で分かったこと」

ぼくは、方言の授業をして「な」などのつがる弁がしらなかったのでしたよかったです。この青森県ないでも大きく分けて2つのつがる弁、南部弁があることをしったし、2つでも似ていてもちがうはつおんやイントネーションや、言葉がちがってびっくりしました。とくにおどろいたのは沖縄弁というのもあって日本人だけと言っている意味がよくわからなかったりして、目のことを「ミー」などおどろきました。けど日本の言葉を一つにしてみるとその地いきの昔しかあったものがなくなってしまうということなどがわかりました。

「方言の学習について」

わたしはこの方言の勉強でいろいろな地いきでの言葉を学びました。その中で一番心に残ったことは、つがる弁の中では「かちゃくちゃね」の所がリズムみたいだったけれど本当は、イライラしているときに使うと聞いてびっくりしました。クイズのときには、まちがったところがたくさんあったけど最後には、いろいろな方言をおぼえられたので良かったです。おもしろかった方言は、どんず、ひじゃかぶやつがる弁の絵本です。最後ラジオで聞いた沖縄のももたろうの物語が聞いたことがなかったので予想しながら勉強できてよかったです。今日はおいそがしい中きてくれて本当にありがとうございました。また会えるのを楽しみにしています。

「方言の授業をして」

私は、方言と共通語の学習をして、心に残ったことは、方言の種類のことです。日本全国何個の方言の種類があるのかといわれて、多くて50ぐらいかと思ったら、方言の数え方によってちがうという答えで、びっくりしました。湊とさめのちょっとのちがいで、別々に数えたり、これぐらいのちがいで、同じくとらえる人もいと聞き、なるほどなと思いました。この学習は、分からないことがいっぱいあったけれど楽しい授業でした。おしえてくれた先生方今日は本当にありがとうございました。

「方言の授業で分かったこと」

わたしは、方言について学んで、3つの事を学びました。1つ目は、色々な方言があることです。津軽弁、関西弁、熊本弁、茨城弁、博多弁、大阪弁、南部弁などがあるのが分かりました。2つ目は、地いきによって、方言が全然ちがうことです。東日本、西日本と、日本は2つに分けることができ、東日本、西日本は、どちらも全然ちがう言葉でした。3つ目は、方言はあった方がいいという事です。庭田先生の言った、方言はない方がいいのではないかということが、あまり良くないんだなと思いました。他の人たちの発表を聞いて、「確かにあった方がいいなと思いました。わたしも方言を大人になったときに使って、方言の歴史を受けついでいこうと思いました。

「方言についての学習」

ぼくは、方言の勉強で心に残った事は、その地いきでの方言とは青森県での中という、つがる弁や南部弁のことだったということがわかりました。また、つがる弁や南部弁のことだったということがわかりました。また、つがる弁のどんずやナズキやナやわなどいろいろなこと覚えれたしぼくがしている弁はよったという言葉やはなっぱしという言葉です。よったは、ももたのことで、はなっぱしは、人間の顔についている鼻のことです。ぼくのうまれたところは、八戸で育ったところは、新ごう村という青森県の八戸からけっこうちかいところです。勉強をおしえてくれた先生ありがとうございました。

「方言の授業で学んだこと」

ぼくは、方言は、弘前と八戸は、南部弁と津軽弁でちがうから、何を言っているのか分からないと思ったけど似たような言い方や同じ言い方などの方言があって、分かったり、分かんなかったりしました一番心に残った事は、八戸からおくはなれた京都でも、舌のことをベロなどの同じような方言が使われていることです。でも、沖縄の方言はまったくちがいで、いろいろな方言があって楽しかったです。他にはどのような方言があるのか調べてみようと思いました。方言は分からない言葉もあるけど昔からあったりする言葉なので方言を大切にしようと思いました。授業で方言を考えてくださり、ありがとうございました。

「方言の大切さ」

わたしは、青森県の方言には、津軽弁・南部弁があり、少しのちがいが分かりました。沖縄弁・京都弁のちがいで、むずかしさも分かりました。同じ県でも方言がちがったり、ち

がう県だからこそむずかしかったりとその県ならではの言葉がありました。そして、方言の大切さを教えていただき、楽しい2時間になりました。本当に今回は、ありがとうございました。

「むずかしい方言」

わたしは、津軽弁をおしえてもらって初めて言葉が7この内に5こありました。同じ県内なのに、ぜんぜん意味がわかりませんでした。南部弁でも、校長先生におしえてもらわないとわからないのもありました。ちがう地方の言葉は、なにがなにかまったくわかりませんでした。私たちのはんは4つあたりました。京都弁は、すこしはわかりました。でも、沖縄弁は、ぜんぜんわかりませんでした。でも、おしえてもらって、ほかの方言をおしえてもらって、ほかの方言をおぼえることができました。おしえてくださってありがとうございました。

「方言の学習をして」

ぼくは方言の学習をしてたくさんの津軽弁を知ることができました。ほかにも京都弁や、沖縄弁などを学習しました。津軽弁で一番心に残っているのは、「カチャクチャネ」と「ドンズ」です。カチャクチャネは、イライラするという意味で、ドンズがおしりという意味でした。ほかにもいろいろあって、とても勉強になりました。どれもとてもおもしろい方言だなあと思いました。これからは自分でも津軽弁などを調べてみたいという気持ちになりました。とてもいい勉強になりました。

「方言は似ている」

私は、津軽弁と南部弁が似ている事に初めてしりおどろきました。まず、目は津軽弁でマナグ、南部弁もマナグで同じでした。南部弁と津軽弁どちらも知ることができました。そして次に教えてもらったのは京都弁と沖縄弁でした。京都弁の目は、ミー、沖縄弁はメー初めてだったので京都に行った時や沖縄に行った時ごねんばいの方に話をしたり聞いたりする時は、今日学んだ事を活かしたいと思いました。その地いきによって「独特」な「方言」があり、その伝統をつないでいきたいです。今日は本当にありがとうございました。

「むずかしいけどおもしろい方言」

方言の学習で言葉の大切さや言葉の楽しさを学びました。その中でぼくが一番心に残った言葉は「けっぱれ」です。「けっぱれ」と応援してくれるとうれしいからです。おもしろい先生方でいろいろ発表できました。方言の楽しさおもしろさを感じ、方言がなくなるといやだ、おもしろくないという感情がこみ上げてきました。すこしむずかしいけれど、方言を少しでも使ってみようという気持ちになりました。京都弁や沖縄弁、南部弁、津軽弁などを楽しく教えてくださった先生方ありがとうございました。

「楽しかった先生方へ」

ぼくは、方言と共通語でいろいろなことを学びました。たとえば、津軽弁や南部弁、東京弁、京都弁、沖縄弁などいろいろありました。いろいろな弁はいくつあるかきかれたとき、47以上と、70以下かと思ったら、かぞえきれない数あるといっていました。一番心に残ったことは、津軽弁や、南部弁はにていたけど、沖縄弁と、京都弁は、ぜんぜん言葉がちがいました。京都弁の目はデボチンかと思ったけどメーで、沖縄弁でメーかと思ったけどミーでした。このように、同じ意味でも、言葉はちがうことが分かりました。本当にありがとうございました。

「忘れない！」

私は、方言の勉強をして、南部弁でも、分からない言葉がたくさんあってびっくりしました。そして、先生方から方言を忘れないようにしたいと思います。一番楽しかったのが表に、沖縄弁、京都弁の目、舌、おでこ、ひざなどはどこにあてはまるのかみんなではなしあってカードをすき間にあてはめていくときです！みんなの意見を出し合って多少間ちがったところもあったけどすごく楽しかったです。最後に、方言を教えてくれた先生方本当にありがとうございました。絶対にこのことは忘れません。また、どこかで会えるのを楽しみにしています！

「方言をおしえてくれた先生へ」

わたしが、まなんだことは、南部弁や、つがる弁とか、いろいろなしゃべる言葉をしりました。沖縄弁とかはじめてしりました。あとでちょっと南部弁を家の中でも言ってみたいです。あかいくしの本でちょっといろいろな弁でどくどくの意味をもつ言葉がおもしろかったです。茨き弁ははじめてしったのであたまにちょっとはいりました。最ごにやったゲームはちょっとわからなかったけど、けっこうおもしろかったです。ありがとうございました。

「教えてくださった先生方へ」

私は、方言の学習で、つがる弁、南部弁、沖縄弁、京都弁など地域によって方言の言い方がたくさんあるということが分かりました。南部弁でも知っている方言と知らない方言がありました。方言は、何種類あるかという質問では、いくつに分けるかによって、変わるとしっていたので、方言は地域ごとにそんなにちがうんだとびっくりしました。私は、この学習もとに、方言のことを調べてみたいと思います。つがる弁、南部弁、沖縄弁、京都弁を二時間教えてくださり、ありがとうございました。

「方言の学習をして」

私は、初めて知ったことがたくさんありました。方言の中で、一番心に残ったのは「な」と「わ」です。「な」はあなたと言う意味で、「わ」はわたしと言うことが知りました。「めごい」はかわいいと言う意味だということが分かりました。「めごい」という方言は、おじいさん。おばあさんから聞いたことがありました。あと、沖縄弁は、のぼす方言がだいたい多いということを知りました。CDで聞いた沖縄の方言は、英語みたいで、全く意味が

分かりませんでした。でも、京都弁は、むずかしかった方言もあったけれど、沖縄弁よりは、分かりやすかったです。今日の二時間、おいそがしいなか、ありがとうございました。

「楽しく教えてくださった先生方へ」

私は、この方言の学習で、日本にはさまざまな方言があることを知りました。津軽弁や南部弁は、少し似ていたけれど、京都弁や沖縄弁は南部弁や津軽弁とまったくちがっていて、おどろきました。沖縄弁は、日本の言葉でなく、外国の言葉に聞こえました。その地方の言葉がちがう地方では、食べ物の名前に似ていたり、言葉に似ていたりと聞いていてとてもおもしろかったです。とても楽しかったのは、沖縄弁や京都弁がどれかを当てるゲームでした。みんなで意見を話し合って、答えを出して、その答えがあっていたときがとてもうれしいし、楽しかったです。その地方の方言は、とても大切だということも分かりました。方言の大切さを教えてくれて、ありがとうございました。

「各地いきの方言のひみつ」

ぼくは、南部、津軽弁をそんなに気にしていなかったけど、庭田先生が、方言なんか、なくなってしまう。と、きいて、よくよく考えたら、方言がなくなったらいやだなあと思ったので方言は各地いきに必要なと思いました。先生方、わかりやすく、いろいろな方言を、教えてくれてありがとうございました。もし、その教えてくれた方言がやくにたつ時は、使ってみます。親にも南部、津軽弁のことを教えようと思います。

「地方ごとの方言」

わたしは、この学習をして、ふだん聞かない津軽弁でも聞いたこともある言葉があったし、南部弁と津軽弁では少しちがうのに、同じ言い方もあるということを学びました。津軽弁や南部弁、他の地方の方言について、興味があるので、もっと調べたいと思いました。あと、先生方ともっと学習したかったです。そして、もっともって方言のことを勉強したかったです。やさしく、明るく津軽弁や京都弁、沖縄弁などの方言を教えてください本当にありがとうございました。また先生方におあいしたいです。

「大学のみなさんへ」

私は、南部弁や津軽弁などのどくどくな言葉をあまり知らなかったけれど、2時間勉強して、いっぱいわかったのでとても勉強になりました。南部弁と津軽弁はあまりにていないと思ったけれど、にていたのでおどろきました。東京弁（京都弁？）や沖縄弁のゲームでは、沖縄弁は最後に「ー」がつくと思ったけれど、そうじゃないのもあったのでおどろきました。東京弁は南部弁とちょっとにていたところがあったけれど沖縄弁はむずかしくて全ぜんにていなかったのでおどろきました。この勉強をしてちょっと津軽弁がわかったのでこれから話したりしてみたいと思いました。教えてくれてありがとうございました。

「方言の言い方」

ぼくは、南部弁と津軽弁の方言語は、ちがうと最初は思っていたけど勉強をして少しにていると思いました。でも、地方によって方言言語は、まったくちがうということがわか

りました。京都や沖縄は、南部弁や津軽弁とちがって沖縄はむずかしい言い方で、京都は、少しだけわかりやすいということがわかりました。津軽の方言をもっと知りたいと思いました。本当にありがとうございました。

「未来へつながる」

まなんだつがる弁は、意味がわからなかったけれどだんだん意味がわかってきました。なのでもっとつがる弁をおぼえて話すことや大人になったら方言の研究をしてつなげたいです。その時もまだ方言がつかわれているとうれしいです。つがる弁やなんぶ弁をもっともっとふやしていきたいです。また方言の授業であえて勉強したいです。おしえてくれて本当にありがとうございました。またあう日までまちましょう。さようなら。

「はじめて知った方言」

ぼくはこの学習で、「方言とはたから物」ということがわかりました。印象に残った津軽弁で「ワイハ」が印象に残りました。理由は、とてもシンプルだったからです。そして言葉あてゲームで一番むずかしかったのが京都弁でした。沖縄弁や津軽弁は言葉のひびきの的に予想することができたけど、京都弁は、聞いたことなく、わからなかったです。でも大学生の人といっしょに考える事ができて面白かったです。ありがとうございました。この学習は忘れません。

「心に残ったこと」

私は、11年間すごしてきた中で津軽弁と、私たちの地方の方言、南部弁しか、知りませんでした。授業を受けて、いろいろな方言があるのだなと思いました。特におもしろいと感じたのが沖縄弁です。伸ばす言葉ばかりでおもしろいと思いました。私がこの授業を受ける前、おばあちゃんが南部弁で話しているのを聞き、「何いってるんだろう」「分かんないから、方言とかいらないし」と思っていました。でも、受けて、それぞれの地いきのとくちょうだし、「いやだなあ」とかではなく、今度は自分たちが受け継いでいけなくてはだめなのだなと思いました。そして、おばあちゃんにも、ほかにどんな方言があるのか聞いてみようと思います。私はこの授業を受け、方言の大切さを知りました。お教えていただきありがとうございました。

「教えてくれた先生方へ」

方言と共通語の学習で、方言の大切さや良さを改めて感じることができました。いろいろな地域の方言を聞いて、とてもたくさんの方言があることが分かりました。教え方も分かりやすく、むずかしい方言もあったけれど、楽しく学習することができました。

これからは、この学習を生かし、方言を大切にしながら生活していきたいと思いました。2時間も使って教えてくれてうれしかったです。本当にありがとうございました。

「むずかしかった方言」

ぼくは、つがる弁を聞いて、むずかしいなと思いました。南部弁も同じのがあると聞いてびっくりしました。おきなわ弁と京都弁をあてるクイズでは思っていたのとちがって

ました。方言はその土地の言葉を使っていて、自分たちには分からないけれど、その土地の人は分かるということが分かりました。日本にはたくさんの方言があつて、その土地で受けついでいかなければなくなってしまうので残していきたいと思います。先生方、方言についておしえてくれてありがとうございました。

参考文献

- ・文部科学省 学習指導要領「生きる力」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm
- ・国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス
<https://www.nier.go.jp/guideline/>
- ・文部科学省 (2008)『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社
- ・文部科学省 (2008)『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編 平成 29 年 6 月」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_2.pdf
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編 平成 29 年 6 月」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387018_2.pdf
- ・今村かほる (2004)「学習指導要領と小学校国語教科書」(1)『弘学大語文』vol. 30
- ・今村かほる (2005)「学習指導要領と小学校国語教科書」(2)『弘学大語文』vol. 31
- ・今村かほる (2008)「学習指導要領と小学校国語教科書」(3)『弘学大語文』vol. 34
- ・教育課程部会 国語ワーキンググループ (2016)「教育課程部会 国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて (報告)」
- ・今村かほる (2016)「消滅の危機言語」方言の伝承は知恵の継承」陸奥新報
<http://www.mutusinpou.co.jp/%E6%97%A5%E6%9B%9C%E9%9A%8F%E6%83%B3/2016/09/43259.html>
- ・北彰介 文・小堀友彦 絵『あかいくし：ふるさとのみんな』(1969) 津軽書房

※なお、調査のために利用した国語教科書は以下のとおりである。

小学校 (平成 27 年度使用開始)

東京書籍：『新編 新しい国語 五』531「方言と共通語」
学校図書：『みんなと学ぶ 小学校国語 5 年 上』533「方言と共通語」
教育出版：『ひろがる言葉 小学校国語 5 上』537「方言と共通語」
光村図書：『国語五 銀河』539「方言と共通語」
三省堂：『小学校の国語 六年』635「わたしたちの言葉」

中学校 (平成 28 年度使用開始)

東京書籍：『新編 新しい国語 2』827「日本語探検 1 方言と共通語」
学校図書：『中学校国語 2』828「言葉と生活・言葉と文化 相手や場面」
三省堂：『現代の言葉 2』829「ことば発見 2 方言と共通語」
教育出版：『伝え合う言葉 中学国語 2』830「言葉の小窓 1 方言と共通語」
光村図書：『国語 2』831「言葉 3 方言と共通語」

3. 語り部ネットワーク情報交換会・体験講座・講演会

3. 語り部ネットワーク情報交換会・体験講座・講演会

青森県内には、紙芝居や昔話の語り、読み聞かせなど、方言（津軽弁・南部弁）を用いて活動している団体や個人の方が多くいらっしゃる。方言に関わる活動をしている方々から、方言を継承していくために、きちんとした知識を得たい、他の団体がどのような活動をしているのか情報を交換したいというご希望が寄せられた。そこで、弘前学院大学では2015年4月12日に語り部ネットワークを立ち上げた。

2017年11月18日(土)、青森県総合社会教育センターにて、「発信！方言の魅力 かだるびや・かだるべし青森県の方言 2017」を開催した。今年度の特徴として、これまでは青森県内で活動を行っている人を対象に行ったが、今回はインターネット上で全国を対象に、方言を使った活動の情報を発信している方々を調査した。その結果、全国でも方言を継承していくための活動が行われていることが分かった。そして、各団体に声掛けし、ご協力のもと活動の情報を得ることができた。さらに、県外から足を運んでくださる参加者の方もいた。今年度の内容は、語り部情報交換会、方言紙芝居の体験講座、東京大学名誉教授上野善道先生によるご講演の3つである。

次第

○語り部情報交換会

趣旨説明とご挨拶 弘前学院大学 今村かほる

参加団体・個人による活動報告

○体験講座

方言紙芝居「一休さん」 日比俊介作

○東京大学名誉教授 上野善道先生によるご講演

「言葉の神秘と青森アクセント」

3.1 語り部情報交換会

まずこの会議の始めに、今村かほるによる「青森県の方言」についてのガイダンスが行われた。青森県の方言の区画や危機言語、それらに関する事業についての説明があった。情報交換会では、参加者一人ずつ所属団体の活動内容や今後の活動予定、団体立ち上げの理由などの情報を発表した。県外観光客への津軽弁でのガイドや、方言を使った紙芝居・読み聞かせ、青森県の昔っこを語るなど、各団体・個人で様々な活動をしていることが分かった。また、実際の生活や職場内で起こった方言の問題をお話してくださった方もいた。今回初参加の県外の方は、自身が行っている活動と、津軽弁を語るようになったきっかけをお話してくださった。各団体・個人で活動内容や目的は異なっていたが、方言を継承したいと思う気持ちは全員一致していることが分かった。それぞれの会がお互い情報を共有する有意義な時間となった。次から、今村の趣旨説明の資料を示す。



かだるびやかだるべし青森県の方言の会

語り部ネットワーク

2017

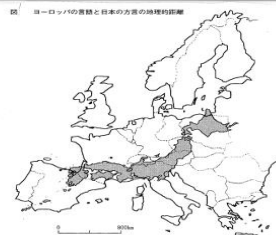


弘前学院大学文学部

教授 今村かほる

1

日本語は方言の差が大きな言語



2

日本語方言の区画



3

青森県の方言

方言区画

津軽方言
内陸部
海岸部
南部方言
下北
上北
三八



4

青森県の方言

方言区画

津軽弁と南部弁

藩境塚

津軽弁: 平内町
狩場沢
南部弁: 野辺地町
馬門



5

津軽弁と南部弁(代表的特徴)

津軽弁	南部弁
オドゲ(顎)	アギタ
メグセ(恥ずかしい)	シヨシ
雨降るハンデ(から)	雨降るスケ
マツコイ(眩しい)	マツボイ
犬タデル(飼う)	アズカル
雨降るビョン(だろう)	雨降るゴツタ
マネ(～しては駄目だ)	ワガネ

6

危機にある方言

ユネスコ(国連教育科学文化機関)

- 2009年2月
- 2500種の言語が消滅の危機
- 消滅の危機の程度・4段階
- 「極めて深刻」 538言語
- 「重大な危険」 502言語
- 「危険」 632言語
- 「脆弱」 607言語

7

4. 日本の危機言語

ユネスコが2009(平成21)年2月に発表した“Atlas of the World's Languages in Danger”に基づく、日本は、8言語・方言がその中に含まれている

【極めて深刻】: アイヌ語
【重大な危機】: 八重山語(八重山方言)
与那国語(与那国方言)
【危険】: 八丈語(八丈方言), 奄美語(奄美方言),
国頭語(国頭方言), 沖縄語(沖縄方言),
宮古語(宮古方言)

ユネスコが認定した、日本における危機言語・方言の分布図
http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/pdf/bunpuzu.pdf

8



危機言語への取り組み

琉球諸方言の記述・保存・継承

アイヌ語

アイヌ語の継承や、アイヌ語に関する知識の普及、啓発

→ 言語の記述、ラジオ放送、アイヌ語教室

危機言語の記述

・ **テキスト**、**辞書**、**文法書**という3点セット

・ 現在は録音資料の録音と活用 → web公開

9

10

東日本大震災と方言

- 被災や避難によりコミュニティの維持そのものが危機的状況にあり、消滅の危機にあると考えられる被災地域の方言について、

「東日本大震災からの復興の基本方針」

(平成23年7月29日)

「地域のたから」である文化財や歴史資料の修理・修復を進めるとともに、伝統行事や方言の再興等を支援する。

11

文化庁 危機言語事業

2012(平成24)年度

東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業

2013(平成25)年度から

被災地における方言の活性化支援事業

被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与することを目的

12

11

12

東日本大震災と方言に関する調査研究・方言の活性化支援事業

- 言語：人類数百万年の知的営みの結晶
- ある言語が消滅することは、貴重な人類の遺産の一つが永遠に失われること

↓

津軽の暮らし・南部の暮らしに基づいた方言は、地域の宝・生活の知恵そのもの

13

方言の保存と継承

青森県 国語科研究授業
語り部ネットワーク
南部弁の日

- 2017年11月 実践方言研究会へ発展

14

13

14

語り部ネットワーク

2016年から青森県のほうげんの会へ

- 語り部相互の情報交換
- 活動を知ること、自らのスキルアップ
- 仲間作り
- 相互交流
- 国語をはじめとした学校教育や社会教育への参加・貢献



15

15

方言を超えて

- 津軽弁・南部弁、そして県境を越えて岩手の南部弁の語り手と交流
- さらには、全国の語り手・語り部との情報交換や交流を目指し
- 点から線へ、線から面へ向かって活動していきます

16

16

国語教育への協力



17

南部弁の日

南部弁の最南端 釜石から

会長 砥谷伸夫



18

3.2 体験講座 方言紙芝居「一休さん」八戸工業大学4年日比俊介作

語り部の世代間交流をし、若手育成をしていくための試みとして、今年度新たに八戸工業大学4年生の日比俊介さんによる、自作の紙芝居に南部弁を用いた「一休さん」を上演し、研修した。日比さんの製作意図は、共通語と方言との比較をすることができる紙芝居を通して、昔話を方言化して伝えたいというものである。参加者からの質疑応答の場面では、南部弁の正しい発音の仕方や、絵についてのアドバイスがあった(詳細は71pから参照)。紙芝居のお手本として、普段から紙芝居を各地で披露している参加者の方が自作の紙芝居を用いて、工夫している点、注意しなければならない点などを解決した。絵をめくるスピード、声の強弱など、紙芝居を披露する際に重要なポイントを実演して見せてくださった。共通語ではなく方言を用いることにより、身近に感じられる紙芝居であった。方言を継承していくための手段の一つとして定義された。次から、日比さんの発表用スライドを掲載する。なお、紙芝居の部分は、ストーリーがわかるようにするために、オリジナルのものとは順序を入れ替えて示した。従来の紙芝居の文章一枚に対しイラスト一枚のように、対比しているわけではない。

「発信！方言の魅力 かたるびや・かたるべし青森県の方言2017」
2017年11月18日

方言の保存・普及活動に関する研究 —昔話の方言化—

八戸工業大学 感性デザイン学科
岩崎研究室
日比 俊介

背景

- 方言が絶滅する危機や、そうした絶滅の危機にある方言を保存する活動については、既に多くの言及がある。
- そのなかで、青森県や沖縄県、東北地方に関しては、まだ方言の残存率が高い地域であるとされている。
- しかし、地方の人たちの方言も、ここ最近ではテレビなどの影響により、標準語(共通語)に近くなってきている。

1

2

研究動機

- 自分自身が方言をあまり使っていないため、高齢者の人たちとお話をしていると、同じ地方に住んでいるのに話が通じない、聞き取れないなどと言ったことがあった。
- また、私たちの同世代を見ても、ほとんどの人が方言を使わないため、子供たちは私たち以上にテレビの影響などで方言からかけ離れていると思い、紙芝居を通して昔話を方言化して伝えたいと思った。

3

研究目的

- 標準語のテキストのある昔話を方言化することにより、標準語(原文)と方言との比較をすることができ、より方言がきわ立つ制作物。
- 方言を耳にする機会の減っている子どもに方言を読んだり聞いたりする機会を与えられ、読み聞かせる大人にも方言の理解を深めることができる教材を制作する。

4

研究目的

- そのため、方言を使った昔話を作ろうと考えた。
- 対象は、言語形成期(その個人が使う言語が確定される時期)にある3歳から10歳頃までとし、子供に親しまれそうな物語を選んだ。
- 現在、方言化しようと考えているのは、『一休さん』と、『つるのおんがえし』である。

5

参考資料

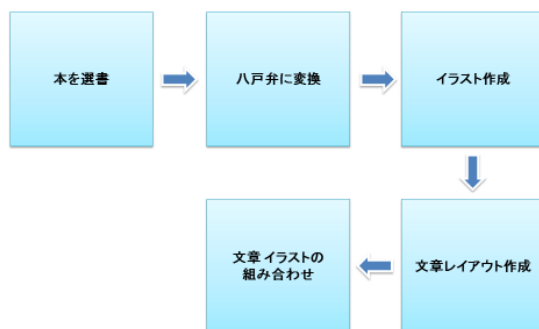
『一休さん』あかね書房
寺村 輝夫・文/ヒサ クニヒロ

『つるのおんがえし』偕成社
松谷 みよ子・文/いわさき ちひろ・絵

あのなつす南部弁CDを聞き、南部弁に関する理解を深めた。(桎谷伸夫氏)

6

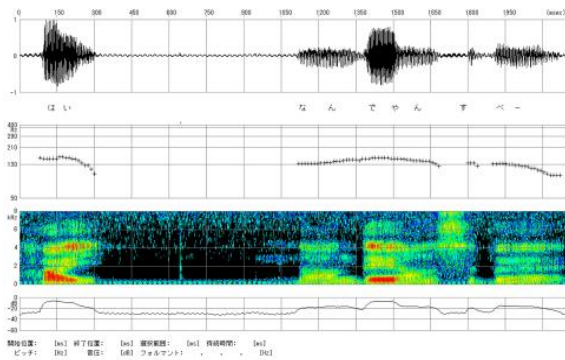
制作プロセス



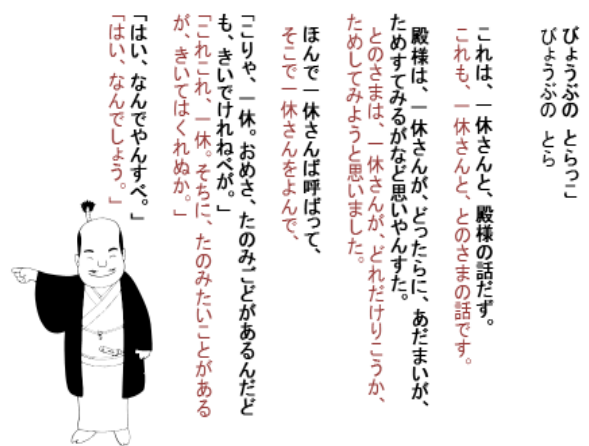
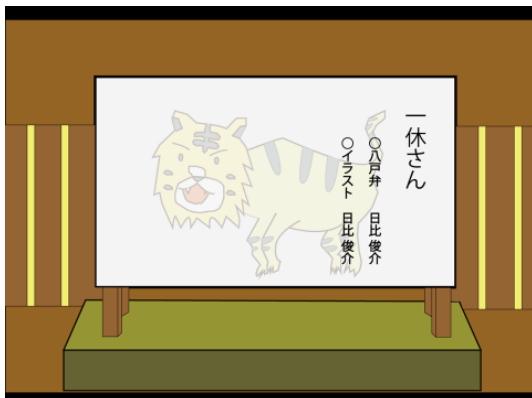
7



8



9



10

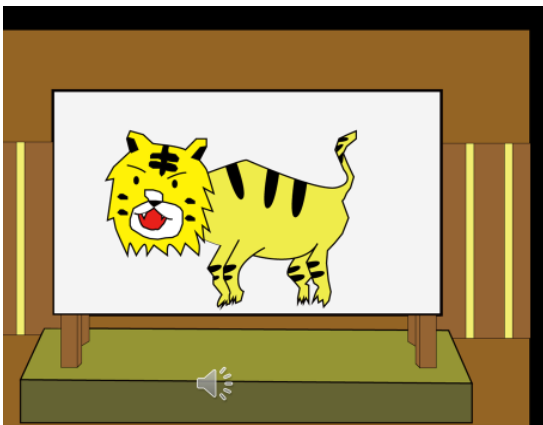
11



12



13

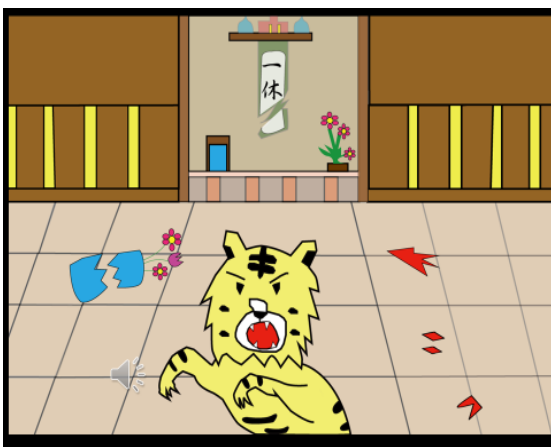


14

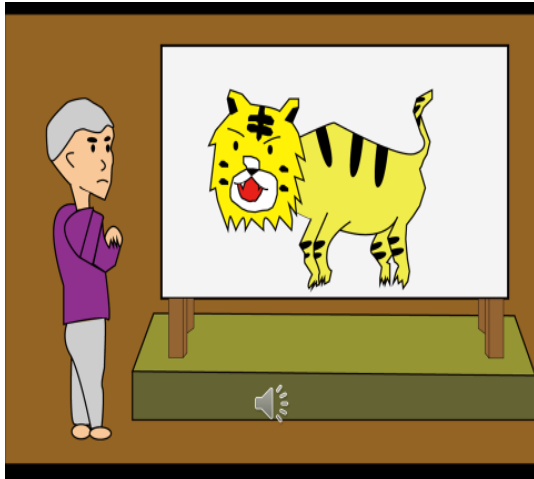


殿様は、床の間のすみこさおいである、びようぶをゆびさし
やんすた。
とのさまは、ひろまのすみにおいてある、びようぶをゆびさし
ました。
びようぶをば、トラっこがかいてあつたず。そのトラっこおっか
ねえかつこうで、とつかがつてきそんだ絵つたず。
びようぶには、とらがかいてありました。おそろしいかつこう
で、とひかがらうとしていた絵でした。
殿様は、
とのさまは、
「じつはあのよ、このトラよ。毎ばげ、屏風がらでできて、しろ
のながばあはれまわってわがね。ゆくですねんだじや。あ、
じゃわめぐ。一休。このトラとらは、あはれねように、しほりあ
げでくれねべが、たのむじや。」
「じつは、このとらじや。まいばん、とひだしては、しろの中を
あはれまわる。ふんどきものじや。一休。このとらを、あはれ
ぬように、しほりあげてはくれんか、のう。」

15



16



17



「休さんは、殿様にしゃべられると、ちゃっちゃと、たちあがり
やんすた。
「休さんは、いわれると、すぐにたちあがりました。
「かしこまりました。」
「かしこまりました。」
「では、このお話を聞いて、はちまきをしやんすた。
まず、てめえをとりだして、はちまきをしやんすた。
「んだば、トラッこはしほりあげるすけ、つなはかしてけろ。」
「では、このお話を聞いて、はちまきをしやんすた。」
殿様は、けらいにいっけで、つなをもてこさせやんすた。
このさまは、けらいにいっけで、つなをもてこさせました。」

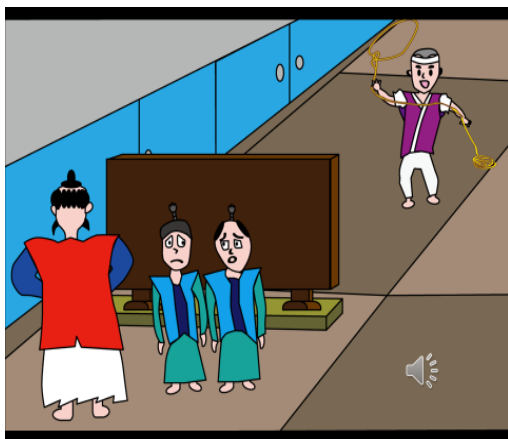
18



19

「休さんは、つなばうげとると、床の間のいずばん
おくのすみっこさ、さがりやんすた。
「休さんは、つなをうけとると、ひろまのいばん
すみに、さがりました。
「せば、これがトラッこはしほりあげるすけ。殿様ど、け
らいのかだちは、みなして、びょうぶのうしろさま
わつてくだんせ。トラッこあ、とひかがるといげやせん
から……。」
「では、このお話を聞いて、はちまきをしやんすた。このさま
や、けらいのかたがたは、みなさん、びょうぶのう
らにまわつてくだんせ。とらが、とひかがるといげま
せんから……。」
殿様は、へられたとおりにしやんすた。けらいのか
だがだは、このほうず、なにははじめるがと思つて、
はんかくせなと、にやけでわらつていやんすた。
このさまは、いわれるとおりにしました。けらいた
ちは、この小ほうず、なにをはじめるのかと、バカ
なやつだと、にやにや笑っていました。
「休さんは、足さ力いれでいきばつて、かまえやんす
た。
「休さんは、足をふんばつて、かまえました。」

20



21



「一休さんは、大してまじめだも。とらは、もちろん出てきやんせんですた。一休さんは、大まじめです。とらは、もちろん出てきません。」
「さでは、おじよんだな。トラッこあ、でこねな。」
「なでは、おそれをなしたか。とらめ、でこないな。」
「そうしやつてから、そういつてから。」

「やいやい、ゆぐですな、トラめ。わあ、殿様のいづげで、おめえはとつかまえてやる。それが、わさ、かがつてつかめえて、くうが。さあ、ちやちやど、でこー。しようぶだ。」
「やいやい、ふとどきもの、とらめ。とのさまのいづげで、おめえをしはらあげるぞ。それとも、このわたしをつつかまえてくいのろすか。さあ、でこいしようぶだ。」

22

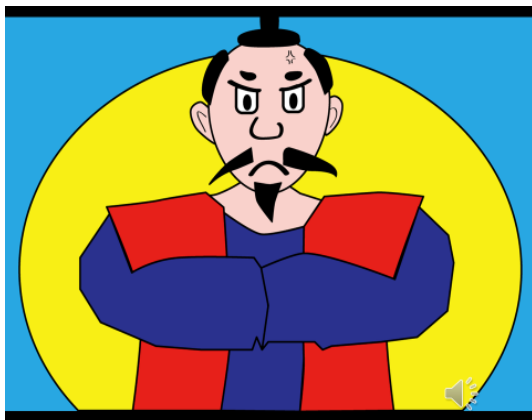
23



「びようぶのうらさいる、けらいのかだがだ、わさ、すけでけろ、そこでつけこえでさげんで、とらばおっぱらつてける。出でこねえど、しはれやんせんすけ。」
「びようぶのうらのけらいのかだがた、そこで大」
えあげて、とらをおいだしてください。出でこないと、しはれませんかね。」
「けらいんどは、どやへば出でくるてがと、まやまやして、こまりはでやんすた。」
「けらいたちは、出でくるわけないだろうと思ひ、どうしてよいかこまりました。」
殿様も、きもやげで、むんつけた顔さなりやんすて、とのさまも、おこりがおこなって、
「なにへつてらきや、一休。絵にかがさつてトラば、おいだせると思つてらのが。」
「なにをいうか、一休。絵にかいたとらが、おいだせると思ふか。」
そこで一休さんは、
そこで一休さんは、

24

25



26



27

「そんなばおがしな。さきた、お殿様、このトラが、毎ばげ、できてあばれまわるすけ、としゃべったんでねすか。ひとりすて、でくるんだば、けらいのかだちさ、おいだせねわげがねがんべ。」
 「それはおかしい。さきほどのとのさまは、このトラが、まいばんとびだしてあばれまわる、とおっしゃいました。ひとりでとびだすくらいなら、けらいのかたがたに、おいだせないわけがないでしょう。」
 「うーむ。」
 「うーむ。」
 みんなして、関心してしまいやんすた。一休さんは、つづげで
 みんなは、うなつてしまいました。一休さんは、つづけて
 「それでも、ばげさんねば、出で「ねのでやんすべか。へだば、今日のばげ、もういつけやりなおしするごとにするべが。」
 「それとも、ばんにならなと、出で「ないのしょうか。でしたら、こんや、もう一どやりなおししょうか。」

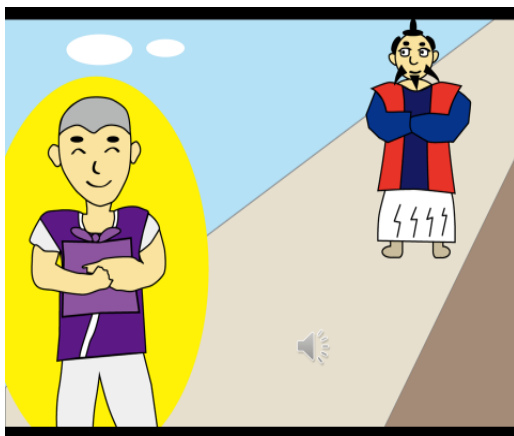
28



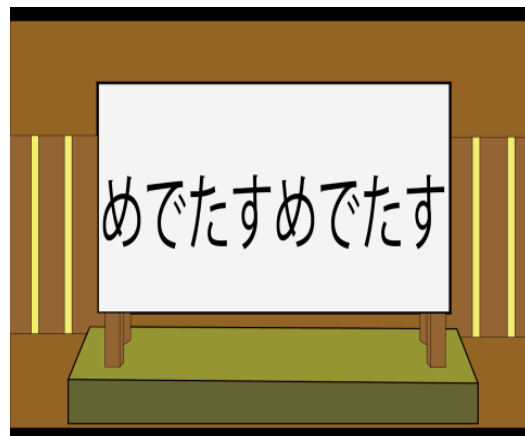
29

殿様は、すっかりかんしんすて、とのさまは、すっかりかんしんして、
 「もうよがす。やぐどしやべつてみだのだ、おらのまげだすけ。」
 「もうよい。わしのまげじゃ。」
 一休さんは、どうさど「ほうびつ」ばもらつて、おでらさかえりやんすたす。いがつたなす、めでたすめでたす。
 一休さんは、たくさん「ほうび」をもらつて、寺にかえりましたとさ。めでたしめでたし。

30



31



32

共通語を方言にした
紙芝居で伝えるメリット

方言と絵から共通語を
想像できる楽しさ。
会話が弾む、安心する。

- 演示者の声と絵に集中
- 言葉への興味
- 想像力を豊かに
- コミュニケーションを深める
- 驚きと発見



60 童心社

33

34

先行研究

紙芝居は、演示者と
観客が一体となれる

- ・ 櫛引洋一(2013)「提案3 津軽方言詩集『まるめろ』: 文学教材としての可能性(再検討 青森県出身作家の教材-太宰・寺山・方言詩-, 春期学会(第124回弘前大会))」『国語科教育』74 pp.11-13
- ・ 児玉忠(2013)「コーディネーターの言葉(再検討 青森県出身作家の教材-太宰・寺山・方言詩-, 春期学会(第124回弘前大会))」『国語科教育』74 pp.3-4

35

36

先行研究

- ・ 小西いずみ(2016)「主体的表現者であるための地域方言・社会方言の学習」『日本語学』35-2 pp.52-61 明治書院
- ・ 米田猛(2016)戦後中学校国語教科書における「日本語の特質」に関する教材の史的展開―「方言と共通語」に関する教材の場合―『富山大学人間発達科学部紀要』11 pp.21-37

37

体験講座（方言紙芝居）における質疑応答・助言

以下は体験講座で南部弁紙芝居を発表した日比さんと、紙芝居に対する参加者との質疑応答・助言と参加者Dによる紙芝居の指導を録画した映像を基に文字化したものである。

- ・岩崎…岩崎先生の発言 ・日比…日比さんの発言 ・榎谷…榎谷伸夫さんの発言
- ・今村…今村の発言 ・() …参加者の動きや反応
- ・参加者の発言は【参加者A～F】で表記する

※体験講座で日比さんが南部弁紙芝居を披露した後の質疑応答・助言の様子。

※質疑応答を場面ごとに分けて示している。

※敬称略

【岩崎】それではですね、急なんです、意見のある方からお願いしたいと思います。

【参加者A】最初のその絵ね、こう、ハッキリしない…その後に出てくる絵がすごくハッキリしてる。

【日比】色がですか？

【参加者A】うん。

【日比】こちら最初、表紙なので自分のこの字が読めるようにちょっと薄くしたんです。

【参加者A】わざと薄くしたのか。

【日比】そうです。わざとやって、虎の話だよっていうのを見せたくて最初薄くしました。

【参加者A】でももうちょっと濃く見せたほうが良いんでない？

【日比】はい。

【参加者B】もっと、子どもたちを惹きつけさせるだけの絵がないと紙芝居だと言えない。だけど、よく出来ました。

【日比】ありがとうございます。

【参加者C】まずその表紙の所ですが、字は筆文字にした方が良い。

【日比】筆文字？

【参加者C】それから、あなたの語りはもう少しゆっくり語った方が良い。紙芝居を昔、ちゃんと見たことがある？

【日比】本物はないですね。

【参加者C】紙芝居は、始める時に太鼓叩く。子どもを集めるために町内を紙芝居屋さんが、ドドン、ドドン、ドドンドドンドドン、と太鼓叩いて歩くと子どもたちは、『あ、紙芝居屋来た紙芝居屋来た！』ってして、その紙芝居を見に集まるんですよ。

【日比】はい。

【参加者C】パフォーマンスとして、太鼓も叩いてみたらどうですか。

【日比】ありがとうございます。

【参加者C】ついでだけど、紙芝居見る人は、みんな飽っこあげるんですよ。だから折角私達もいたのでください。

【参加者D】紙芝居を作ってる者として、少し納得できないです。発表ということで、そういう色んな研究発表としては素晴らしいと思います。しかし、紙芝居としてだけの意見だと、絵と脚本が合っていない所がかなりあると思う。ハテナ

マークと付いた所がありますよね。あそこの所が1番無駄な場面だと思います。私これ作り方を見てて思ったんですけど、脚本を作りますよね。そしたら自分の中で脚本を場面割りしますよね。その時に、脚本と大体のイメージの絵は同時進行のようにいくんですよ。脚本をやりながら自分でイメージを作って、そのセリフの所はどんな感じの場面かを当てていくんです。そうすると、すごく場面と脚本の中身が合わない所が何枚かありますね。あと、まだ話し終わって無いのにスッス行っちゃう。無駄な場面が多いなと思いました。これは今風の絵ですよね。これってパソコンの絵ですか？

【日比】 パソコンです。

【参加者D】 ですよね。なんか、あったかみがないというか。なのでさっき先生おっしゃったように、1枚目だけでも見せてあげても良いのではないかな。なんかの本を見てるような感じがして、紙芝居というイメージにはちょっと物足りない。一休さんのあの活躍が上手く伝わっていないようです。場面によってもあれ一休さんなの？って思います。なので一休さんも殿様も何の時代なのか、未来の一休さんと殿様かしら？とか。ちょっと一貫性がないような感じがする。ごめんなさいね、研究としてはすごく素晴らしいと思うし褒めてあげたいです。たださっき言ったように、私の紙芝居というのだけでお話をさせていただくと、そこらへんがちょっとあるかなと思います。まず1枚目から紙芝居を見ようと惹きつけられません。せっかく一休さんを見るぞという期待感がこのまず一枚目から伝わらないです。色んな紙芝居の作品を見ました？

【日比】 少し。

【参加者D】 紙芝居の絵と違ってある程度なにかあるんですよね。読みとかそういうのは全然後付けで良いんですけど、やっぱり紙芝居は絵なので、絵と語りの芝居なので、やっぱり絵がすごい気になってる。脚本とのすり合わせがちょっと合わないなと思います。ここらへんがうずうずしていました、ごめんなさい。

【日比】 いえ、ありがとうございます。

【参加者E】 同じようなことですが、方言で表現してるというのは、津軽弁で育ってる私にとってはこれが南部弁かって感じで伝わってきたんです。ですが、絵については私も、日本人だったら、それこそ一休さんといったらこんな感じっていう、もうイメージがあると思います。袈裟を着てるとか、すごくかけ離れてる部分がある感じがします。パソコンで絵を描くとかいう感じになるのは私わかってるんです。ああデザイン科だけあるな、とは思いますが。だけど、もともとある一休さんのイメージに近付けた方がもっと映えると思います。

【日比】 ありがとうございます。

【参加者E】 さっき、どの時代のお殿様だろうっていうのがあったんですが。

【参加者B】 それは小坊主ではないね。小坊主の着ているのがあるんですよね。和尚は袈裟着てるし、小坊主はもっと違うの着てるので、もう少し着るものとか背景に絵を入れた方が良いと思います。

【柗谷】 これでも制作の時は新しい一休さんを作ろう、21世紀の一休さんを作ろう、と思ってこういう形にしたのかな？

【日比】いえ、そういうわけではないです。

【柗谷】なんで、そういつてしてれば出来たのに。

【今村】日比さんから、この機会に皆さんに聞いてみたいこととか無いですか？

【日比】自分はイントネーション的には、どうだったかな？と思います。

【参加者B】駄目！よく頑張ったって言っても仕方ない、仕方ないのさ！何も僕らみたいに、ウン十年も生きてるわけでは無いわけだよ。

【日比】難しいなとは思いますが。

【参加者F】練習のために何回読みましたか？

【日比】10回くらいです。

【参加者F】ちょっと読み込みが足りないかなって。イントネーションに一貫性がないような気がします。それは仕方がないことだよねっていう風な事をおっしゃいましたが、やっぱり聞いている立場としては、南部弁の一貫性が無くって、時々きちんと標準語のイントネーションになって、また南部弁になってって、心が落ち着かない。子供たちの前で読んだらどういう風に子供たちは反応したのかな？という、そういう意味で何度目ですかって伺いました。

【参加者D】紙芝居においてはどういう風に練習なさってます？

【日比】練習はもう自分で。

【参加者D】この(紙芝居を舞台ケースに入れた)状態で？

【日比】この状態です。何か良い練習法とかありますか？

【参加者D】練習方法とすれば、まず最初から舞台(ケース)に入れない。まず自分のテールの上に置きます。

(参加者Dが日比さんのもとに来る)

【参加者D】こうなんですよ。絵の方を出して1番最後のやつを…あ…そうか…。

(日比さんの紙芝居と参加者Dの作成する紙芝居の仕組みが一致してなくて悩んでる様子)

【参加者D】紙芝居からいくと最後までセリフありますよね。そのセリフのやつを1番目に読むのを出すんです。『一休さん、はじまりはじまり〜』ってこう読みますよね。表紙が1番上に来てて、次、これを抜いたらこれを読みながら、絵とすり合わせて練習するんですよ、練習方法として。なので、舞台に入れて、絵を見ないで練習すると、絵とセリフが合わないよねっていうのがそこなんですよね。そこで確認すると、今言ってるセリフとこの絵がどこがどう違うかなっていうのが、見ながら練習しないと紙芝居わからないんですよ。舞台に入れて、ただ読むだけの練習をしていると、もう全然絵とセリフとが合わなくなりますので、見たら、置いて、これを読みながら、この絵とすり合わせていつて練習をしていけばいいんですよ。で、1番最初に読んだのは、最後ですので、終わりの紙はこっちに戻して、これで最後になるわけですね。だから練習方法としては、舞台に入れないで、まず一生懸命見てセリフ読んでいつていう感じで見て練習した方が…。

(参加者Dが席に戻ろうとしたところで)

【今村】偶然なんですけど、今日、紙芝居をですね、たまたま今日持ってきておられたので、舞台がなくて申し訳ないんですけど、こんな風にやったら？っていうのを今

ちょっと見せていただこうかと思うんですが、いかがでしょうか。

(会場・拍手)

【今村】日比さんも是非これを見て。

【日比】はい！

【参加者D】これが表紙ですね。私たちはカンカンカンカーンって拍子木を使います。

(参加者Dによる紙芝居が披露される)

【参加者D】おしまい……で、ここで幕紙が入ります。(最後の紙を後ろに)戻しちゃうと(表紙が一番上に来るから)また始まっちゃうので、必ず緞帳代わりの幕紙っていう同じ大きさのやつを、色んな包装紙でも何でも良いんですけど貼って、最後ここ(最前)に出すと、終わりっていう幕が閉まる。

(会場・拍手)

【今村】参加者Dさんありがとうございます。急にお願いしたんですけど…素晴らしい、ありがとうございます！日比さんもとても勉強になったと、皆さんもとても楽しんで聞いておられたようで…本当にありがとうございます。

【参加者D】いえいえ。

【日比】ありがとうございます。

3.3 東京大学名誉教授 上野善道先生によるご講演

かねてより、会のメンバーから要望のあった東京大学名誉教授上野善道先生を講師にお招きして、「言葉の神秘と青森アクセント」というタイトルでご講演いただいた。前半では、言葉が持つ神秘性の話と方言(津軽弁・南部弁)の意義について、後半では、青森県のアクセントの話についてうかがった。人間が言語を習得するまでに加えて、方言の伝承形態の変化や、方言が持っている価値など、「どの言語も掛け替えのない価値を持っている」ということについて貴重なお話をしていただいた。そして、単語を使って東京アクセントと青森アクセントの違いを、参加者とともに声に出して確認した。参加者たちからは「なるほど」「やっぱり声に出したらわかるな」など納得した声が挙げられ、改めて方言の貴重さを共有することができた。充実した内容で、参加者一体となって学ぶことができた。次から上野先生のご講演のスライドを掲載する。



言葉の神秘と青森アクセント

上野 善道 (うわの ぜんどう)
東京大学名誉教授
青森県語り部ネットワーク会議
青森県社会教育センター, 2017/11/18

1

質問：人間は平等か？

- (近代社会では) 人間は法の下に平等の「権利」をもつ
また、「機会」も均等に与えられる(ことになっている)
- しかし、人間の「能力」は、はたして平等か？
- 現実には、さまざまな能力差があると見られる。
- だが、本当に人間に平等に与えられているものが一つある。

3

1. 言葉を覚えられるのは

- 人間だけが言葉(言語)を覚えて、自由自在に使える。
- 人間として生まれると、言語を必ず使えるようになる。
- 動物では言葉を覚えることは不可能。(後述)
- 言語能力は人間だけがもっていて、遺伝するものと考えられている。(その遺伝子は未発見。)

5

今日の話

- 話題は二つ——最終的に言いたいことは、実は一つ。
- 前半は、言葉がもつ神秘性(不思議な魅力と謎)の話。
および、方言(津軽弁、南部弁)の持つ意義。
- 後半は、青森県のアクセントの話。
前半の例の具体例の一つとして。

2

言葉についての質問

- 我々はなぜ言葉(単語ではなく、言語の意)が使えるのか？
- みなさんは、なぜ津軽弁、南部弁(、その他)を話せるのか？
- いつ、どうやって覚えたのか。一生懸命に勉強した結果なのか？
- あるいは、親がちゃんと仕組みを説明して教えてくれたのか？
- 親が津軽弁、南部弁だったからその遺伝で津軽弁、南部弁に？
- 遺伝だとしたら、お子さん、お孫さんも同じ津軽弁、南部弁？
- 逆に、青森に住んでいる外国人の子供の言葉はその外国語？

4

言葉を覚えられるのは

- ただし、生後に人間に育てられることが必要。狼ではダメ。
- その言語能力を開花させる環境(人間社会)が必要。
- 育った環境の中で一人一人が具体的に身に付けて行く。
- 能力は人間に遺伝(先天的)、具体的習得は個人が後天的に
- 出来合いの言語を親子で丸ごと手渡しするものにあらず。
- だからこそ、どの言語も世代とともに必ず変化する。
- 子供が覚えなければ、その言語が消えてしまうこともある。

6

動物の“言語”

- 霊長類の一部(ボノボ)は、かなりの単語（音声と意味）は理解。
- しかし、それらを組み合わせて自由に文を作ることはいできない。
- 特に、今ある状況から独立に、否定の話、過去の話、未来の話、架空の話をする自由にはできない。人間だけが可能。
- 嘘をつくこともできない——これが人間ならではの言語の特徴。
- そもそも発音することもできない——これも人間だけが進化。
- 動物も互いに伝え合うが、人間の言語とは決定的な差がある。

7

言語こそ平等な存在

- 言語能力は、人間だけに全員に平等に与えられている。
- 誰でも、どんな言語でも、それが話されている所に生まれ育てば、特別な努力なしに自然に身に付ける。
- 頭の良さ、記憶力の良さ、根気の有無などの他の能力とは一切無関係。

8

具体的に身に付ける言語は

- 人間の言葉（世界中の言語）を覚える能力は生まれつき。
- 具体的に何語かは、生まれた後の育った環境による。
- 生後の制限：10歳ごろまでに接した言語なら完璧に覚える。
- この時期は、誰もが言語の天才！（頭の良さなど無関係）

9

大人になるとは？

- 思春期になると習得能力は歳とともに劣化。全員凡人に（遺伝子にそのように組み込まれていると見られる）。
- それ以降に新しい言語を身に付けるのは大変な苦勞。
- 劣化しても能力は残っており、才能と努力次第ではある。
- しかし、大きくなってからは、特に発音は困難に。→一言で、すぐパレル。
- 参考：“天才”のまま“大人”になると？——“凡人”の幸せ

10

具体的に身に付ける言語は

- 自分から意識的に特定の言語を選ぶことは不可能
- 気付いたら自分の体の一部となっている言語＝「母語」
- 自分の(母)親を選べないのと同様の比喩的表現。“運命”
- その運命で、皆さんは津軽弁や南部弁を身に付けていた
- 一度身に付けば、その言語を使い続ける限り、天才のまま。凡人になるのは、新しい言語に対してのこと。

11

母語と発音

- 元々あった何語でも対応できる能力のうち、母語に必要なものだけに特化し、他はお蔵入りさせてしまう。
- 母語に必要なものは身に付けないという学習をする（英語のr/lの区別は、日本語には邪魔なだけで無用）
- その結果、母語は無意識に完璧に使えるようになる。
- 一方、母語以外の音声は、発音も聞き取りも困難になる。

12

伝承形態の大きな変化

- ・伝統的に親から子へと伝承。祖父母の力も大きかった。
- ・外からの力（近隣中心地、学校等）は常にあるも弱かった
- ・しかし、今や、親が子供の前で方言を使わない時代。
- ・祖父母も孫に合わせる時代。伝承の断絶・逆転現象。
- ・標準語が自明のものとなり、さらには英語まで対象に。
- ・言語の経済的価値のみが重視される時代。役に立つ言語。
- ・方言の衰退。世界中の小言語が消滅の危機に。

13

2. 津軽方言／南部方言の価値とは？

- ・その土地の言葉は歴史と文化の担い手として貴重。
- ・それを失うことは、歴史と文化の断絶、消失をもたらす。
- ・その方言を話すことによって生ずる一体感、連帯感、なつかしさ、共感。
- ・その方言でなければ表現できない意味や感情がある。
- ・だからこそ、方言は貴重で重要な存在なのだ。

14

津軽方言／南部方言の価値とは？

- ・これらは正にその通り。しかし、通常は自分の方言のみ。
- ・一体感・共感は、逆に、僅かの差異で「排除」に向かう。
- ・“良い言葉”の標準語に比べ、方言は通用範囲も狭く評価も低く、コンプレックスにも。また、英語は日本語よりも“上”。言語間の意味のないランク付けに至る。
- ・これでは、せっかく平等に与えられた言語を生かせず。

15

私見：どの言語・方言も唯一の価値を持つ

- ・どの言語も、言語能力のそれぞれ一部を実現したもの。
- ・人間の言語能力のすべてを実現している言語はない。
- ・他と共通する面と、必ず他にはない独自の面を持つ。
- ・その言語が失われたら、人間の言語能力のどこかが解明されないままに終わってしまう。方言も言語の一つ。

16

私見：どの言語・方言も唯一の価値を持つ

- ・人間の言語が持つ可能性をすべて知りたい。
- ・しかし、どの言語もいまだに謎だらけ（言語の神秘）。
- ・英語は、世界の頭脳が日夜研究しても解明はごく一部。
- ・仮に英語が解明されても、津軽弁は未解明のまま。
- ・津軽方言も南部方言も、言語能力の独自の反映なのだ。
- ・それゆえ、すべての言語は掛け替えのない価値を持つ。

17

要約と課題

- ・誰もが子供のときに、いとも簡単に言語を身に付ける。
- ・これぞ、世界中の人々が平等に持っている能力の神秘。
- ・津軽方言も南部方言もまた、その神秘を実現させている。
- ・だからこそ、どの言語も平等に掛け替えのない貴重な存在。
- ・言語は極めて複雑だが、究極的には単純な仕組みがあるはず。
——その解明が言語学者の研究テーマ。

18

参考：言語調査とは

- 方法：①自然談話録音、②項目ごとの対面調査（通常）
- ただ教えてもらった答えを書き取る記録作業ではない。
- その記録を通して、話者の頭の中の仕組みを覗くこと。
- その仕組みは最新機器でも見えず、話者でさえ無意識の世界。
- 調べる側が一つ一つ事実と仮説で組み立てて行くしかない
- 特定個人の頭ではなく、地域共通の頭の中の仕組みが対象。

19

後半：青森アクセント

- かな文字2字（俳句の数え方）の同じ調子の単語を整理
- 枝、柿、風、金、壁、釘、口、首、腰、酒、皿、杉、底、袖、
滝、棚、爪、鳥、箱、鼻、笛、筆、星、右、水、道、虫...
- 足、池、犬、芋、色、腕、裏、鬼、親、鍵、皮、草、熊、米、
塩、島、玉、角、年、波、蚤、花、腹、豆、耳、山、指、...
- 息、いつ、臼、海、帯、数、今日、錐、汁、筋、粒、何、箸、
針、紅、松、麦、秋、鮎、声、猿、足袋、鶴、春、蛇、...

20

3文字語ではどうなるか

- いわし、うるし、踊り、車、煙、今年、魚、桜、畳、机、
隣、名前、寝言、鼻血、羊、昔、息子、柳、...
- 頭、うちわ、男、鏡、かたき、刀、言葉、しらが、硯、宝、
助け、頼み、なまず、鉄、林、光、袋、ふすま、...
- 朝日、いとこ、命、親子、火箸、もみじ、あやめ、兎、虱、
背中、高さ、燕、鼠、はだし、左、みみず、葉、...
- 蚕、雀、莓、兜、鯨、蛭、えくぼ、ノッポ、マツチ、...

21

1文字語、4文字語の予測は？

- 1文字語には、
？種類。
- 2文字語には、「鼻、花、猿」の 3種類。
- 3文字語には、「魚、頭、兎、莓」の4種類。
- 4文字語には、
？種類。
- もしも、ここに規則性があるとしたらどうなるか？
- もしもでたらしめられているのなら、予測はできない。

22

1文字語と4文字語

- 柄（え）、蚊、血、戸、葉、日、毛、胃、気、実、...
- 絵、木、酢、田、手、根、火、尻、目、湯、巢、菌...
- 甘酒、梅干し、口笛、鶏、引越し、右側、餅つき...
- 足音、編み物、雨降り、猪、雷、ガラス戸、正月、...
- くだもの、座蒲団、先生、玉葱[南]、歯磨き、...
- 鶯、記念日、黒んぼ、玉葱[津]、手袋、土曜日、紫、...
- 音楽、渦巻[津]、兄弟、コスモス、三月、ウルコメ、...

23

規則性

- アクセントの型は文字数よりも1つ多い。きれいな枠。
- 何万語あろうと、すべてこの枠に入る。それ以外なし。
- 0 蚊 風 魚 餅つき
- 1 手 猿 兜 コスモス
- 2 花 左 手袋
- 3 頭 座蒲団
- 4 雨降り

24

それぞれの高低を●○で示すと（津軽）

	止める	続ける	モで止める	モのあと続ける
・風	○●。	○●...	○○●。	○○●...
・花	○●。	○●...	○●○。	○●●...
・猿	●○。	●●...	●●○。	●●●...
・魚	○○●。	○○●...	○○○●。	○○○●...
・頭	○○●。	○○●...	○○○●。	○○○●...
・左	○●○。	○●●...	○●●○。	○●●●...
・兜	●●○。	●●●...	●●●○。	●●●●...

25

上がるところに〔印を付けると

	止める	続ける	モで止める	モのあと続ける
・風	○●。	○●...	○○●。	○○●...
・花	○〔●。	○〔●...	○〔●○。	○〔●●...
・猿	〔●○。	〔●●...	〔●●○。	〔●●●...
・魚	○○●。	○○●...	○○○●。	○○○●...
・頭	○○〔●。	○○〔●...	○○〔●○。	○○〔●●...
・左	○〔●○。	○〔●●...	○〔●●○。	○〔●●●...
・兜	〔●●○。	〔●●●...	〔●●●○。	〔●●●●...

26

どこで上げるかで字数より1つ多く区別

- ・0 蚊 風 魚 餅つき ○ ○○ ○○○ ○○○○
 - ・1 手 猿 兜 コスモス 〔○ 〔○○ 〔○○○ 〔○○○○
 - ・2 花 左 手袋 ○〔○ ○〔○○ ○〔○○○
 - ・3 頭 座蒲団 ○○〔○ ○○〔○○
 - ・4 雨降り ○○○〔○
- ・〔の場所が単語ごとに決まっています、それで互いを区別。
 ・○はカゼ[モ, カゼカ[ラ, カゼカラ[モで続き(x単語)の最後

27

追加：規則性

- ・アクセントの型の区別は、文字数よりも1つ多い。
- ・0 蚊 風 魚 餅つき 皿回し?
- ・1 手 猿 兜 コスモス 古小豆?
- ・2 花 左 手袋 薬箱? (山かがし?)
- ・3 頭 座蒲団 海坊主?
- ・4 雨降り 猿回し?
- ・5 お正月?

28

東京アクセントと比べると

- | | | | |
|-------|------|--------|-------|
| 単独 | モ付き | 単独 | モ付き |
| ・風 ○● | ○●● | 魚 ○●● | ○●●● |
| ・花 ○● | ○●〕○ | 頭 ○●● | ○●●〕○ |
| ・猿 ●○ | ●〕○○ | 一つ ○●○ | ○●〕○○ |
| ・ | | 兜 ●○○ | ●〕○○○ |
- ・上げるところで区別はできない。下げるところ〕で区別。
 ・止める/続けるの区別はない。

29

東京アクセントと比べると

- ・区別の数は字数+1で同じ。(これも言語により異なる)
- ・東京：どこで下げるかで区別。上げるのは始まりを表示。
- ・青森：どこで上げるかで区別。下げるのは終わりを表示。
- ・どちらも人間の言語能力の現われ。人間なら可能。
- ・東京の言葉しかなかったら、上げる区別の存在は不明。
- ・止めるか続けるかの区別も、東京だけでは得られない。

30

単語ごとに東京と比べてみると（津軽）

(a)標準語	津軽方言	(b)標準語	津軽方言	(c)標準語	津軽方言	(d)標準語	津軽方言
●○		●○		●○		●○	
傘		帯		息		板	
肩		糟		臼		糸	
空		箸		海		稲	
中		針		錐		舟	
雨		松		麦		蜘蛛	
桶		秋		黍		鮎	
窓		猿		鶴		聲	

31

31

単語ごとに東京と比べてみると（津軽）

(a)標準語	津軽方言	(b)標準語	津軽方言	(c)標準語	津軽方言	(d)標準語	津軽方言
●○	○●	●○	●○	●○	●○	●○	○●
傘		帯		息		板	
肩		糟		臼		糸	
空		箸		海		稲	
中		針		錐		舟	
雨		松		麦		蜘蛛	
桶		秋		黍		鮎	
窓		猿		鶴		聲	

32

32

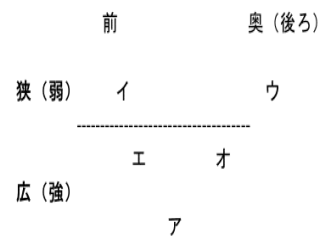
単語ごとに東京と比べてみると（津軽）

(a)標準語	津軽方言	(b)標準語	津軽方言	(c)標準語	津軽方言	(d)標準語	津軽方言
●○	○●	●○	●○	●○	●○	●○	○●
傘		帯		息		板	
肩		糟		臼		糸	
空		箸		海		稲	
中		針		錐		舟	
雨		松		麦		蜘蛛	
桶		秋		黍		鮎	
窓		猿		鶴		聲	
広広	(広=e,o,a)	広狭	(狭=i,u)	狭狭		狭広	

33

33

追加：アイウエオの図解



34

単語ごとに東京と比べてみると（南部）

(a)標準語	南部方言	(b)標準語	南部方言	(c)標準語	南部方言	(d)標準語	南部方言
●○	●○	●○	●○	●○	●○	●○	○●
傘		帯		息		板	
肩		糟		臼		糸	
空		箸		海		稲	
中		針		錐		舟	
雨		松		麦		蜘蛛	
桶		秋		黍		鮎	
窓		猿		鶴		聲	

35

35

津軽と南部の違い（一部）

- 東京で●○の単語は、それぞれ次のアクセントで発音。
- 津軽では、2字目がア,エ,オ→○●に、
2字目がイ,ウ →●○に。
- 南部では、1字目がイ,ウで2字目がア,エ,オ→○●に
それ以外のときは →●○に
(1字目がア,エ,オか、1字・2字ともイ,ウ)

36

追加：3文字語，4文字語の例

3-1：蚕，雀，莓，兜，鯨，えくぼ；ホース，ボール，
天狗；ノッポ，マッチ，…；蛍
→「**o**狭広」か「**o**ーo」，「**o**ノo」；「**o**ツo」。「**o**」？
4-1：渦巻，コスモス，松茸；音楽，兄弟，ひよっこ…
→「**o**狭広o」か「**o**ノoo」，「**o**ーoo」；「**o**ツoo」

ここから分かること

- ・仕組みがあるのは枠組みだけではない。
- ・一つ一つの単語にも決まりがある。でたらめではない。
- ・人間の言語には，それぞれきちんとした仕組みがある。
- ・だからこそ，天才（子供）は数年で身に付けられる。
- ・ただ，自覚はできない。親も知らずにただしゃべるだけ。
- ・しかし，親がしゃべり続けないと，天才も伝承できず。

37

38

言語の神秘（不思議さ，面白さ）を感じ，
みなさんが言語の天才で，頭の中に宝の山が
入っていることを自覚して，
それぞれの言葉を大切にすることを願いつつ
ご清聴，ありがとうございました。

39

講演会「言葉の神秘と青森アクセント」 質疑応答

以下に、上野善道先生のご講演に対する参加者からの質問を採録する。

- 【参加者A】津軽ではさ、よぐものを見えなくして見つかった時に、「あ、いだ」ってする。
普通だば「見つかった」とか「ある」とか言うけどわあはよく「あ、ござ
いだ」って言う。これは特別津軽ばりのものなんだべが？
- 【上野先生】津軽だけではありません。大きく3つに分かれていて、東京だと「ある」と
「いる」という言葉で使い分けています。しかし、和歌山の辺りだと全て「あ
る」と言います。東北は両方使うが、「いる」の用法が拡大している。恐らく
昔の日本語の用法を保っているのではないか。この用法についてはまだちゃんと
研究していないが、昔の「いる」という言葉は、「座っている」のように存
在の意味から来たのではないかと思います。
- 【参加者B】昔話を話す時に、「むがしあったずおん、じじどばどあったずおんな」と言
うが、「じじどばどあったずおん」ではなく、「じじどばどいだったずお
ん」と言うべきなのではないでしょうか？
- 【上野先生】そのような言い方は伝統的な形です。最近「ある」から「いる」に直す人が
増えています。例えば、スーパーで「魚がある」を「魚がいる」と言うと、

魚が泳いでいるということになる。このようにあるといるを使い分けている。

【参加者C】私たちは50音の音で、「あいうえお」、最後は「ん」で終わる発音をしているが、津軽弁には中間音のような発音がいっぱいあって、例えば「い」と「え」の間「いえ」とか、「きい」や「ち」と「つ」の間の「ちい」という発音がありますが、これらを文字にした研究者はいるのですか？

【上野先生】公になったものはない。音声記号であれば書くことができます。しかし一般の方は読めない。仮名の場合にはそれぞれが工夫してこれはこのようなことを表しますという約束をしているものである。最近、国語研究所が沖縄の方言を仮名で書く一つの様式の発表をした。東北の方は残念ながらない。どこまで細かく表すかにもよる。私が弘前に赴任した時、弘前の発音と自分自身の発音と比べると、アクセント以外にも微妙に違う。私は「す」に近い。このような違いを全部書くとなるときりがない。結局文字で書けるといのは、その地域のものを書く。その地域に限定すれば約束事として書けることができます。

3.4 語り部活動情報

加入団体・個人名簿（県内）

以下は事前に記入していただき、情報交換会の際に配布させていただいた語り部活動情報と、当日参加した方々の、資料の内容以外の発言を記したものである。

No.	団体名	代表者名・ 個人名 ※敬省略	会員 数	主な活動内容
1	あおもり民話かたりべの会	前田歌子	12	県外観光客への 津軽弁でのガイド
2	観光コンシェルジュ ワードナー	同上	12	同上
3	青森県環境生活部県民 生活文化課	福井弘信		
4	いたやなぎ昔っこの会	木村玲子	13	方言での昔語り
5	絵本読み聞かせの会 すいみー	鳴海郁子	7	絵本の読み聞かせ
6	おはなし いっぱ	須藤千和子	7	お話会・紙芝居・絵本 朗読
7	おなはしるんるん	齋藤眞琴	15	語り

8	語りの会 こま草	乙供亮子	14	読み聞かせ
9	劇団やませ	大舘登美子	10	方言を使った舞台
10	劇団渡辺源四郎商店	工藤千夏	19	津軽弁アクセントで 芝居
11	子育て支援サークル とんとん	金恵美子	5	読み聞かせ・ 地域交流会
12	潮風おはなし会	対馬てみ	10	昔っこの語り
13	津軽かたりべ会	住吉千代江	20	つがる昔語り・ 読み聞かせ
14	津軽伝統金多豆蔵 人形一座	木村巖	1	人形芝居
15	津軽弁の日やるべし会	伊奈かっぺい		
16	つつじの会	川村美和子	6	紙芝居・読み聞かせ
17	十和田民話語りべ 「わの会」	一本松きよ	13	口演・お話会
18	野辺地町立図書館	五十嵐勝弘		
19	八戸童話会	桎谷伸夫	18	CD 作成おとぎ会
20	八戸読み聞かせボランティア 「青い鳥」	三浦文恵	20	読み聞かせ・紙芝居
21	平川市読書推進運動 協議会	今井千都子		
22	ミセス V6	青野節子	4	ビデオ作成
23	昔っこ楽しむ会	久慈瑛子	6	絵本の読み聞かせ
24	むがしっこ語る会 「ゆきん子」	春藤篤子	20	昔話りの講座
25	むつ下北地区読書団体 連絡協議会	奥寺一廣		
26	読み聞かせボランティア ネットワーク「おはなしの木」	小川千恵	10	紙芝居の実演
27	和の昔こ	佐藤ツリ	28	津軽弁の昔話の語り・ 昔話を放送

	個人名 ※敬省略	所属	主な活動内容
28	越膳昌子	読み聞かせボランティアネットワーク 「おはなしの木」	子育て支援や 小学校の朝読
29	渋谷伯龍	方言王国あずましの国青森	方言に関する 講演活動
30	佐々木和子	八戸童話会	お話会・昔話教室・ 敬老会での語り
31	千葉涼子	北の会	昔話の語り・ 津軽弁の紹介
32	長谷川等	浪岡演劇研究会代表	語り部
33	三橋光子	北の会	昔話の語り・ 津軽弁の紹介
34	盛美賀	おいしいおかゆの会	語り部

会員数合計	286 名
-------	-------

語り部活動内容（県内団体）

以下は語り部の皆さんの日頃の活動内容について、お知らせいただいた内容をまとめた。
※敬称略

No. 1

団体名	あおもり民話かたりべの会
会員数	12 名
代表者	前田 歌子
主な活動内容	2010 年 12 月 4 日から翌年 11 年 12 月 28 日まで毎日青森もてなし隊の一員として毎日 2 人ずつ、県外からいらっしゃるお客様を対象に活動してきた。場所は新青森駅一階のあずまし広場で行っていた。13 か月で約 2 万名の方に聞いていただき、大変うれしいことであった。 毎週日曜日青森県観光物産館アスパムにて午後 1:00～1:30 まで開催 その他各施設からのご要望に随時対応している。

今後の活動予定	平成 29 年 11 月 21 日午前 10:00 より午前 11:30 まで特定非営利活動法人青森県日本文化を伝承する会主催の講座にて語る予定である。会場はしあわせプラザ(2 階)
情報	東北新幹線新青森駅開業の 5 年前から講座を開き、育てながらこれまでやってきた。

No. 2

団体名	観光コンシェルジェ ワードナー
会員数	12 名
代表者	前田 歌子
主な活動内容	県内外のお客様のご要望に随時対応している。

No. 4

団体名	いたやなぎ昔っこの会
会員数	13 名
代表者	木村 玲子
主な活動内容	・毎月 1 回 勉強会(会場 多目的ホールあぶる) ・毎月 1 回 老人ホーム(グループホーム)語りに行く ・年 1 回～2 回 講師をよんで研修会(町民の参加を呼びかける) ・年 1 回 老人クラブいきいき大学の開校式で語る(会員全員出演する) ・町の文化財を見学研修(年 1 回)

No. 5

団体名	絵本の読み聞かせの会 すいみー
会員数	7 名
代表者	鳴海 郁子
主な活動内容	児童図書室で親子に方言の絵本を読んでいる。
今後の活動予定	・児童図書室で親子に冬の方言の絵本を読む予定 ・12 月に小学校こども教室でむかしばなしを方言で読む予定

No. 6

団体名	おはなしいっぱ
会員数	7 名
代表者	須藤 千和子
主な活動内容	・町立図書館で月 1 回お話会の中で自分だけ方言で青森県の民話を素話の形で実践している。 ・小学校からの依頼で全学年のクラスに A 朝の自習時間(8:10～8:20)に

	B 昼休みに 4 部屋に分かれ好きなコーナーに子ども達(全校)が分かれ 15 分間、紙芝居、絵本朗読、素話(方言)で実践。 ・放課後教室の依頼で年 3～4 回 お話会の中で自分だけ民話(方言) ・児童館の入館式で年 1 回 他の方は普通のお話会 ・平内町敬老会実行委員会の依頼で年 1 回 10 分間方言の民話のみ
--	--

No. 7

団体名	おはなしるんるん
会員数	15 名
代表者	齋藤 眞琴
主な活動内容	日常は方言使用にこだわった活動はしていません。 8 月 12 日「ヒロスクエア 賑わい創出委員会」主催の「津軽のこわ〜い昔話っこ」に語り手として 3 名参加しました。

No. 8

団体名	語りの会 こま草
会員数	14 名
代表者	乙供 亮子
主な活動内容	学校、保育園、幼稚園、施設で毎月 1 回読み聞かせをしています。 図書館で月第 2、第 4 土曜日午前・午後おはなしのゆうびんやさんとして読み聞かせをしています。

No. 9

団体名	劇団やませ
会員数	10 名
代表者	大館 登美子
主な活動内容	毎年 1 回地元を題材としたオリジナルを発表し、主に方言を使った舞台

No. 10

団体名	劇団渡辺源四郎商店
会員数	19 名
代表者	工藤 千夏
主な活動内容	・青森市に居住する劇団員の俳優が現代口語演劇の手法で、ゆるやかな津軽弁アクセントで芝居をしています。 ・年に 2 回～4 回の公演があります。
今後の活動予定	2018 年 1、2 月に、沖縄の劇団との合同公演を予定。

No. 11

団体名	子育て支援サークルとんとん
会員数	5 人
代表者	金 恵美子
主な活動内容	児童館の「カンガルー広場（月 1 回就学前の子どもたち対象の子育て広場）」で読み聞かせ・歌遊びをしながら親子一緒に楽しんでいる。題材を考える時「方言」はあまり意識していないが、転勤族のママが集まることが多く、そんな時方言の話題になることがある、私たちもわからない方言がたくさんですね。方言を使った「朗読劇」や「演劇」を見に行くようにしている。五所川原での公演によく行く。
今後の活動予定	今現在、会員たち時間取れず（身内の介護や、孫の面倒や本人の体調など…）カンガルー広場と地域交流会の活動だけです。

No. 12

団体名	潮風おはなし会
会員数	10 名
代表者	対馬 てみ
主な活動内容	・小学生時代 64 歳違いの祖母から聞いたむがしっこを大切に、また、本で知ったむがしっこや、語っているうちに生まれてきた故郷(下前・小泊)にちなんだむがしっこを浜どころの津軽弁で語っています。 ・中泊町の 4 子ども園や、小学校、グループホームなど、要望があれば町外や県外にも出かけ語っています。 ・青森県立美術館主催の「おはなしフェスタ」に初回より連続参加しています。 ・小中学校夏休み期間、小泊地域の 12 町内をラジオ持参で巡り、NHK ラジオ体操の後にむがしっこを語っています。小説「津軽」の像記念館(月 2 回)、津軽鉄道金木駅(毎月 19 日) ・中里駅(毎月 27 日)での語り、朗読活動を平成 29 年 4 月より再開しています。
今後の活動予定	～校歌よ響け！平和な時代に～『校歌と昔っこ・朗読の集い』 日時：平成 29 年 11 月 23 日(勤労感謝の日) 13:30～15:30 場所：元中泊町立下前小学校(現中泊博物館下前分館)三階中央教室 小野正文先生生誕百年の平成 25 年より年 3 回(①5 月第 2or 第 3 土曜日②8 月 15 日 ③11 月 23 日)開催し、今回は 15 回目となります。どちらの方もどなたでも申し込み不要、入場無料です。小野正文先生作詞の校歌に限らず、御自身の校歌を響かせにお越し下さい。

情報	高校卒業後に保育所に勤めたが、子どもたちに絵本を読んであげたり紙芝居を読んであげたりするうちに、ある日突然ばっちゃんから聞いた昔話がこぼれ出て、こういう昔っこを今でも語れるのだと気付いた。それから職場が変わっても昔っこを語り続けてきた。団体の名前は、平成8年に児童館がうつったときからこの名前を使っている。昔話を残すためというよりも昔話のもっている楽しさ、力を感じ取ってほしい。
----	--

No. 13

団体名	津軽かたりべの会
会員数	20 名
代表者	住吉 千代江
主な活動内容	・毎週土、日、祭日、弘前りんご公園でつがる昔語り、又、リゾート白神(JR)の五能線列車で土、日、祭日、大人の休日に語り部として活動(毎回2名担当) ・月2回参画センターで勉強会 ・弘前市立図書館で、年6回他グループと読み聞かせ活動
情報	今年3月に入会したきっかけは、これまで東京に住んでいたがこちらに戻ってきたときに、町で津軽弁が全く聞こえてこないことに、どうしてしまったんだろうと思った。学生時代芝居をやっていて、その芝居を通して入会した。今でも語っていると魂が奮えるような感覚になる。これから先もずっと続けていきたい。

No. 14

団体名	津軽伝統金多豆蔵人形一座
代表者	木村 巖
主な活動内容	・私達の人形芝居は、中里駅構内に常設劇場があり毎月第1土曜日に定期公演を行っているほか、観光客の団体の時は希望に応じて公演をしております。又、小中高の学校、大学祭や老人ホーム・町内の行事等どこでも依頼があるところに出張し、昨年からJR五能線リゾートしらかみ櫓の車両でも公演しています。 ・中泊町無形民俗文化財でもあるこの人形劇は、津軽弁の素朴な人形劇です。
今後の活動予定	JRリゾートしらかみ車両公演月5回ほどが、来年1月までの予定 11月9日、アップルランド(弘南観光平内老人クラブ連合会) 11月12日、五所川原公民館 11月22日板柳町多目的ホールあぷる 11月23日金木町サンライフ(介護施設)常設劇場土曜・ほか 日曜日スケジュール公演予定 五所川原公民館の公演は認知症について人形劇で面白くわかりや

	すく皆さんと学びます。板柳町では人形劇で人権問題について皆さんと考えていきたいと思っております。
--	---

No. 16

団体名	つつじの会
会員数	6 名
代表者	川村 美和子
主な活動内容	・これまで田子町の方言を使った紙芝居を作成(10 話)それをまとめた「田子弁紙芝居集」という資料を平成 19 年に発行しました。 ・現在は年に 2 回「紙芝居と本の読み聞かせ」を田子町立図書館で実施しています。

No. 17

団体名	十和田民話語りべ「わの会」
会員数	13 名
代表者	一本松 きよ
主な活動内容	毎週日曜・祝日の午前午後 2 回、称徳館で口演 ・10 月 6 日（金）市文化センターにて「中秋の名月おはなし会」（130 名来客数あり） ・10 月 21 日（土）・22 日（日）公民館まつり参加（ステージ部門と児童室での口演） ・10 月 29 日（日）馬の資料館 称徳館（十和田市）で「秋の民話フェスティバル」
今後の活動予定	おかげ様で他県の語りべの方々と交流があり日々頑張っています。 11 月 4 日（土）に県立美術館で「秋のおはなし会」の口演に 2 名参加。

No. 19

団体名	八戸童話会
会員数	18 名
代表者	桎谷 伸夫
主な活動内容	毎年夏休み開始と同時に(今年の場合) ・第 94 回森のおとぎ会 7 月 22 日～26 日 長者山親羅神社境内 5 時半～6 時 45 分 ・江陽おとぎ会 7 月 29 日 江陽児童館 6 時～7 時 ・小中野活き活き会 7 月 30 日 常現寺 6 時～7 時 ・海のおとぎ会 8 月 5 日・6 日 三嶋神社 6 時～7 時 (その他、石手洗子ども会等からの依頼口演数か所)

	・第5回南部昔コ語り部養成講座 7月～9月 5回実施(午前と夜の1日2回) ・CD あのなっす南部作成(スピードラーニング風) 八戸市補助事業 200枚作成し各教育機関・図書館等関係機関へ無料で配布。現在改訂版を作成中(販売予定) ・童話会内において腹話術講習会 — 柁谷個人 — ・ボランティアで市内小学校へ南部弁・南部昔コの出張口演 3月まで ※学習発表会・文化祭で南部昔コの演劇をやる学校へ演劇指導 ・いろんなイベントでの南部弁・南部昔コの演説活動 ・釜石・盛岡へのお出張口演(佐々木和子さんと一緒に) ・『南部昔コ集Ⅱ』発売中『南部昔コ集Ⅰ』を300部増刷販売中
今後の活動予定	・12月2日(土)発信! 方言の魅力 かだるびゃ・かだるべし青森県の方言 2017in 八戸 第5回南部弁の日 はっちがずっぱど南部弁 於:ポータルミュージアムはっち 釜石・むつ・弘前・五所川原・三戸・八戸の語り部とALTによるパフォーマンス、南部町立福地中学校3年生による南部弁昔コの演劇『ぱ〜ぽぱ〜ぽぱっぽっぽ』、盛岡弁のシンガーソングライター田口友善のライブ、田口友善と柁谷伸夫による盛岡弁と八戸弁に関するトークショー、子どもたちによる方言によるアフレコ挑戦 etc ・12月3日(日) 県民参加型舞台劇 柁谷作/演出『君の声』 13:30 会場 14:00 開園 於:今別中学校体育館 ※南部と津軽の祭りや民族芸能の他に南部弁と津軽弁の会話を楽しむことができる。

No. 20

団体名	八戸市読み聞かせボランティア「青い鳥」
会員数	20名
代表者	三浦 文恵
主な活動内容	・主に八戸市内の小中学校で出前読み聞かせを毎月定期的に行っている。 ・八食センター読み聞かせ劇場で絵本・紙芝居を毎月披露している。 ・青森県立美術館での「おはなしフェスタ」に毎年参加し群読を行っている。 ・八戸市ブックスタート事業に協力し、新生児健診で親子に絵本の読み聞かせ、プレゼントを行っている。

No. 22

団体名	ミセス V6
会員数	4 名
代表者	青野 節子
主な活動内容	・八戸地域で元気に活躍している団体や個人を紹介するビデオを 2 ヶ月に 1 本作り、地元のケーブルテレビ(八戸テレビ)で放映している。(放映回数は、2 ヶ月で 20～30 回)。 番組名：元気な時間(25 分)
今後の活動予定	毎年、7、8 ヶ月は、戦争体験についてのビデオを作成し、放映してもらっています。

No. 23

団体名	昔っこを楽しむ会
会員数	6 名
代表者	久慈 瑛子
主な活動内容	・早くは(昭和 52 年～平成 23 年)紙芝居を作ったり、図書館で(お話の室)披露し、町内の各所で手づくりの、そしてその地区に伝わる伝説の紙芝居や、昔話を披露したり語っていました。しかし高齢のため一時休んでおります。 唯一、会長の私だけが、昔語を語ったり、語りを語った絵本の読み聞かせをしています。 ・定期的に八つの小学校で語り、昔話を年に 2 度、街歩きでは紙芝居を読んでいます。
今後の活動予定	老人施設等まで紙芝居を発表したい。(八百平のじさま。)

No. 24

団体名	むがしっこ語る会「ゆきん子」
会員数	20 名
代表者	春藤 篤子
主な活動内容	・旧平山家住宅にて 6 月～9 月の毎週土曜日に昔語りを語っている。 ・5 月～10 月まで公民館で昔語りの講座開催(月 2 回) ・他団体との交流として、秋田県鹿角市「どっとはらえ」の会との交流 ・八戸市の昔語り講座視察
今後の活動予定	・11 月 3 日 五所川原市総合文化祭で昔話の発表 ・11 月 18 日 五所川原市公民館まつり

No. 26

団体名	読み聞かせボランティアネットワーク「おはなしの木」
会員数	10 名
代表者	小川 千恵
主な活動内容	・図書館にて年 3 回のお話会、離乳食教室、10 ヶ月健診、3 歳児健診までの絵本の読み聞かせ、小学校の朝読、(夏、冬)学童保育でのお話会、図書館での土曜日のお話会や図書館の施設見学等での依頼のお話会の活動をしている。 ・毎年一作品づつ、むつ下北に伝わる昔話を方言での「紙芝居」を作成している。
今後の活動予定	・冬の日のお話会(図書館) ・冬休みの学童保育でのお話会を予定しております。

No. 27

団体名	和の昔こ																
会員数	28 名																
代表者	佐藤 ツリ																
主な活動内容	津軽弁の昔話を老人施設等で語り、ボランティア活動をしている。市町村の各団体で2時間語っているが、2時間昔こだけだと飽きてしまうため、中間に楽しみを入れて、疲れのないような工夫をしている。又、FM アップルウェーブ、FM ジャイゴウェーブで昔話を放送。 ・市町村の各団体の依頼を受け、活動。 活動状況(2017 年 1 月～10 月) <table><tr><td>・老人施設</td><td>15 カ所</td><td>毎月 1 回</td><td>30 分</td></tr><tr><td>・保育園</td><td></td><td>毎月 2 回</td><td>30 分</td></tr><tr><td>・中三(弘前)エミリオ</td><td></td><td>毎月 1 回</td><td>30 分</td></tr><tr><td>・市町村の各団体</td><td></td><td>毎月 9 回</td><td>2 時間</td></tr></table>	・老人施設	15 カ所	毎月 1 回	30 分	・保育園		毎月 2 回	30 分	・中三(弘前)エミリオ		毎月 1 回	30 分	・市町村の各団体		毎月 9 回	2 時間
・老人施設	15 カ所	毎月 1 回	30 分														
・保育園		毎月 2 回	30 分														
・中三(弘前)エミリオ		毎月 1 回	30 分														
・市町村の各団体		毎月 9 回	2 時間														
情報	昔話を語る際に、保育園でそのまま訛りを使うと理解してくれないため、簡単な言葉を使っている。しかしこれでは津軽弁がなくなってしまう。だが津軽弁を残し、広めていくためには子どもに教えなくてはならない。																

語り部活動内容（県内個人）

※敬称略

No.28

所属	読み聞かせボランティアネットワーク「おはなしの木」
個人名	越膳 昌子
主な活動内容	県の読書アドバイザーとして活動していて、今はこちらの活動の

	ほうが多い。28 年度までで 8 作の作品を、方言を取り入れて作成している。
情報	平成 16 年読み聞かせ研修会があり、その研修会だけで終わるのはもったいないと思い、会を立ち上げた。 姪っ子との会話のときに、ふと発した方言をおもしろがり、知りたがった。それから方言で盛り上がった。他にも、保育園で語ったときに、子どもは方言を理解していなかったが、それを見ていた大人たちがすごくおもしろがっていた様子を見て、方言は素晴らしいと感じた。

No.29

所属	方言王国あずましの国青森
個人名	渋谷 伯龍
主な活動内容	方言に関する講演活動 ・お国ことばで川柳 テレビ ・お国ことばの音辞典 ・方言ポスター制作、配布 他に産経新聞 楽しい川柳の連載など
情報	お国言葉をテーマにして、道の駅に泊まりながら日本中を旅している。どこでもお国言葉が消えてきていて、子供たちがお国言葉を使わないのに非常に危機感を持っている。川柳の番組に子供たちが句を送ってくれるのが嬉しい。

No.30

個人名	佐々木 和子
主な活動内容	・長者山森のおとぎの会、海の会、江陽おはなしの会、五戸夕涼みの会おとぎ会、小中野いきいきおはなし会、鷗盟大学での「強度の民話」講義 ・敬老会での語り ・民話教室（5 回） ・南部弁 CD 化
今後の活動予定	南部弁の日 12 月 2 日
情報	大人や年配の方に語る機会が多く、その方々の癒しになっている。子供にはあまり受け入れられないが、自分なりの南部弁だと思って活動している。

No.31

個人名	千葉 涼子
主な活動内容	・寿老会（老人クラブ）で昔話を語ったり、津軽弁の存続のために高齢の方たちに津軽弁についていろいろ教えてもらっています。 ・県外の方たちを中心に、グリーンツーリズム活動の中で津軽弁を紹介している。 ・その他、要請があればグループ等の集会に行って語っている。他にも男女共同参画の活動で、ジェンダーとは何かと津軽弁の寸劇をやっている。
今後の活動予定	・12月、南部弁の日で津軽弁の昔話を語る予定。 ・11月、しんきん拠点交流会で約30分語る予定。
情報	語り部の活動を始めたのは、津軽弁が好きだったから。小さい子供は、津軽弁、南部弁を喋らなくても、分かってはいる。そのような子たちの聞く能力を育てるため、小さい子には2分位の短い話をする。みんな、津軽弁に自信を持ってもらいたいと思う。

No.32

団体名	浪岡演劇研究会
個人名	長谷川 等
主な活動内容	年に一回浪岡で芝居、演劇の上映をしている。

No.33

団体名	おいしいおかゆの会
個人名	盛 美賀
主な活動内容	放課後児童館で、語り部と言うより子供たちを相手にした読み聞かせを行っている。
情報	津軽弁が大好きで、大事にしていきたいと思い参加した。

No.34

団体名	北の会
個人名	三橋光子
主な活動内容	施設の中で毎日津軽弁、昔っこを話していて、利用者の方に捕まえられては何か語れと言われるようになった。昔っこを語るようになったきっかけは、介護施設の利用者に、残りの人生を笑っていて欲しいからである。
情報	介護をやっているが、その中で若い介護職員が津軽弁を消している。自分が話をすると「汚い、あらげねー、なしてちゃんとしやべんねーんだば、『な』って喋るな」、と言われる。他にも、利用者は「つらふき」職員は「フェイスタオル」と言い、

	方言が通じないということがあり、ちゃんと津軽弁を伝えていかないとと思った。 いろんなところにボランティアに行って、笑っていただきたいと思う。
--	--

活動団体・個人名簿（県外）

No.	団体名	代表者名・ 個人名 ※敬省略	会員数	活動内容
1	鮎貝語り部クラブ (山形)	鈴木よし	14	読み聞かせ
2	おぐに話部（はなすべ） ゆるり座(山形)	高井和喜	20	読み聞かせ
3	語り部「長井小町の会」 (山形)	金田茂子	18	昔語り
4	川西むかしばなしの会 (山形)	斎藤はる美	11	定期的に口演会
5	京ことばの会 (京都)	中島さよ子	25	京言葉を用いた講座
6	東方落語プロジェクト (宮城)	今野家もう世	8	方言で公演
7	長岡民話の会 (新潟)	青柳保子	42	語りの研修
8	新潟県方言研究会 (新潟)	土井清史		
9	二井宿語り部の会 (山形)	安藤悦弘	7	語り聞かせ・民話フェスタへの参加
10	平野昔語りの会 (山形)	青木和弘		
11	方言を語り残そう会 (宮城)	金子律子	20	名取方言を用いて活動

12	民話会ゆうづる (山形)	菅野敏子	15	市内の児童施設・学校・ 福祉施設で口演
13	夕鶴の里 友の会 (山形)	伊藤進司	73	民話の語り 駅伝・ 子ども祭りへの参加と 年2回会報の発行
14	「民話と紙芝居の家」	持谷靖子	10	勉強会・語り・紙芝居
15	民話の里 すみの	直野真寿美	10	読み聞かせ・紙芝居・ お話会

	個人名 ※敬省略	活動内容
16	小野寺瑞穂 (岩手)	盛岡弁の劇や芝居に参加
17	劇団・花幸会 御供田幸子 浪花千秋 (石川県)	婆ちゃんコント

会員数合計	258 名
-------	-------

語り部活動内容（県外団体）

※敬省略

No.1

団体名	鮎貝 語り部クラブ
会員数	14 名
代表者名	鈴木 よし
主な活動	地域に残る昔話を中心に、語りの練習を月 1 回くらい例会をしています。 この頃は、地区ごとに老人の一人暮らしなどの方を集めてお楽しみ会や、サロンなどのボランティアがあり、そこに語りの出張ボラン

	ティアに行って語っています。 今年は、15周年を迎え、記念の発表会を10月1日に終わりました。
今後の活動予定	昨年より、絵本の読み聞かせグループとの交流があり、今年の発表会では、ゲストの出演をしてもらい、花をそえていただき楽しかったです。ストーリーテリング(素話)をしている方達ですので、私達の語りと共通する所があるみたいです。

No.2

団体名	おぐに話部(はなすべ)ゆるり座
会員数	20名
代表者	高井 和喜
主な活動	・月2回サロン形式で例会を開催し、昔話の練習と発表をしている。 ・月1～2回、小学校の朝ボランティアで、昔話の語りや本の読みきかせ ・地域団体(老人クラブ、婦人会等、任意サロン等)の要請により、昔語りや津軽弁の朗読（高木恭造著『まるめろ』から）
今後の活動予定	ゆるり座定期発表会 11月25日
情報	囲炉裏を囲んで、ゆるり座になって語るということで、ゆるり座になった。 暮れの28日に、青森にねふた囃子を習いに行ったとき暖かく迎え入れてくれたことがきっかけで、津軽弁を学び始めた。

No.3

団体名	語り部「長井小町の会」
会員数	18名
代表者名	金田 茂子
主な活動	1 文教の杜において来館者へ昔語りのおもてなし 毎月第3土曜日 10:00～12:00 13:00～15:00 2 市内小学校における昔語り活動 3 地域の行事及び福祉施設での昔語り活動 4 昔語りのつどいの開催 会員による昔語りの発表 年1回 5 市内小学校3年生へ昔語りの指導 6 市内に伝わる伝説民話のほりおこしを行い、昔語りとして語りとして語継ぐ活動 7 その他

No.4

団体名	川西昔ばなしの会
会員数	11 名
代表者名	斎藤 はる美
主な活動	例会 毎月第二土曜日午前 10 時～会議。11 時～浴浴センター「まどか」休憩室に於いて口演。聞き手が、いてもいなくとも実施する。発表会は、年 1 回 9 月に開催。 その他 小松小学校、大塚小学校毎月、犬川小学校年 2 回 町内各種団体及び障害者施設
今後の予定	上記同様の活動 但し遠方会員あるため冬期間 1 月 2 月は休会。私ことですが、明治元年生まれの曾祖母が語る伝承民話“日本一の力持ち”江戸相撲で大関を蹴り飛ばした力持ち、小汐山。の紙芝居作成中です。そのナレーションも合わせて FAX 致します。

No.5

団体名	京ことばの会
会員数	25 名
代表者名	中島 さよ子
主な活動	これからの活動 1 観光客に向けて京ことばの代表的なものを選びパンフレットを作り、観光地の寺社に置いてもらう。 2 京ことばと共通語のカードに合わせのゲーム作り 3 若紙に京ことばを書き飲食店で使ってもらう。 4 ワークショップを行い若い人を募る 5 SNS でスタンプを作り、若者に京ことばを使ってもらう。 京ことばカルタ、昔話の CD 双六、慣用句小冊子、紙芝居、各種団体での京ことば講座会話劇、朗読などホームページを見ていただければ全部みてもらえます。

No.6

団体名	東方落語プロジェクト
会員数	8 名
代表者名	今野家 もう世
主な活動	東北弁を使って落語 毎月第 2 日曜日に定期公演を開催

No.7

団体名	長岡民話の会
会員数	42 名

代表者名	青柳 保子
主な活動	・月 2 回定例会と語りの研修と語りのわりふりをしている ・7 月「長岡の伝説」A5 版 136P 700 部発行 ・7 月 長岡の伝説地めぐり 20 名 ・8 月 22 日 23 日「長岡民話百物語」2 日間にわたり 100 話を一般公開
今後の予定	毎月 27 日長岡の伝説地めぐり（第二回） 月 20 回の語りボランティアに福祉施設、公民館などに出かけている。

No.8

団体名	新潟県方言研究会
代表者名	土井 清史

No.9

団体名	二井宿語り部の会
会員数	7 名
代表者名	安藤 悦弘
主な活動	二井宿小学校での語り聞かせ、月 1 回 山辺小学校へ語り聞かせ 年 1 回(3 年間) 二井宿小学校 5、6 年生への語り指導 1～3 回 高畠町民話フェスタへの参加 高齢者大学でのチビっ子語り部
今後の予定	まほろば語り部の会 20 周年記念 語り部の会参加 新加入者への指導 月 1 回 新加入者の募集など

No.10

団体名	平野語りの会
代表者名	青木 和弘

No.11

団体名	方言を語り残そう会
会員数	2 名
代表者名	金岡 律子
主な活動	設立してから 9 年になります。今までの活動としまして (1) 名取方言かるた 出版 (2) 名取ざっと昔 1CD 付 出版 (3) 名取ざっと昔 2CD 付 出版 (4) 名取ざっと昔 3CD 付

	平成 30 年度完成予定です。 震災関係 (イ)「負けねっちゃ」句集 (ロ)「生きるっちゃ」詩集(3 年目の節目) (ハ)方言劇ミュージカル(5 年目の節目) 出版 ボランティア活動 (1) 館腰小学校—毎週 1 回 (2) 愛鳥小学校—毎週 1 回 (3) 県立ガンセンター緩和ケア病棟—月 1 回 (4) 特養—年 6 回 (5) 仮説—年 6 回 ※民話・紙芝居・歌等のボランティア
今後の予定	震災 7 年目の節目となりますので、今回仮説又今までボランティア等してくださった方々の声として、東日本大震災「忘れねっちゃ」を出版したい。平成 30 年 3 月に仮説において発表会を考えている。

No.12

団体名	民話会 ゆうづる
会員数	15 名
代表者名	菅野 敏子
主な活動	・毎月 1 回 定例会を開催して、夕鶴の里の予定確認、語り当番の確認、会員同士の情報交換の場としている。基本毎月第 1 金曜日。 ・夕鶴の里を活動拠点として全国各地から訪れる来館者に年間 500 回を超える語りをはじめ、市内の保育園、幼稚園、小学校や福祉施設へ出向い口演など民話による交流の拡大と民話の普及に努めている。 ・「夕鶴の里民話まつり」をはじめ、「語り駅伝」「こどもまつり」への出場、協力を行っている。 ・その他、他地域へのイベントにも要請があれば、出演、参加をしている。
今後の予定	・11 月 2 日 赤陽中学校文化祭「地域ふれあい体験講座」で、語りの指導を行う。 ・11 月 17 日 地元漆山小学校で第 3 回目の民話口演(朝 8:30~8:45) ・11 月 26 日 南陽市制 50 周年記念演奏会にて語りで出演。 ・12 月、1 月中 3 回、漆山小、中川小の児童へ語り部養成講座開催。

No.13

団体名	夕鶴の里 友の会
会員数	73 名
代表者名	伊藤 進司
主な活動内容	第 15 回 民話の語り駅伝 H29 年.5.28(日) PM1 : 00～3 : 00 第 19 回 子どもまつり H29.9.24(日) AM10 : 30～11 : 30 会報の発行 年 2 回
今後の予定	年度のイベントは終わりました。

No. 14

団体名	民話と紙芝居の家
会員数	10 名
代表者	持谷 靖子
主な活動内容	・二つの民話の会を持ち、一つは「てまり」と言い、大人の会で平成 12 年より続け、グループが二つありそれぞれ月 1 回、2 回の勉強会を用いている。もう一つは「こでまり」と言い、小学 1 年生から 6 年生まで毎週土曜日に勉強会を行う。 ・地元の祭、紹介に出演している。その他みながみ町の観光施設、宿で語りを行っている。毎晩語る宿、月数回の宿、多数である。 ・「民話と紙芝居の家」を町建設し、民話と語りと紙芝居で紹介している。
今後の活動予定	11 月 18 日に地元古民家で、子どもの民話語りが行われる。

No. 15

団体名	民話の里 すみの
会員数	10 名
代表者	直野 真寿美
主な活動内容	・毎週水曜日の朝、小学校にて(1 年生～4 年生)16 クラスにて 10 分間読み聞かせ。 ・地域に残る民話を大型紙芝居にて演じている。 ・月 1 回 図書館でお話し会を行う。 ・保育園では、年 5 回程行っている。 ・夏休み中は、毎年出前講座として市から依頼され、学童保育に行っており、今年は 10 回でした。
今後の活動予定	・10 月 27 日 子ども食堂へ、図書館からの依頼で大型絵本、紙芝居等を予定。 ・11 月 6 日 デイケアを訪問予定

語り部活動内容（県外個人）

※敬称略

No. 16

個人名	小野寺 瑞穂
主な活動内容	毎年開催される、恒例盛岡文士劇では（出演者は地元ゆかりの文士、作家。メディア、TV局アナ）一部現代劇は（主に局アナ）を方言を特訓して盛岡弁芝居を演じます。全国唯一の文士劇は、毎年12月はじめに、（土日開催、チケットは即完売） 当時の昔話を紙芝居に、名産品の紹介を昔話に、制作して自分で方言で語ってる人もいます。

No. 17

個人名	御供田幸子・浪花千秋
主な活動内容	婆ちゃんコント https://www.youtube.com/watch?v=QEhYNqI1Hi0

活動状況・内容の分析

以下は、各団体や個人の皆様に教えていただいた活動状況・内容等についての情報を、分析したものである。

県内では、民話や昔話の語りの活動が多いことがわかった。地元を中心にして、学校や老人ホームだけでなく地域のイベントにも参加し、地元の人たちを対象に活動している。数は少ないが、CDの製作、ラジオやテレビ出演で語り部としての活動を行っている人もいる。語りなどをして欲しいという要請があれば応じるという積極的な姿勢も見られた。県外も、県内と同じような活動が多かったが、本の制作など媒体を通して方言を継承する活動を行う傾向がみられた。県内になかった特徴的な活動として、落語やミュージカルがあった。語りや読み聞かせとは違う形で、独自の継承方法を作っている。また、SNSのスタンプ製作やパンフレットを作成することで、若者を対象にしたものや、観光客向けに方言を使用した活動もあることがわかった。活動の幅や対象にしている人が県内よりも広いように思われる。

今回の分析によって県内外含め、様々な活動が行われていることがわかった。

3.5 発信！方言の魅力かだるびゃ・かだるべし青森県の方言 2017

参加者アンケート

参加者にアンケートを実施し、20名から回答を得た。すべて百分率で表記し、小数点第2位以下を四捨五入して計算した。

Q 1. ご参加になった理由は？（複数回答可）

趣旨に賛同したから	興味が あったから	他の団体の活動情報を 知りたかったから	他の団体と協力 して、積極的に 方言を残す活動 をしていきたい から
22.9	22.9	16.7	12.5

他の団体と顔見知り になりたかったから	他の団体と一緒に 活動してみたいから	自分たちの活動を知っても らいたかったから	その他
6.3	6.3	6.3	6.3

【その他】

- ・勉強のため。
- ・学生さんの活動、上野先生の講演に関心があった。
- ・友人の紹介で。

Q 2. 情報交換会に参加したご感想は？

満足	まあ満足	多少不満	不満	無回答
55.0	25.0	5.0	0.0	15.0

【満足】

- ・県内、県外で方言について思っていることはみんな同じだった。方言を無くさないように、残していきたい。
- ・他団体と交流して様々な同士の活動を知り、頑張らなければと、元気が出た。
- ・発表する方々の方言がとてもこころ良かった。楽しんで活動しているんだと感じた。

【まあ満足】

- ・みなさんの活躍が聞けた。

【多少不満】

- ・もう少し簡潔にして欲しい。

Q 3. 体験講座に参加したご感想は？

満足	まあ満足	多少不満	不満	無回答
55.0	15.0	5.0	0.0	25.0

【満足】

- ・方言を紙芝居で伝えるのは良い方法だと感じた。
- ・日比さんへのアドバイスが、自分にとっても勉強になった。
- ・若い人に完璧にやられると、がっかり。改善すべき所がある所に希望を見出した。
- ・若い方の方言に対する強い気持ちを感じた。これから育っていくと思うので、ぜひ頑張ってもらいたい。

【まあ満足】

- ・もう少し、上手かなと思った。
- ・学生さんの努力にこれからの可能性の広がりを実感した。

Q 4. 上野先生によるご講演をお聞きになったご感想は？

満足	まあ満足	多少不満	不満	無回答
55.0	15.0	5.0	0.0	25.0

【満足】

- ・アクセントの高低を良く調べたもの、感心した。
- ・上野先生の研究に心より感謝申し上げます。津軽に生まれ津軽に育った人間が、標準語で朗読活動する団体で研修した時、ことばが違ふと何度も指摘されすごく落ちこんでいたのですが、その悩みが、その日々が、すくわれた想いを感じたお話しで涙がこぼれました。
- ・津軽弁のアクセントに規則性があることに驚いた。
- ・アクセントを系統づけて解説されたのが新鮮であった。

【まあ満足】

- ・口語というのは、何気なく使っているけれど複雑なものであると強く感じた。
- ・アクセントでよく分からない部分が残った。講演時間が足りないと思った。

【多少不満】

- ・消化不良でした。

Q 5. 地域の方言について、保存・継承していく必要はあるとお考えですか？

大いにある	ある程度ある	わからない	あまりない	全くない	無回答
60.0	20.0	5.0	0.0	0.0	15.0

【大いにある】

- ・方言は地域の文化・歴史そのものであり、アイデンティティであるため継承していく必要がある。
- ・その土地、地域に住んでいるからには絶対に方言は必要。
- ・方言を恥ずかしがらずにどこでもしゃべれるといい。

- ・言葉の裏には心があるから。
- ・子ども達に伝えたい。

【ある程度ある】

- ・方言というのは一番聞きなじみのある、身近な文化の一種だと思うから。
- ・人の行動、文化そのものに大きく関係しており、標準語で表現出来ない人間のくらしがあるので、ぜひ伝承していきたい。

【わからない】

- ・必要かはわからないが、なくなると寂しい。

Q 6. 今後、この会に関するご要望をお聞かせください

定期的開催してほしい	会誌・会報など 情報発信の場があればいい	その他	無回答
54.5	18.2	0.0	27.3

- ・本日の紙芝居みたいな事があれば良い。語り部、一人芝居など。
- ・会に入った特典が欲しい。
- ・広く県民へのアピールをするべき。
- ・津軽弁も南部弁も下北弁も、青森の方言を愛する人達のネットワークをますます強いものにして、青森ことばを守り続けていければ良い。

4. 南部弁さみっと in 八戸 2017

第 5 回南部弁の日

4. 「第5回南部弁の日 南部弁さみっと in 八戸 2017」

「第5回南部弁の日」は2017年12月2日（土）、八戸ポータルミュージアム「はっち」で開催された。昨年に引き続き、地域の小中学生による「方言アフレコ」や、南部弁の語り部を目指す地域の方々による「たくさんの南部弁を楽しみましょう」の二つの部を設けて行った。その後の、「南部弁さみっと in 八戸 2017」では、青森県南部弁や津軽弁、下北弁、岩手県釜石弁などで話者の方に語りを披露していただいた。様々な方言を聞くことによって、地元の方言の魅力、そして他の地域の方言の面白さを発見する機会となった。

4.1 『方言アフレコ』

1階はっちひろばでは、「方言アフレコ」、「たくさんの南部弁を楽しみましょう」を行った。この「方言アフレコ」は、文化庁の「被災地における方言の活性化支援事業」で開発された「方言アフレコ体験教室」を使用している。インターネット上でも公開されており、今回のイベントでは八戸編と釜石編を使用した。

八戸弁と釜石弁に「アフレコ」という新鮮な形で触れることで、より方言の面白さに気づく機会となった。



4.2 『たくさんの南部弁を楽しみましょう』

「南部昔コ語り部講座」受講者のみなさんによる語り、八戸工業大学4年生・日比俊介さんの紙芝居、南部町立福地中学校3年生全員による演劇、盛岡弁で歌を歌うシンガー、田口友善さんによるライブが行われた。

1. 『南部昔コ語り』

「南部昔コ語り部講座」の受講者4名の方に、南部弁で語りを披露していただいた。笑い話のときには会場から大きな笑い声が上がったり、しみりとする場面では会場が静かになったり、来場者は語り部の「昔コ」に聞き入っていた。



「南部昔コ語り部講座」受講生のみなさん

『死んでも続くなんげエ〜話』

語り：ウルバノーヴィッチ・ミッチェル

『がまん比べ』 語り：田名部彩乃

『ほととぎす』 語り：大柳悦子

『おしょうさんとこぞっこ』 語り：小笠原のぶ



2. 紙芝居『一休さん』 八戸工業大学4年 日比俊介作

八戸工業大学の学生、日比俊介さんが卒業研究で作成した紙芝居『一休さん』は、同級生や後輩が地元の方言（八戸方言）をあまり知らず、こうして方言はどんどん忘れられていくのではないかと思ったことが、紙芝居を作るきっかけとなったそうである。

紙芝居についての解説によれば、裏面（文が書いている面）の方に、緑色で共通語、オレンジ色で八戸方言、ピンク色でイントネーション、そして方言の意味について書き分けられている。製作者以外の誰でも読めるように心掛けたという。



3. 南部町立福地中学校3年生「ガン汁の話」 台本：柗谷伸夫 (南部昔コ演劇『ぱ～ぽぱ～ぽぱぽぽ』より)

福地中学校3年生14名による演劇はパワフルで、見ている側を楽しくさせるようなものだった。時間の関係上、全幕を演じることが出来ない中、最初から最後まで堂々とした演劇と南部弁で来場者を「南部昔コ演劇」の世界に引き込んだ。



4. 盛岡からのお客さま田口友善ライブ

- ・「まじえ5時」ラジオの歌
- ・じえじえじえレゲエ
- ・ジングルベル（英語、日本語、盛岡弁バージョン）
- ・Let It Be（英語、盛岡弁バージョン）
- ・恋するフォーチュンクッキー（盛岡弁バージョン）
- ・La Bamba（スペイン語、盛岡弁バージョン）

盛岡弁で歌を歌う田口友善さんのライブでは、会場が一体となって盛り上がった。外国語や共通語では表しきれない、盛岡弁ならではのあたたかな表現が、絶妙に音楽とマッチしていた。



次に、福地中学校3年生が演じた「ガン汁の話」を、台本を手掛けた柗谷伸夫氏のご厚意により引用し、掲載する。なお、特別な演劇用語は＜ ＞を入れて意味を記した。

「ガン汁の話」（南部昔コ演劇『ぱ～ぽぱ～ぽぱっぽっぽ』より）

台本：柗谷伸夫

人数に合わせた何個かの箱や高足を使った平台若干数などの舞台装置はあっているが、構成舞台で、いかようにも組み換えられるよう工夫して欲しい。持ち道具は最小限度のもので、ほとんどの場合はエチュードで表現して欲しい。勿論、衣装は黒子が基本だが、場合によっては、簡単に羽織るものを用意してもいい。黒子は10人ぐらいあれば理想。少なくとも可。とっかえひっかえ、役に挑戦しよう。黒子の番号は一応の目安で、キャストの人数に合わせて、男言葉・女言葉などと合わせて、柔軟に対処してよい。

舞台を取り囲むように、箱に上がった黒子たちが立って、舞台上で行われている展開を観ているところくつもり>。

黒子 7 むが～し、昔、あるどごろに爺様ど婆様アいだったず。爺様ア山さ柴刈りに婆様ア川さ洗濯にいったずものえ～。婆様が川で洗濯したらっきゃな、上流がらトンプラコッコトンプラコ、トンプラコッコトンプラコど流れできたものアある。何ア流れできたど思う？

黒子たち 桃っ!!

黒子 7 ブーっ!!

黒子 8 おかしいじゃん。桃に決まってるでしょ。

黒子 7 頭が硬いな。川だから、何が流れてきてもいいじゃん。ウリが流れてきたらウリ子姫のお話になるんだから。

黒子 9 じゃあ、ウリ!!

黒子 7 とにもう。単純すぎでしょ。もう少し頭を働かせろよ。

黒子 9 さっきの短い話で、分かる訳ないじゃない。

黒子 7 イモ。

黒子 10 イモ？

黒子 7 そう。大きなおイモが流れてきたの。

黒子 10 もう、そんな話はいーもん!!

黒子 7 上流がらでったらだイモア流れできたずおん。婆様ア、「じゃいやいやいやい、でったらだイモだごど。うまそったな。んだ、家さ持って行って、蒸かして、爺様ど半分コして喰うびゃ」ど思ったずものえ。さっそぐ家さ持って行って蒸かした。いいかまりっこアしたずもえ。婆様の腹アグーっと鳴った。「あ～、腹ア減ったな～。仕方ねえ、爺様ア戻って来ねすけ、自分の分だけ半分コして喰うべ」ど、ながしがらほいじょを持ってきて、ヨッコラショッと半分にして、ムシャムシャ喰ったずものえ～。ところが、婆様ア、まんだ腹ア減ってらったずものえ。「ん、爺様アいねすけ、爺様の分も喰ってしまれ」ど、爺様の分まで喰ってしまったずおん。欲たがりした訳だ。したどごで、婆様の腹アバーン、バーンど張ってきて、とうとうでったらだ屁ェぷっぱなしたんだ。そのかまりの酷いごど、酷いごど。鼻ア曲がりそった案配だ

ったずものえ。してな、そのかまりっこア風さ乗さって、山の爺様のどごさ届いたずおん。したどごで、爺様アな、柴ア刈らないで、くさかったずものえ〜。

間。

黒子たちは7を無視して……。

黒子8 この辺の昔話なんだけどさ〜、楽しいお話が多いんじゃない？

黒子9 毎年飢饉に襲われた貧しい厳しい土地だから、

黒子10 子供に聞かせるお話は楽しくなきゃやってられないよ。

黒子1 でもね、そんな土地だからこそ、人を騙したり、

黒子2 人のものを盗んだりしたら、

黒子3 最後はみんなから殺される結末なの。

黒子4 え〜っ！それを、子供に話すの？

黒子5 まさか、親としては、ちょっと脚色しちゃうよね。

黒子6 本当かな？よし、それじゃ、確かめてみようよ。

黒子7 あ、あの……〜。

黒子7以外は無視して、話を次に進める。

黒子4 むが〜し、昔、あるどごろに心の優しい爺様^じアいだったず〜。ある日のごど、

爺様ア、山の畑さ稼ぎにいざあんしたんだ。弁当には、婆様^ばが作ってけだソバ餅よ持っていったずものえ〜。畑さ着いだ爺様は、桑の木の枝さソバ餅よぶら下げで稼いだずものえ。

黒子4のセリフに合わせて、お爺さんAが出てきて畑を耕す。

黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

切り株を思わせる台（取っ手がついていて、後で持ち上げて運ぶ）や別の箱に上がって桑の木を模する黒子もいる。お爺さんAは、その枝を模した黒子の腕に風呂敷包みを吊るす。

爺様A あ〜、こわえ。腰骨^{こしっぼね}ア立だねえ。休まねば、休まねば。（台の所へ行って）

あ〜あ、よっこらしょっと。（座る）

黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

上手からたくさんのサルが出てくる。「キャッキヤ、ガヤガヤ」と楽しそうである。

サルたちはいろんな遊びをしているところ。(工夫せよ)

爺様 A お～？のろっとサルっこァ出はってきてェ～。どやすつもりだべ。よ～し、よし、知らねえふりして、黙って、見でいでやるべ。

サルたちは、遊びながら桑の木の側へやってきた。

サル 1 (鼻をヒクヒクさせながら) ん？なんだが、いいかまりっこァするなあ～。

サル 2 んだんだ。何のかまりっこだ？

サル 3 どっから、かまりっこァしてるんだ？

サル 4 あっ、あれだあれだ。桑の木にぶら下がっている、あの風呂敷がらかまりっこァしてら。

サル 5 あのかまりっこァ、間違いなく、焼いだソバ餅のかまりっこだ。

サル 6 よ～し、したら、みんなでごっつおうになるびゃ！

サルたちは、枝から風呂敷包みを降ろして、ソバ餅を食べ始める。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

サルたちはソバ餅を食べ終わった。

サル 1 あ～、うまがった。

サル 2 あっただうまいソバ餅は喰ったごどがない。

サル 3 んだんだ。おがげで、腹ァつやぐなった。

サル 4 (箱に座っているお爺さんに気がついた) ん～？なんでェあれァ？

サル 5 オラんどがこんなに騒いでいるのさ、

サル 6 畑の中でじいっとしていで、

サル 1 身動ぎしていねえ。

サル 2 んだ。あつたらにじーっとして動がないどごよ見ると、

サル 3 あれはきつと、ありがたいお地藏様に違いない。

サル 4 あんな所さ置いでおぐのはもったいなしねえ。

サル 5 川の向こうのおサルの山へ、

サル 6 お移しもうそうではないが。

サルたち (口々に) んだ、んだ。それがいい、それがいい。

サルたちはお爺さんの座っている台の取っ手を握り、それぞれがよいこらしよっと持ち上げ、ワッショイワッショイと運びはじめる。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

サルたち、急に足をとめる。

黒子たちの囃子が川の流れの音に変わる。

「ザンブコ ザンブコ ザザーン ザーン ザンブコ ザンブコ ザザーンザーン」が続く。

サル1 みんな、川を渡るウェ～！

サルたち お～っ!?

サル2 親分、今日の川の流れは、だいぶ速いごわす。

黒子たち (だいぶ速めの) ザンブコ ザンブコ ザザーン ザーン。

サル3 何、ねぼけたごどよへってるんだっけ。ホラが、ちょこっと向こうの流れのゆっくりなごどゆっくりなごど。

黒子たち (だいぶ遅めの) ザンブコ ザンブコ ザザーン ザーン。

サルたちは真正面を向いて、まさに川を渡るころ。

黒子たちの「ザンブコ ザンブコ ザザーン ザーン」が続いている。

サルたち ♪どっこい こらしよの

うんこらしよ

おサルのお山へ わっしよいな

川を渡って えっさっさ

歌に合わせて よいこらしよ

おサルのからはぬらすとも

お地藏様はぬらすまい

どっこい こらしよの

うんこらしよ

♪どっこい こらしよの

うんこらしよ

おサルのお山へ わっしよいな

川を渡って えっさっさ

歌に合わせて よいこらしよ

おサルのからはぬらすとも

お地藏様はぬらすまい

どっこい こらしよの

うんこらしよ

サル4 ようし、川よ無事渡り終えた。

サル5 水は一滴もかからずじまい。

サル6 うまぐいった、うまぐいった。
サル2 おしずがっこに、おしずがっこに、お地蔵様よ降ろすべし。

サルたちはお爺さんAを静かに地面に降ろした。

サル1 よし、したら、お地蔵様にお賽銭だ。団子や饅頭もOKだ。

サルたちは、舞台から、それぞれ姿を消す。
黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。
間。
サルたちは、手にたくさんの供物を持って、お爺さんAの前へ積み上げていくところ。そして、

サル2 どうが、家族そろって元気でありあんすように。
サル3 どうが、豊作でありあんすように。
サル4 どうが、銭んこがのろっとたまりあんすように。
サル5 どうが、娘のサル子さ、いい婿様が来あんすように。
サル6 どうが、婆様の痴呆が治りあんすように。
サル1 どうが、サルの世界が、平和でありあんすように。

六匹合わせて^{かしわで}柏手を打つ。

サル4 ちょ、ちょ、ちょっと待った。
サル3 なんだよ～。
サル4 お地蔵様は、お地蔵様は、神様が？
サル2 知るかよ、そっただごと。柏手はまずいのが？
サル4 お地蔵様が神様だったらいいんども、仏様だったら、柏手はおがしい。お経を唱えねば。
サル5 どっちでもいがべな。ありがたいごどには違いがないすけよ。
サル3 親分、どうしあんしょう？
サル1 あ～、面倒くせエ～な。柏手を打って、それがらお経よ唱える。これでいがべ？
サル4 え、え、え～、まあ。
サル2 よし、話は決まった。

六匹は二拍・二礼・一拍の神式をやったあと、「南無阿弥陀仏」の念仏を何回か唱える。

サル3 ハイ、これで終了。早く家さ戻るびや、戻るびや。母っちゃど童子んどァ待
ってら。

サルたち んだ、んだ。ちゃっちゃど戻るびや。

サルたちは、三々五々去って行く。

一人、取り残されるお爺さん。ニヤッと笑う。

爺様 A ハッハハハ……。これはいい。黙っているだけで、こっただに儲がる。お地
蔵様もいい商売だ。よし、持って行って、
婆様よどんでんさせでやべ。

お爺さん A は、積み上げられたお金や食べ物を袋に詰め込み（のこころ）、
自分の家に帰るべく、歩き始める。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞
こえている。

間。

家に着いたところ。

隣の欲張りお爺さん B が窺っている。

爺様 A 婆様！婆様ァい！

婆様 A は～い。ありや、爺様ァい、その袋っこ、どやしあんしたのすか？

爺様 A お前が作ってけだソバ餅のおかげで、これこの通り、サルっこんどがら、こ
っただに宝物よもらった。よし、したら、
さっそぐ街さ行って、新しい着物よ買って来るべし。

婆様 A ありやりやりや、それはありがたがんすなす。新しい着物よ買ってけるのす
か。したら、気が変わらないうちに出がげあんしょ。

爺様 A んだ、んだ。あべ。ちゃっちゃど行ってくるべし。

お爺さん A とお婆さん A は、袋を大事そうに抱えながら出かける。

二人を見送りながら、隣の欲張りお爺さん B が出てくる。

爺様 B いい話を聞いた。よし、オラも負けでられねえ。やってみるべ。（家に戻るこ
ころ）

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞
こえている。

間。

隣の欲張りお婆さん B が出てくる。

爺様 B 婆様、早くソバ餅よこさえろ。

婆様 B 爺様ァい、どやしたのえ？

爺様 B 訳はあどで教^{おせ}える。新しい着物よ買えるし、ごっつおうよずっぱり喰える。

今着ている着物はみんな燃やしてしまれ。

婆様 B ウ、ウ、ウソでながんすべなす。ウソだったら、あんだの舌よ抜きあんすがらな。

黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

婆様 B ハイハイ、ハイハイ。出来あんしたえ。(風呂敷包みをお爺さん B に渡す)

爺様 B ありがっと、婆様。したら、山の畑さ行ってくる。

黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

お爺さん B が畑に着いて、風呂敷包みを桑の木に吊るして、所定の位置に着く。

上手からたくさんのサルが出てくる。「キャッキヤ、ガヤガヤ」と楽しそうである。

サルたちはいろんな遊びをしているところ。(工夫せよ)

爺様 B お〜？のろっとサルっこァ出はってきた。アッハハハ……。ちゃっちゃどソバ餅よ喰え。して、ワさ気づげ。

サルたちは、遊びながら桑の木の側へやってきた。

サル 1 (鼻をヒクヒクさせながら) ん？ありゃ、まんだ風呂敷包みだ。

サル 2 まんだソバ餅だべが。

サル 3 ソバ餅が。ハア、飽ぎだな。

サル 4 しても、仕方ねえ、喰うが。

サルたちは風呂敷包みを解き、食べ始める。

サル 5 (口の中の物を吐き出しながら) ペっ！な、な、なんだっきゃ、これァ！うまぐねえ。

サル 6 これァ、喰い物でねえ。酷いもんだな。

サル 1 (爺様 B に気づき) ありゃ？まんだお地藏様がねまってらでァ。

サル 2 めんどくさしねえな。

サル3 仕方ながべ。まんだお運びすべ。

サルたち (口々に) 仕方ねえ、仕方ねえ。運ぶびや、運ぶびや。

サルたちはお爺さんBの座っている台の取っ手を握り、それぞれがよいこ
らしょと持ち上げ、ワッショイワッショイと運びはじめる。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞
こえている。

間。

サルたち、急に足をとめる。

黒子たちの囃子が川の流れの音に変わる。「ザンブコ ザンブコ ザザーン
ザーン ザンブコ ザンブコ ザザーン ザーン」が続く。

サル1 いがんどァい、川を渡るウエ～！

サルたち お～っ!?

♪どっこい こらしよの
うんこらしよ
おサルのお山へ わっしよいな
川を渡って えっさっさ
歌に合わせて よいこらしよ
おサルのからはぬらすとも
お地藏様はぬらすまい
どっこい こらしよの
うんこらしよ
♪どっこい こらしよの
うんこらしよ
おサルのお山へ わっしよいな
川を渡って えっさっさ
歌に合わせて よいこらしよ
おサルのからはぬらすとも
お地藏様はぬらすまい
どっこい こらしよの
うんこらしよ

台の上のお爺さんBはサルたちの様子を見たくなった。

目を開き、面白い歌に、つい笑ってしまった。

サル4 お地藏様が笑った。

サル5 お地藏様が目を開いた。

サル6 お地藏様は偽者だ。

サル3 ニセの地藏には用がない。

サル2 用のないものは捨ててしまれ。
サル1 そうれ、どんぶりこのどんぶりこ。

サルたちは、お爺さんBを川の中へ捨てるころ。

(ケガをしないように上手に投げられよう。)

お爺さんBはブクブクと溺れるころ。流されるころ。

サルたちは、知らん顔をして去っていく。

流され、溺れるお爺さんB。演技、大切！

ようやく岸に（後ろの箱に）辿り着いたところ。泣きながら、ようやく岸の上（箱の上）に這い上がったところ。

黒子たちの「ザンブコ ザンブコ ザザーン ザーン・ザンブコ ザンブコ ザザーン ザーン」が聞こえてくる。

黒子たちの「ば〜っばば〜っばばっばば……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

黒子たちが、「ピューピュー」という寒そうな擬音を発声。

舞台中央。川の中でカワウソが必死に魚を獲っているところ。

間。

上手からキツネが登場。

キツネ ふう〜、寒い。しばれアきづいなあ。あ〜、腹ア減ったな〜。三日もなんも喰ってねえ。冬だもの、ある訳アながべしなあ。（川の中のカワウソを発見）ん？川の中で動いている黒い物アなんでエ？……カワウソだ。魚、採ってらな。フッフフ……ハッハハハ……、いいごどよ思いついだ。カワウソァい、カワウソァい！

カワウソ （声に気がつき、動きを止め、水面から顔をあげたところ）な、なんで、キツネっこが。何が用っこが？

キツネ いや、特別用っこがある訳でねえんどもよ。ウが何ィやってるのえ？

カワウソ キツネっこァい、見だら分がるべ。魚よ獲ってらびゃな。

キツネ どっただ魚よ？

カワウソ 面倒くせエな。こっちの山アフナ、そっちアコイ。

キツネ なんだがうまぐなさそった魚んどだな。どんだっきゃ、今晚、山のごっつおうようがさ喰せるすけ、その魚よちょこっと喰せでけねど？

カワウソ 山のごっつおうが？喰ったごどアねえな。ま、ちょこっとだばいがべ。

キツネ ありがっと！（ガリガリと歯音をたてて食べ始める）ガリガリガリ！ガリガリガリ！生臭エな、よぐこったらだ物よ喰ってるもんだ。

カワウソ キ、キ、キツネっこァい、ちょこっと、ちょこっとだんでエ。

キツネ 今度はコイだな。ガリガリガリ！ガリガリガリ！フ〜、喰った、喰った。あ

～、腹アつえ。

カワウソ キ、キ、キヅネっこァい、ウがちょこっと、ちょこっとどへったったきやな。

キツネ 悪ィ、悪ィ。生臭がったんでも、知らないうちにみんな喰^かさったんだでァ。

カワウソ したら、^{ばんかだ}晩方、ウが方さ行くすけな。山のごつつおう、のつつど喰せでもら
るすけな。

キツネ お～、いいもなんも。好きだぶつつ喰せるすけ。

カワウソ いや～、楽しみだな。オラ、川のごつつおうしか喰ったごどァねえすけな。

キツネ オラもよ、腕によりよかげで料理して待っているすけ。

カワウソ したら、晩方、行くすけな。

キツネ おう！

カワウソ、下手へ去る。

キツネ ハッハハハ……うまぐいった、うまぐいった。

照明、暗くなる。

同時にキツネの姿勢も変わる。真下の地面をじっと見つめている。

黒子たちの「ぱ～っばぱ～っばぱっばぱ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

下手からカワウソが出てくる。

カワウソ キヅネっこァい、キヅネっこァい。（息が切れている）約束通り来てェ。キ
ヅネっこァい？

キツネ 寄るな。それ以上寄れば、何ィされるが分がねえ。

カワウソ な、な、なんだっきや。どやしたずのえ？誰ァ何よするってよ。

キツネ カワウソァい、申し訳ねえ。オラな土まぶりず悪い奴にとつつかれだんだ。
これにとつつがればな、一晩中、こうやって土ばり見でねばなんねんだ。

カワウソ キヅネっこァい、ウが山のごつつおうよ喰せでけるってへったすけ、昼飯も
晩げまんまも喰ねで来たんでェ。腹アへって死にそうだんでェ。

キツネ 分がる。ウがのへるごどァよぐ分がる。しても、こうやってねばなんねえす
け、体よ動がせねんだでァ。

カワウソ キヅネっこァい、ウが土まぶりさ何が悪いごどよしたのが？

キツネ してね、してね。何時の間にが、オラさとつつがってきたんだ。したすけ、
あんましオラさ寄れば、ウがさもとつつぐがもしれねんでェ。

カワウソ わ、わ、分がった。し、し、したら、明日、明日でェ！

カワウソ、下手へ去る。

キツネ (カワウソを見送った後) ヘッヘヘヘ……。ちょろいもんだな。ヘッヘヘヘ……。

黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

キツネは真上を眺めている。

間。

下手から、カワウソが登場。

カワウソ キツネっこァ〜い！キ、キ、キツネっこァい、どやしたっけ？何して、上ばり見でるのえ？ま、まさか、まんだ、土まぶりにとつつがれたのが？

キツネ 違る、違る。土まぶりでねェ。

カワウソ したら、何よ。

キツネ 星まぶり、星まぶりにとつつがれたんだ。したすけ、一晩中、こうやって星ばり見でねばなんねえんだでァ。

カワウソ (独り言) おがしい。キツネの野郎はおがしい。初めっから、ごっつおうよ喰せる気ァながったんでながべが。したすけ、土まぶりだの星まぶりよ持ち出して、オラよまやかしているんでながべが。

キツネ 申し訳ねえ。そういう訳で、今晚は帰ってけろ。明日、明日だば、大丈夫だごった。

カワウソ (独り言) よし、それだら、こっちにも考えがある。(キツネに) キツネっこァい、ウが自分で魚よ獲りたぐねえど。

キツネ ん？意味ァ分がねえな。

カワウソ キツネのウがでも、魚よ獲れる、いい方法があるんだでァ。

キツネ ほ、ほ、本当が？い、いや、オラ、生臭い川魚は好ぎでねんどもよ、自分で獲れるんだば、いいがも知れねえな。ためしに、教ェでけろ。

カワウソ あなの、川の魚も寒がりだんだ。ぬぐいどごァねえがど、あっちゃこっちゃ探して泳いでいるんだ。したすけ、ウがのそのぬぐそった尾っぽよ、そごさ入れでみろ。魚んどァ、「あ〜！ぬぐそった毛っこァある！」ど、次々ど頭がら突っ込んでくるんだでァ。

キツネ オラのこの尾っぽさ、魚っこがが？

カワウソ んだのえ。して、魚がずっぱり頭よ突っ込んだ頃よ見計らって、よっころしよっと引き上げでみるのえ。んだな、尾っぽよ川さ下すのは一番冷え方がきづい夜明け前がいいごった。大漁間違いなしだ。

キツネ よし、分がった。カワウソァい、ありがっと。申し訳ねんどもよ、明日の夜明け前、さっそぐ尾っぽよ川さ下してみるすけ、今日のどごァ帰ってけねど？山のごっつおうァ、日を改めでどうごどでな。

カワウソ いいもなんも。あつ、そんだ。尾っぽよ下すのァな、村の人だちの水汲み場がいいごった。魚がのろっと集まる場所だすけよ。キツネっこァい、明日の朝マ、頑張るんで。

キツネ ん、頑張るすけ！

カワウソ 大漁になればいいな。したらな～！
カワウソ、下手へ去る。

キツネ （カワウソを見送りながら）あいつは本当にとほらんけだ。フッフフフ……、
明日は魚をのろっと獲ってやるぞ～！楽しみだなあ！（上手へ去る）

照明、変わる。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

上手からキツネが出てくる。

キツネ （震えながら）う～、寒っ！しばれるなあ。この冬一番だでア。ん～と、ん～と、水汲み場だつてェな。よ～し、ござ尾っぽよ下ろすんだな。しゃっこそんたな～。いやいや、魚のためだ。え～いっ!!（しゃがんで腰を下ろした体）ひゃーっ!!しゃっこいっ!!いいや、我慢、我慢。さあ、魚んどアい、オラの尾っぽアぬぐいえ～。どんがどんが入って来おっ!!
黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

キツネ ん？重だぐなつてきてェ。カワウソのへつたとおりになつてきた。しても、まんだまだだ。もっとのろっと魚が入ってからだ。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえてくる。

間。

キツネ ん？重でェ。ん～ん!!重だすぎで上がつてこね。フッフフフ……。何匹入つてらべ。百匹？いやいや、千匹は超えでるんでながべが。アッハハハ……。どりゃが、試しに揚げでみるが。ん～!!ヨイっ!!あ、ありゃ？どやしたっけ？なんして揚がつてこねんだっけ？ヨッコラ……。？（後ろを見て）じゃっ！もしかして、川が凍つたのが？尾っぽも凍つたのが？凍つてら、凍つてら。さよい!!どやしたらいがべ。こごア水汲み場だ。人アやってくればとつつかまてしまる。なんたかつた逃げねば。う～ん！う～ん！わがね、わがね。尾っぽもガチンど凍つていで動きそうにねえ。う～ん！う～ん！

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

そこへ、担ぎ棒に桶を下げた村の娘がやってくる。

村 娘 あ～、あれは水汲み場で悪さばかりしている赤犬だな！懲らしめでやねば。
(担ぎ棒でキツネを叩きながら) え～いっ！え～いっ！村の人アみんなで
迷惑しているんだ。この～！え～いっ！え～いっ！

キツネ 痛！痛痛痛……！助けでけろ！助けでけろ！この通りだ！

この間の村娘とキツネのやり取りは、アドリブながら、迫真の動作で行って
欲しい。

間。

尻尾がスポ～ンと抜けて、キツネは命からがら逃げ去る。

キツネ 助けでけろ～！助けでけろ～！

黒子1 (笑いながら) キツネの尻尾が短い理由が分かったでしょう。ただ、ただで
すよ、キツネの不幸はこれだけじゃなかったんです。ほら、水汲みにきた村
の娘さん。それを知らないで、キツネがこのこ出てきましたよ～。

娘の担ぎ棒を見たキツネは。

キツネ 担ぎ棒！担ぎ棒！クワバラ、クワバラ！

そのまま上手へ逃げ去ってしまう。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞
こえてくる。

間。

黒子2 それだけじゃないんですよ。
キツネが上手から恐々出てくる。
娘が出てきて、

黒子3 担ぎ棒……、担ぎ棒……。

キツネ 担ぎ棒？担ぎ棒！殺される！殺される～!!助けでけろ～！助けでけろ～!!

キツネは一目散に上手方面に逃げ去る。

黒子3 アッハハハ……、いい気味ね。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞
こえている。

間。

黒子 5 むが〜し、昔。あるどごろに爺様ど婆様いだったず〜。ある日のごど、爺様が
魚を獲りに川さ出がげあんしたずものえ〜。
黒子 6 ちょ、ちょっと待った〜!?
黒子 5 な、な、なんだよ、調子にのってきたところなのにさ。
黒子 6 おかしいだろう。お爺さんは山に柴刈りに、お婆さんは川に洗濯にって決ま
ってるでしょうに。
黒子 5 頭を柔らかくって言ってるでしょう。昔話もバリエーションが増えるの。
このお話はお爺さんが川に行く。そういう話なの。
黒子 6 お婆さんは?
黒子 5 知らないよ、そんなこと。お婆さんはこの話には関係なし。
黒子 6 わ、分かった。分かったって。

お爺さん C は、黒子たちのセリフに合わせて登場。
犬役は役造りを工夫せよ。難しいぞ。1 は子犬、2 は大犬? のところ。

黒子 5 爺様が魚よ獲っていただっきゃ、上流がらな、どんぶらこっこどんぶらこっこ
ど、流れできたものがある。
黒子 6 あ〜、分かった。イモが流れてきたんでしょ。
黒子 5 バッカじゃない。だから、埒の無い人って言われるのよ。頭を柔らかくって
言ったじゃない。
黒子 6 それじゃあ、何が流れてきたのよ。
黒子 5 白い犬、白い犬が流れてきたんだ。(白い犬が流れてくる)
黒子 6 白い犬?
爺様 C じゃいやいやいやい……、めんこい犬っこだでばな。
白い犬 1 (めんこく) ワン。
爺様 C じゃいやいやいやい……、哭ぎ方もめんごいでばな。
白い犬 1 (もっともっとめんこく) ワン、ワン。
爺様 C じゃいやいやいやい……、ハア、わがね。家さ持っていっておがすべ。色ア
白いすけ、名前っこアシロだ。

お爺さん C は犬を抱き上げて(無理しない) 下手へ退場。
黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽぱ……」という楽しそうな音楽が聞
こえている。
間。
お爺さん C とちょっと大きい犬が出てくる。

黒子 5 爺様がお椀で飯を一膳喰わせると、シロはお椀一つ分だけでっかぐなりあ
んした。
黒子 6 ちょ、ちょ、ちょっと待って。お椀一つ食べてお椀一つ分大きくなる? そん
なバカことがあるはずないじゃない。冗談は顔だけにしてちょうだい。

黒子 5 本当に、頭が硬い人ねえ。昔話じゃない。なんでもありの世界なの。

黒子 6 それほ、そうだけどさあ……。

白い犬 2 爺っちゃん、オラの背中さ籠よ載せでけろ。山さ行きあんしょ。

爺様 C はて、背中に籠に、山さ行ぐ？いがべ、いがべ。シロよあべ。

爺様 C とシロは山を目指して出っ発!!

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

一人と一匹が山の中に辿り着いたところ。

白い犬 2 爺様、爺様ア、オラの歌る通り歌ってけさい。

白い犬 2 ♪あっちの山の ひしこ鰯

& こっちの山の ひしこ鰯

爺様 C みんな どんと とんでこい

♪あっちの山の ひしこ鰯

こっちの山の ひしこ鰯

みんな どんと とんでこい

歌の途中であっちこっちからひしこ鰯が飛んでくるころ。

たちまち籠がいっぱいになった。

黒子 6 ねえ、ねえ。ひしこ鰯って何？

黒子 5 背黒鰯！

爺様 C いやいや、籠に鰯がのろっと入った。ありがたい、ありがたい。シロ、ありがと。

白い犬 2 ワン！

爺様 C さて、したら、シロやい、家さ戻るべし。

お爺さん C とシロは家に向かって歩き始める。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

爺様 C 婆様、ひしこ鰯よのろっと獲ってきた。

婆様 C これはどんでん！したら、さっそくひしこ汁を作りあんしょ。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

隣の欲張りお婆さん D が中の様子を覗っている。

婆様 C 爺様、爺様。ひしこ汁アでぎあんしたえ。さあさ、喰せエ。シロ、ウがも喰エ。
爺様 C (食べているところ) あ〜、んめえ。これまで喰ったごどアねえひしこ汁だ。
ごつつおうだ。あ〜、んめえ、んめえ。な、シロ。
白い犬 2 ワン。

美味しそうに食べ続けるお爺さん C とシロ。
お婆さん D が出てくる。

婆様 D 済みあんせん、火ダネっこ、分けでけさい。あや〜、なんだがいいかまりっ
こアするなさ〜。
婆様 C ひしこ汁であんすんだ。ずっぱりありあんすがら、火ダネっこと一緒に分け
であげんしょ。ちょこっと待っていでくんしゃんせ。
婆様 D なんもなんも、よごあんすでばな。ん……、しても、そごまでへるのなら、
遠慮しねで、いだだぎあんすべ。とごろで、ひしこ鰯はどやしあんしたのす
か？
爺様 C かくかくしかじか、かくかくしかじかでなす〜。シロのおがげであんすん
だ。
婆様 D あっりゃ〜。んだのすか。申し訳ありあんせんども、今日一日、シロよオラ
んどさ貸してけあんせんがい？お礼はたんまりさせでもらいあんすがら。
爺様 C めんごいシロであんすがら、大事にしてけさいよ。
婆様 C はい、お待だせいだしあんした。せば、火ダネっことひしこ汁よどんぞ。
婆様 D 婆様アい。申し訳ないんども、どっちもいりあんせん。シロよ借りれば、そ
れでよごあんす。

お婆さん D がシロを連れていこうとするも、シロは強烈に嫌がっている。
お婆さん D は、とうとうシロの首に縄をつけて、引っ張っていくところ。
黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が
聞こえている。
間。

婆様 D 爺様アい、爺様アい、かくかくしかじかで……。
爺様 D ハア……？
婆様 D あ〜、きまア焼げる爺様だでア。かくかくしかじか、かくかくしかじかで、
ひしこ鰯よのろっと獲れる。ほらが、この犬っころよ連れで、ちゃっちゃど
行って来お。
爺様 D わ、わ、分がったでばな。行けばいいんだべ行けば。犬っころアい、あべ。

シロは足を踏ん張って嫌がっている。

爺様 D 婆様アい、犬っころア、嫌がってらでばな。

婆様 D 何ィ寝言よへってるのすか。引きずって連れでいってけさい。ホラが、ちゃっちやどえ。

爺様 D あべ。行くど〜！

爺様はシロを引きずりながら、連れていく。

黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうでない音楽が聞こえている。

間。

例の場所に着いたところ。

爺様 D フ〜っ。あ〜、こわエ。犬っころァい、ちゃっちやど鯛よ集めろ。ホラが、早くよ。

白い犬 2 (嫌がって) キャン、キャン、キャン……。

爺様 D うるさしねえでばな。キャン、キャン哭げば首絞めるェい。ホラが、歌れ。

白い犬 2 ♪あっちの山の ハチすがり

& こっちの山の ハチすがり

爺様 D みんな どんと とんでこい

♪あっちの山の ハチすがり

こっちの山の ハチすがり

みんな どんと とんでこい

山の中のハチがブーンと物凄い音を立てて爺様 D を襲う。

勿論、ハチは他の黒子たちが演じること。上手にネ。

黒子たち ブーン！ブーン！ブーン！ブーン！チクリ！ブーン！チクリ！ブーン！チクリ！……!!

爺様 D 痛っ、痛痛痛だだだ……！こ、こ、この〜、犬ころの野郎！

お爺さん D は、白い犬 2 を叩き殺してしまう。

溶暗＜暗転・照明を暗くする＞。

溶暗の中で、黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうでない音楽が聞こえている。

間。

溶明＜明転・照明を明るくする＞。

爺様 C オラ家のシロァどうなりあんした？

爺様 D 知るが。痛痛痛だだだ。とにかぐ、あの犬ころのおがげで酷い目にあった。あんまりキモァ焼げだすけ、殺して山さ埋めできた。目印にコメの木の枝よ刺してきた。あ〜、痛痛痛だだだ！

爺様 C ま、ま、まさか……。

爺様 D あったら犬っころァ地獄さ落ちればいいんだ。

お爺さん D はそのまま下手へ退場。

お爺さん C は、がっかりして腰を降ろす。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうでない音楽が聞こえている。

黒子たちは歌を歌いながら、爺様 C の後ろで箱を使いながらコメの木になる。

爺様 C （後ろを振り返り）お～、コメの木だ。シロのコメの木だ。シロ～……（泣く）。

黒子たち （きわめて明るいそよ風の音＝歌？）サワサワサワサワ、サワサワサワサワ……。

爺様 C （顔を上げて）……。

黒子たち ♪金銀小判が ばあらばら
金銀小判が ばあらばら
♪金銀小判が ばあらばら
金銀小判が ばあらばら

なんと！空から、金、銀の小判がパラパラ降ってきた（こころ）ではないか！

黒子たちがばらまいている。

爺様 C、喜び勇んで拾い集める。

爺様 C ば、ば、ば、婆様ア～！婆様ア～！

婆様 C ハ～イ！（上手から）爺様ァい、何の用っこ……こ、こ、これは……？ど、ど、どうなさいあんしたのすか？

爺様 C シロ、シロのおがげだ。

婆様 C （木に向かって）シロ、シロ。ありがっと、ありがっと。

爺様 C よし、したら、皆さんにお裾分けだ。あべ。

二人、上手へ去る。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

下手からお婆さん D が出てきて、ニコニコしながらコメの木を仰ぎ見ている。

ニコニコ笑いながら下手へ去る。

間。

下手から、お婆さん D に背中を押されたお爺さん D が飛び出してくる。

キョロキョロしながら、コメの木の側に来て、その前に座る。

黒子たち （きわめて暗いそよ風の音＝歌？） ザワザワザワザワ、ザワザワザワザワ…
…。

爺様 D （顔を上げて）……。

黒子たち ♪馬のクソも べったべた

牛のクソも べったべた

♪馬のクソも べったべた

牛のクソも べったべた

なんと！空から、馬糞、牛糞がパラパラ降ってきた（ころ）ではないか！

黒子たちがばらまいている。

爺様 D 馬のクソだ～！馬のクソだ～！牛のクソだ！牛のクソだ！あ～、臭エ！臭
エ！こきたなしねえ！こきたなしねえ！やめでけろ！やめでけろ！

先のセリフを叫びながら逃げ回るお爺さん D。

ようやく落ちてくるのがおさまる。

怒ったお爺さん D はコメの木を鋸で切り倒してしまった。

切り倒すお爺さん D、切られるコメの木の演技が見もの。

黒子たちの「ギッコギッコ、ギッコギッコ」という少し早気味の楽しそうな
音楽が聞こえている。

バラバラになったコメの木（黒子たち）に、火打石で火をつけようとするお
爺さん D。

爺様 D あ～、きまア焼げるごど、きまア焼げるごど！こっただ憎たらしいコメの木
なんか燃やしてしまれ！こんの野郎！

黒子たちの「パチパチ、ボウボウ、パチパチ、ボウボウ」という少し早気味
の音楽が聞こえている。

黒子たちの燃え盛るコメの木の演技が見もの。工夫を。期待してます。

間。

黒子たちの「パチパチ、ボウボウ、パチパチ、ボウボウ」がだんだん弱くな
り、そのうち聞こえなくなる。

爺様 D ふん、ざまアみろ！クソを降らせだコメの木ア^{あぐ}灰になった。罰^{ばち}ア当だった。
いいキビだ。

お爺さん D は下手へ戻ろうとすると、お爺さん C が上手から出てくる。

この間に黒子たちは箱を片づけて、元の位置へ。

爺様 C あれ？コメの木アどうなりあんした？
爺様 D どうなりあんした？ずもんでねえ。馬のクソど牛のクソを降らせだどごで、
きまア焼げだすけ、火ィつけで燃やした。
ホラが、そごで灰になってら。

お爺さん D はそのまま下手へ去る。
黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

爺様 C やれやれ、仕方ないごどよやるもんだ。したら、形見に残った灰だけでも集
めで戻るがな。

お爺さん C は灰を集めて、袋に入れる。
入れ終わると、大きなため息をついて上手へ去る。
黒子たちは「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」を歌いながら、中央に高見
をつくっている。
舞台奥に大きな満月が浮かんでいる。
上手からお爺さん C とお婆さん C が出てくる。

婆様 C 爺っちゃ、爺っちゃ。ホレ、ホレが、ガンがすこたま飛んでおりあんすえ。
爺様 C じゃいやいやいやい、見だごどアねえくれエすことま飛んでら。よし、屋根
の上から、シロの灰よ撒いで捕まえてやるが。

お爺さん C は中央の高見に上がる。
黒子たちの出番ですよ～！「バタバタ」という羽音や、できれば、ガンの鳴
き声が聞こえれば嬉しい。

爺様 C ガンのまなぐさ灰ァ入れ！ガンのまなぐさ灰ァ入れ！

「バタバタ」という羽音や「シュ～ン」という落ちる音など、激しく聞こえ
てくる。勿論、たまに、黒子がガンになって、落ちてくる演技があってもい
い。（これは無理？）

婆様 C 爺っちゃ！爺っちゃ！ガンが落ちできあんした！ガンが落ちできあんした
え～！

爺様 C ガ～ン!!ありがだい、ありがだい。シロや、シロや、ありがと！

婆様 C 爺っちゃ、したら、ガン汁よ作りあんすべ。ちょこっと待ってでけさい。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

隣の欲張り婆さん D が中の様子を覗っている。

婆様 C 爺様、爺様。ガン汁アでぎあんしたえ。さあさ、喰せエ。

爺様 C (食べているところ) あ〜、んめえ。これまで喰ったごどアねえガン汁だ。ごつつおうだ。あ〜、んめえ、んめえ。

美味しそうに食べ続けるお爺さん C。

お婆さん D が下手から出てくる。

婆様 D 済みあんせん、火ダネっこ、分げでけさい。あや〜、なんだがいいかまりっこアするなさ〜。

婆様 C ガン汁であんすんだ。ずっぱりありあんすがら、火ダネっこと一緒に分げであげんしょ。ちょこっと待っていてくんしゃんせ。

婆様 D なんもなんも、よごあんすでばな。ん……、しても、そごまでへるのなら、遠慮しねで、いだだぎあんすべ。とごろで、ガンはどやしあんしたのすか？

爺様 C かくかくしかじか、かくかくしかじかでなす〜。シロのおがげであんすんだ。

婆様 D あつりゃ〜。んだのすか。したら、こつたらごどよしてられねえ。

婆様 C はい、お待だせいだしあんした。せば、火ダネっことガン汁よどんぞ。

婆様 D 婆様ァい。申し訳ないんども、どっちもいりあんせん。ちゃっちゃど家さ戻りあんす。

お婆さん D は急いで下手へ去る。

食べ終わったお爺さん C とお婆さん C は上手へ去る。

黒子たちの「ば〜っばば〜っばばっばば……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

下手から、お婆さん D に背中を押されたお爺さん D が一緒に飛び出してくる。

お爺さん D は慌てて中央の高見にのぼる。お婆さん D は下で待っている。

爺様 D 早くガンが飛んで来ねがな。腹ァ減った。早くガン、飛んで来お〜！

黒子たちの出番ですよ〜！「バタバタ」という羽音。

爺様 D お〜、お〜、ようやくとで来た、来た！ん〜と、なんてへったつけ？ん〜と……。あっ、そんだ！じのまなぐさ灰入れ〜！じのまなぐさ灰入れ〜！

なんと！灰はお爺さん D の目に入った。

爺様 D 痛い！痛痛痛だだだ……！まなぐア痛い！なまぐア見えね！なんも見えね！

お爺さん D は屋根（高見）から落ちてしまった。

婆様 D お～！ガンが落ちできた！ガンが落ちできた！（棒を持っているところ）こんの野郎、こんの野郎！くたばってしまれ！くたばってしまれ！早くガン汁喰いてえ！ガン汁喰いてえ！

爺様 D 痛ェ！痛ェ！助けでけろ！助けでけろ！

婆様 D うるさしねえ！ガンのくせして人間みったごどよへるな！くたばってしまれ！早くガン汁喰いてえ！くたばってしまれ！早くガン汁喰いてえ！

黒子たち ガ、ガ～ンっ!!

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽぱ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

黒子 1 むが～し、むがし、あるとごろにカニっこアいだったず～。お～い、何ィぼやっとしているのえ。柿の木、みんなで柿の木をつぐらねば～！

上手からカニが出てくる。
この声で、箱台を三つばかり積み重ねて、他の黒子たちが柿の木になる。

黒子 2 （柿の木になっている）ちょ、ちょっと待ってよ。この辺りは渋柿しか採れないでしょ。美味しい柿と渋い柿をどうすんのさ。猿は渋柿なんか食べないよ。

黒子 3 それもそうだ。よし、それじゃ、柿の木は撤収だ。

黒子たち、あわてて箱台等を片づけ始める。

黒子 1 それじゃあ、話を変えるぞ。むが～し、むがし、あるとごろに大変稼ぎ手のカニっこアいだったず～。秋になって、カニっこア、稲刈りの終わった田んぼさ行って、落ち穂よ拾って、上ん手にしらげで、皮よ剥いで、ペッタンペッタン、餅^{もち}つぎよしていったったずものえ～。

カ ニ ペッタン、ペッタン、ペッタン……。

臼を黒子の一人がやってくれたらうれしいなア～。
黒子たちは適宜にペッタン、ペッタンの擬音。
サルが上手から出てくる。カニを見つけ。

サ ル おう、カニっこァい、何ィやってらっけ？
カ ニ 見だら分がるべ。餅つぎしてら。
サ ル カニっこァい、それだば大変だべ。どりゃがすけでやる。(カニから杵を取り上げて) オラが代わりについでやるウァ。
カ ニ いらね、いらね。自分のごどは自分でやるすけ。
サ ル (餅をつきながら) サルっこァい、なんも遠慮ァいらねえ。体の小^{ちや}っこいうがより、オラがついだ方ァハガァいぐべに。オラさ、任せでおげ。ペッタン、ペッタン、ペッタン……。

ハラハラしているカニ。
黒子たちの「ペッタン、ペッタン」の擬音や「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。
間。

サ ル (餅をつき終わって) あ〜、こわエ。腰が痛くて痛くて、腰^{こしっぽね}骨ァ伸びねえ。
この餅ァみ〜んなオラがついだんだすけ、まずオラが喰う権利ァある。どりゃが、アッチチチ……！(食べ始める) ムシヤムシヤ、ムシヤムシヤ。あ〜、うまぐねえ。よぐこったらのよ喰うもんだな。ムシヤムシヤ、ムシヤムシヤ。あ〜、うまぐながった。カニっこァい、ウがの分よわんつかちょべつと残しておいだすけ、ホラが喰ってみろ。
黒子1 なんと、サルは臼を足で蹴飛ばして、ゴロゴロ転がしあんしたんだ。

カニは必死に臼を追いかける。
黒子たちの「ゴロゴロ、ゴロゴロ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。
ようやく、臼が止まったところ。

カ ニ あ〜！(泣きながら) わんつか残った餅っこァ泥くるめになって喰^かれなぐなった〜。エ〜ン、エ〜ン、エ〜ン……。
サ ル カニっこァい、ありがっとうな。餅っこ喰ったっきゃ、腹ァつやぐなった。したら、まだな。

サルは上手へ去って行く。
取り残され、エ〜ン、エ〜ンと泣き続けるカニ。
間。
下手からクリが出てくる。それに続き、次々と登場。

黒子2 あっ？クリが出てきたぞ～。
ク リ カニっこァい、カニっこァい、どやしたっけ？
カ ニ （泣きながら）どやしたもこやしたもねえ。かくかくしかじかで泣いでるんだ。え～んえ～ん。

ク リ ^{ひんど}酷い奴だな、サルァ。

黒子3 あっ、次々と出てきたぞ。え～と、びくたりびくたり出てきたのは心張棒だ。
べったらべったら出てきたのは牛の糞だ。ぴょんからぴょんから出てきたのはタタミ針だ。

各 々 カニっこァい、カニっこァい、どやしたっけ？
カ ニ （泣きながら）どやしたもこやしたもねえ。かくかくしかじかで泣いでるんだ。え～んえ～ん。
各 々 酷い奴だな、サルァ。

黒子たちの「ば～っばば～っばばっば……」という楽しそうな音楽が聞こえている。
クリ・心張棒・牛の糞・タタミ針たちは、あ～でもない、こ～でもないと話し合っているところ。
話がまとまったようだ。

クリたち カニっこァい、カニっこァい、ハア泣がなくていい。オランダァ力を合わせてサルよやっつけでやるすけ。さっそぐこれがらサルの家っこさ行って、かだぎ討ちだ！あべっ!!

クリたちは歌を歌いながら出発。
ハモリが欲しい？

クリたち ♪悪いサルをやっつけろ
悪いサルをやっつけろ
なんて奴だ サルの奴
なんて奴だ サルの奴
カニをいじめた悪い奴
カニをいじめた悪い奴
奴を八つ裂き かたき討ち
奴を八つ裂き かたき討ち

歌が終わったところで、クリたちがサルの家に着いたところ。

ク リ お～い、サルっこァい～！お～い、サルっこァい～！残念、留守だ。よ～し、

サルっこが戻って来る前に隠れるべし！いがんどァい、いいど〜！
みんな お〜！

それぞれが、それぞれの所へ隠れる。
心張棒は箱を積み上げて、その上に乗る。

黒子3 皆さま、ご存じだとは思ひあんすが、一応隠れだ場所をお知らせいだしあんしょう。え〜、牛の糞は入り口さぬたばって、心張り棒は戸口の天井に隠れで、クリは囲炉裏の中さ隠れで、タタミ針は炉ぶちさ身をひそめあんしたんだ。ん……？あ〜っ、そんだ、そんだ。忘れてらった。忘れてらった。カニっこ、カニっこな。カニっこァ、ホレが、皆さまご存じの通り、水がめの中さ入りあんしたんだ。ふ〜っ、ようやくとで終わったでァ。おっ、サルっこァ戻ってきたようであんすえ……。

サル、下手から登場。

サ ル お〜、寒、寒、寒……。しばれるなあ。すぐだまって体ァ動がないでァ。どりゃが、どりゃが、火っこさ手っこかざしてぬぐだまるべ。(しゃがんで手をかざす)

ク リ バ〜ンっ!!

サ ル あ〜、どんでんした!!(尻餅をつく)

タタミ針 ジグッ!!

サ ル 痛〜!!痛だだだ〜！アッチチチ…っ!!み、み、水、水っこ〜(水がめのところへ移動し、手を中に入れる)。

カ ニ ジョッギンっ!!

サ ル 痛〜!!痛だだだ〜！な、な、な、なんだっきゃ、これァ。おがしい！おつかねえ！逃げろ〜!!(戸口の方へ移動する。)

牛の糞 スルっ!!

サ ル (滑ってステンと転ぶ。) 痛〜!!痛だだだ〜！

心張棒 (箱の上から飛び降りて、サルを叩きのめす) エ〜イっ！エ〜イっ！エ〜イっ！エ〜イっ！

サ ル 痛、痛、痛だだだだ……!!悪がった、悪がった。オラが悪がった。謝る、何回でも謝る。したすけ、助けでけろ。命だけは助けでけろ。この通りだ!!

心張棒 いいや、許されねえ。米が満足に採れないごでは、毎年のように飢渴^{けがづ}にな

るごでは、他人よ騙す、それも騙して喰い物よ取り上げるよった奴は、死んでもらるごどになっているんだ。タタミ針、サルっこの心臓よ一刺^さしだ。

サ ル 許してけろ。許してけさい。命だけは助けでけさい!!

タタミ針 分がった。サルっこァい、観念しろ。大丈夫だ。ワの長さは5寸、15 cmあ

る。心臓まで一突きだ。あっという間にあの世さ行ける。痛いもなんもねえ。何も心配アいらねえ。

サル　　そういう問題でねえ。オラァ死にたぐねえ。死にたぐねんだでァ!!
クリ　　黙れっ！サルっこァい、イがカニっこよ騙した。して、餅よ喰った。残ったのは泥くるめの餅だけ。これだけで充分死刑に値するべ。
牛の糞　サルっこァい、イが、カニっこの気持ちを考えだごどァあるのが？一生懸命稼いで、ようやくとで落ち穂よ拾い集めで、餅よついだんでエ。それよ、イが横取りしたのだんでエ。死ぬしかながびゃァな。
サル　　死にたぐねエ。死にたぐねエ。助けでけろ。助けでけさい。
心張棒　ハイ、それま〜でよ。タタミ針ァい、ちゃっちゃどやってしまれ。時間がもったいなしねえ。
タタミ針　ほいきた。したら、ちゃっちゃどやって、家さ戻るべし。したらっ……。では、お覚悟を！
サル　　た、た、た……。助けでけさい。
クリ　　したら、タタミ針ァい。
タタミ針　はい。

タタミ針が今にもサルの心臓を突き刺そうとする。その時……。

カニ　　やめで〜！もうハアいい。
牛の糞　何が、もういいいのえ。
カニ　　サルっこァ可哀想った。
心張棒　「嘘をつぐ」「騙す」は死刑。こごいらのしきたりだ。
カニ　　サルっこァ反省してら。
タタミ針　反省だらサルっこでも出来る。ん……。？
心張棒　昔、テレビのCMさあったんでねえど。
タタミ針　あっ、ハッハハハ……。せば、合ってらな……。？
カニ　　餅っこ喰ったぐれえで、殺すごどァながべ。
クリ　　カニっこァ、それでいいのが？サルっこよ逃がして、本当にいいのだな？
カニ　　いい。オラァ責任取る。
クリ　　そうが。お前がそごまでへるのなら仕方ねえ。今日だけはしきたりよ破るべ。
牛の糞　サルっこァい、えがったな。命よ助けでけるってれ。
サル　　ありがと！ありがと！カニっこァい、この恩は一生忘れねすけ。ありがと〜っ!?

サルは嬉しそうにびよんびよん跳ねながら、下手へ出ていく。

カニ　　サルっこァ〜い！サルっこァ〜い！忘れ物〜！忘れ物〜。

カニはサルの後を追いかけて下手へ去る。

ん？忘れ物って……？

残されたクリ・心張棒・牛の糞・タタミ針たちが集まって、相談する。

タタミ針 クリっこァい、しきたりよ破っていいのが？

ク リ いい訳ァあるってが。しきたりはしきたりだ。

タタミ針 せば？

ク リ ん。カニっこの気持ちは気持ちだ。しても、しきたりの方が優先だ。

牛の糞 せば、あどから、こそっとだな。

ク リ んだ。

心張棒 それで安心した。そでねば、他さ示しがつかねえ。

ク リ いいが、カニっこにわがねえように、心臓よ一突きだ。

タタミ針 ワよ誰だど思ってらっきゃ。一突きのタダミ針だんでェ。そじだごどは一度もねえ。

四人は不気味に笑いながら元の黒子に戻る。

黒子たちの「ぱ～っばぱ～っばぱっばぱ……」という楽しそうでない音楽が聞こえている。

間。

お爺さんEが出てきて、一生懸命畑を耕し始める。

黒子たちの「ぱ～っばぱ～っばぱっばぱ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

黒子たちは次の場の準備をしている。

上手からお婆さんEが出てくる。

婆様 E 爺様ァい、爺さまァい、疲れあんしたべ。ひと休みして、このソバ餅よ喰ってけさい。(風呂敷包みをお爺さんEに手渡す。)

爺様 E (受け取りながら) あ～、ちょんどえがった。ひと休みするびやど思ってらった。こびりっこァソバ餅が。えがった、えがった。やれやれ、どっこいしょっと。

切り株(箱)に腰を降ろし、お婆さんEの持ってきた風呂敷包みをほどいて、ソバ餅を食べようとするころ。

間違って手から転がり落ちる。

お爺さんEは必死にソバ餅を追いかける。(演技が大変!!頑張って!お客さんにソバ餅が見えるかな?)

次の歌?は、黒子たちとお爺さんEとお婆さんEと一緒に歌う?

黒子たち コロコロ、コロコロ、コロロコロ。

爺様 E こら、待で、こら、待で、ソバ餅よ。

婆様 E じい様、じい様、追いつかさい。
黒子たち コロコロ、コロコロ、コロコロ。
爺様 E こら、待で、こら、待で、ソバ餅よ。
婆様 E じい様、じい様、追いつかさい。
黒子たち あらら、あらら、スットントン。
爺様 E あらら、あらら、ネズミ穴。
婆様 E あらら、あらら、ネズミ穴。
黒子たち あらら、あらら、スットントン。
婆様 E 爺様ァい、爺様ァい、どうしあんすべ？
爺様 E （鋏を持っているところ）もったいなしねえ。もったいなしねえ。

お爺さん E は一生懸命鋏で穴を掘っているところ。
黒子たちの「あらら、あらら、ネズミ穴。あらら、あらら、ネズミ穴。」の
歌？が聞こえている。

爺様 E ああああああ……～!?（穴の中へ真っ逆さまのころ）

照明、急激に暗くなり、間もなく薄明りになる。（穴の中のころ）
上手前に、腰をさすっているお爺さん E がいる。

爺様 E （腰をさすりながら）痛だだ……！ん？暗い？穴？ネズミの穴？

上手奥、中央奥、下手前に、それぞれお地藏様が立っている。
黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽぽ……」という楽しそうな音楽が聞
こえている。

爺様 E （上手奥の地藏に）お地藏様、お地藏様、ソバ餅よ知りあんせんがい？
地藏 A うん、あっちの方さコロコロ転がって行った。
爺様 E ありがとうございますあんした。

お爺さん E は一周して。

爺様 E （中央奥の地藏に）お地藏様、お地藏様、ソバ餅よ知りあんせんがい？
地藏 B うん、あっちの方さコロコロ転がって行った。
爺様 E ありがとうございますあんした。

お爺さん E は一周して。
下手サスでも可。

爺様 E （下手前の地藏に）お地藏様、お地藏様、ソバ餅よ知りあんせんがい？

地蔵 C （ニコニコ笑いながら）いやあ、申し訳ね、申し訳ねえ。あのソバ餅ァうま
そったすけ、オラが喰ってしまった。
爺様 E （呆れて）お地蔵様〜い。
地蔵 C 代わりとってはなんだが、爺様に宝物よ授けでやるべ。
爺様 E 宝物？
地蔵 C 爺様、耳よ貸せ。

黒子たちの「ば〜っばば〜っばばっばば……」という楽しそうな音楽が聞こえている。
お爺さん E は地蔵 C の口元に耳を寄せて……。

爺様 E お地蔵様、ありがとうございあんした。したら、さっそく奥へ行ってみあんす。（上手向かって）

お爺さん E は一周して。
明るくなった上手では、ネズミたち（黒子たち）が餅つきをしている。
爺様 E は高く積まれた箱の陰で様子を覗っている。

ネズミたち ♪百になっても
二百になっても
猫の声っこば
聞きたくない
とんとんかん
とんとんかん
♪百になっても
二百になっても
猫の声っこば
聞きたくない
とんとんかん
とんとんかん

爺様 E コケロッコー！

ネズミたち （慌てて餅つきを終える）一番鶏だ。間もなぐ夜ァ明げる。

爺様 E コケロッコー！

ネズミたち （慌てて後片付けにとりかかる）二番鶏だ〜！ちゃっちゃど片付けろ！

爺様 E コケロッコー！

ネズミたち （超慌てて）そうら、三番鶏だ。いっつもより早いんども、今日ァこれでおしまいだ〜！

ネズミたちは大急ぎで去って行く。
取り残される爺様 E。

爺様 E じゃいやいやいやい！お地藏様のへった通りだでァ。つきたでの餅だけでなく、宝物だの大判小判がザックザック。これよ持って帰ったら、婆様ァ大喜びだ。

お爺さん E はウキウキ気分で袋に入れているところ。

黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

隣の欲張り婆さん D が中の様子を覗っている。

お爺さん E は袋に宝物を入れ終わったところ。

爺様 E 婆っちゃ、婆っちゃァい。

婆様 E は〜い。（上手から出てくる）爺っちゃァい、どやしあんした？ネズミの穴の中で何がありあんしたのすか？

爺様 E こ、こ、これ、これ。ネズミんどァ、オラさ、のろっと宝物よ置いていってけだ。

婆様 E あっりゃ、まあ！こったにすか？オラんどさば多すぎあんす。明日、皆さんに分げであげあんしょ。

爺様 E んだ、んだ。それがいい。欲たがりせば、バチァ当だりあんす。

婆様 F （下手から出てくる）済みあんせん、火ダネっこ、分げでけさい。（ワザとらしく）あっりゃ〜、この宝物、どやしあんしたのすか？

爺様 E かくかくしかじか、かくかくしかじかでなす〜。ソバ餅どネズミんどのおがげであんすんだ。

婆様 F あっりゃ〜。んだのすか。したら、こったらごどよしてられねえ。

婆様 E 婆様ァい、遠慮しねで、好きだぶつつ持ってってけさい。

婆様 F いらね、いらね。あ〜、こやしてられねえ。ちゃっちゃど家さ戻ねば。

お婆さん F は急いで下手へ去る。

黒子たちの「ぱ〜っぽぱ〜っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

下手から、お婆さん F に背中を押されたお爺さん F が一緒に飛び出してくる。

婆様 F よごあんすか？オラ、急いでこのソバ餅よ一つ作りあんした。よぐ見ででけさい。（餅を転がしたところ）じゃ、この餅ァゆうごどをきがねえ。きまァ焼げる餅だごど。（餅を足で蹴って穴の中に蹴落とした！）さ、爺っちゃ、この穴よ大っきぐして、ちゃっちゃどネズミのどごさ行っておんでェ。
お爺さん F はめちゃくちゃに穴を掘るころ。

婆様 F 爺っちゃ、そのぐれえでよごあんすべ。したら、行ってきなせえ。せへの！
(背中を押した！)

爺様 F ああああああ……～!? (穴の中へ真っ逆さまのころこ)

照明、急激に暗くなり、間もなく薄明りになる。(穴の中のころこ)
上手前に、腰をさすっているお爺さん E がいる。

爺様 F (腰をさすりながら) 痛だだだ……！ん？暗い？穴？ネズミの穴だ！

上手奥、中央奥、下手前に、それぞれお地蔵様が立っている。
黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうでない音楽
が聞こえている。

爺様 F (上手奥の地蔵に) オラのソバ餅よ知らねど？

地蔵 A さあ、知らないな。

爺様 F あ～、そうがい、そうがい。クサレ地蔵ァい。

お爺さん F は一周して。

爺様 F (中央奥の地蔵に) オラのソバ餅よ知らねど？

地蔵 B さあ、知らないな。

爺様 F あ～、そうがい、そうがい。クサレ地蔵ァい。

お爺さん F は一周して。

下手サスでも可。

爺様 F (下手前の地蔵に) オラのソバ餅よ知らねど？

地蔵 C (顔をしかめながら) ああ、うまぐねえ餅だったんだも、オラが喰った。

爺様 F (怒って) オラの餅よ喰ったのだば、さっさとネズミの宝物のある場所よ教
えろ。

地蔵 C (指を差して) あっち。

黒子たちの「ぱ～っぽぱ～っぽぱっぽっぽ……」という楽しそうでない音
楽が聞こえている。

お爺さん F は一周して。

明るくなった上手では、ネズミたち(黒子たち)が餅つきをしている。

爺様 F は高く積まれた箱の陰で様子を覗っている。

爺様 F あれだ、あれだ。ネズミんどが餅つきよしてらな。

ネズミたち ♪百になっても

二百になっても
猫の声っこば
聞きたくない
とんとんかん
とんとんかん
♪百になっても
二百になっても
猫の声っこば
聞きたくない
とんとんかん
とんとんかん

爺様 F （歌の途中で）これだ、これだ。この歌っこよ聞いたからにはしめたもんだ。
よ～し！（心を込めて）ニャーゴ～！

明かりがパッと消える。薄明かり。

ネズミたち ほらが！ネゴのマネよする泥棒ァ来た～！泥棒ァ、これだ～！

薄明かりのなかで、ネズミたちがお爺さんFをめがけて飛び掛っていくの
が見える。
ネズミたちは、お爺さんFを引っかいたり、噛み付いたりしている。
体が血だらけになったところ。

黒子 F お爺さんは血だらけになって、体中真っ赤に染まった。

お爺さんFはフラフラになり、オイオイ泣きながら、上手へ向かって歩き始
める。
黒子たちの「ば～っばば～っばばっば……」という楽しそうでない音楽
が聞こえている。
照明が明るくなる。

婆様 F （下手から出てきながら）あれ、まんつ、爺っちゃんが歌っこ歌りながら戻っ
てきた。それさ、見だごどもねえよった赤い着物も着てェ。（手を合わせな
がら）ありがだや、ありがたや。

ヨタヨタと歩いてきたお爺さんFがお婆さんのFの前で倒れてしまう。

婆様 F あんだい。どやした……。

びっくりしたお婆さんFの顔。

前サスとバックサスが当たる。

黒子たちの「ば～っばば～っばばっばば……」という楽しそうでない音楽が聞こえている。

間。

黒子1 むが～し、昔、あるどごろに爺様ど婆様アいだったず。爺様ア山さ柴刈りに婆様ア川さ洗濯にいったずものえ～。婆様が川で洗濯したらっきやな、上流がらドンブラコッコドンブラコ、ドンッブラコッコドンブラコど流れできたものアある。何ア流れできたと思ろ？

黒子2 ドンブラコッコだから、だいぶ重そうね。

黒子1 ピンポン！

黒子3 重いものね。犬より重いものだから、馬っ！

黒子2 残念でした。箆筥。

黒子4 箆筥？ずいぶん重いものが流れてきたわね。

黒子1 ヨイコラショッと、婆様ア箆筥を背負って、家さ持って帰ったずおん。家さ着いで、引き出しよ開げだっきや、見だごどもねえよったキレイだ着物がのろっと入ってらったずおん。婆様ア喜んで数えでみだず～。いち、に～、さん、し～、ご～、ろく……。さあさ、みなさんで一緒に数えあんしょ。よごあんすか？ハイ。

黒子たち 一枚～！二枚！～三枚！

黒子1 あ～、申し訳ない、申し訳ない。このお婆さんね、数の前に「お」つけて数える癖があったの。じゃあ、改めて……。

黒子たち お一枚～！お二枚～！お三枚～！お四枚^{しまい}っ～!!

この「お四枚っ～！」と言った瞬間バックサス。

黒子たちは、それぞれ何かを言い合っている。

その中で、黒子たちの「ば～っばば～っばばっばば……」という楽しそうな音楽が聞こえている。

間。

静かに幕。

4.3 『はっちがずっぱど南部弁さみっと in 八戸 2017』

1階はっちひろばで行われた「方言アフレコ」、「たくさんの南部弁を楽しみましょう」に続き、2階のシアター2で「第5回南部弁さみっと in2017」が開催された。青森県南部弁、津軽弁、下北弁、岩手県釜石弁の語りに加え、『八戸弁と盛岡弁』に関するトークなど、内容が盛りだくさんのプログラムとなった。語り部の方々の温かな語りに、時には涙を流

す姿もみられ、会場一体となって様々な方言の魅力を味わい、方言に対する考えを深める機会となった。

以下は当日のプログラムである。

『第5回南部弁の日 南部弁さみっと in 八戸 2017』プログラム

1. 開会のことば

司会：弘前学院大学・今村かほる

2. 語り 1

越膳昌子 紙芝居「権八岩のはなし」

千葉涼子「蛇の嫁っこ」

漁火の会 磯崎彬子「おしらさま」

北村弘子「津波てんでんこ」

藤原マチ子「釜石あの日あの時甚句 東中学校 鵜住居小学校編」

3. トーク

榎谷伸夫・田口友善

『八戸弁と盛岡弁』

司会：岩手大学・小島聡子

4. 語り 2

久慈瑛子「火っこたもれ」

三橋光子「親棄てなぐなった話」

上條佳子「狐退治」

佐々木和子「観音様の御利益」



次から、演者のみなさまのご厚意によって紙芝居、語りの文字化、トークの文字化を掲載する。

なお、校正は基本的に本人に確認していただき、漁火の会の3人の部分は漁火の会にお願いした。

下北方言紙芝居「権八岩のはなし」

語り：越膳昌子 画：土佐そう子



昔、孫次郎間に権八という大柄な体をし、力の強い漁師がいました。

体に似合わず、気立てがやさしく、誰にも好かれていました。

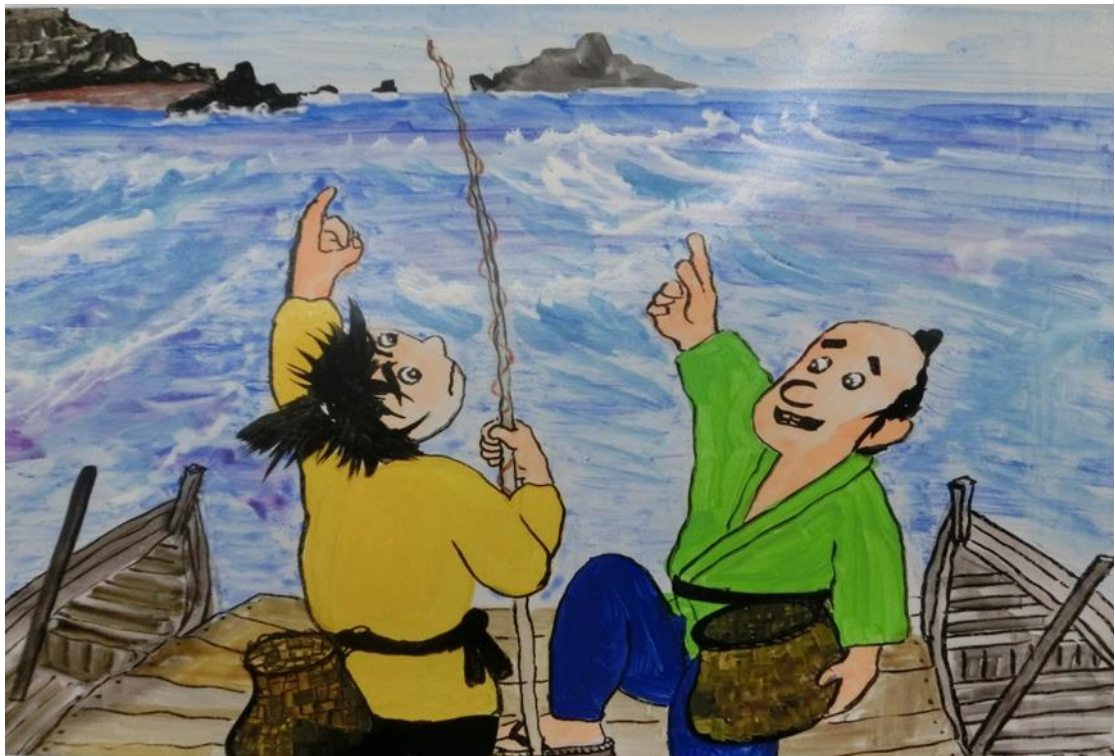
また、馬鹿正直といわれる程、人の言うことを素直にきく男でもありました。だからずるい奴によく騙されていました。

そして損をするようなことがあっても、決して人をうらんだりはしませんでした。

天馬船の櫓を漕ぐにも力があるので、人よりも早く釣り場に着くし、漁も人より多いのが常でした。



獲った魚も、買う人の値付けに従って売ったので、外の人よりも安く早く売れました。だから町の人々も、権八の魚は、安くて生きがよいと評判で、おかみさんたちは、権八の来るのを待っている位でした。



ところが、しばらく権八は町に顔を見せなくなりました。町の人々は、あの頑丈な権八が、まさか、病気じゃなかうにと訝しく思いました。十日たち一と月たつても、権八は姿を見せませんでした。

それは漁師仲間に、伝介という悪賢い男がいて、権八の日頃の働きぶりや、町の人の人気が、癪にさわって、なんとか権八に、とってかわってやろうと考えていたのです。

それには、権八の人の良いのを利用して、騙し、今までの権八の釣場を乗っ取ろうと思いついたのです。

「今までよりもつとよい釣場があるから、そこで釣ったらよい。お前だけに教えるよ。その代り、お前の釣場を俺に譲れ。」

といって交換したのは、澗の岸の近い岩場でした。「誰にも言うなよ、こゝが孫次郎間一番の釣場だ。こゝで釣れば、遠く沖へ出なくてもよいし、漁も多く出来る。」

と言葉巧みに教えました。

人の良い権八は伝介に何回も頭を下げて、「ありがとうございます、こゝで釣れば、婆も安心することだろう。」と礼を言いました。



伝介の言葉を真にうけて、毎日その岩場へ出かけましたが、いつこうに魚がつかれませんでした。

「今日の風向きが悪いのかな。」

「今日の潮が悪いのかな。」

とまだ伝介を信用して、一と月も通ったが、小魚一匹も獲れませんでした。



そこで気の長い権八も、伝介の家に言つて、
「釣れる釣れるといったが、あれから一と月も
行つたが、今まで一匹も釣れない。どうしたも
んだらう。」

と訴えました。

ずるい伝介は、

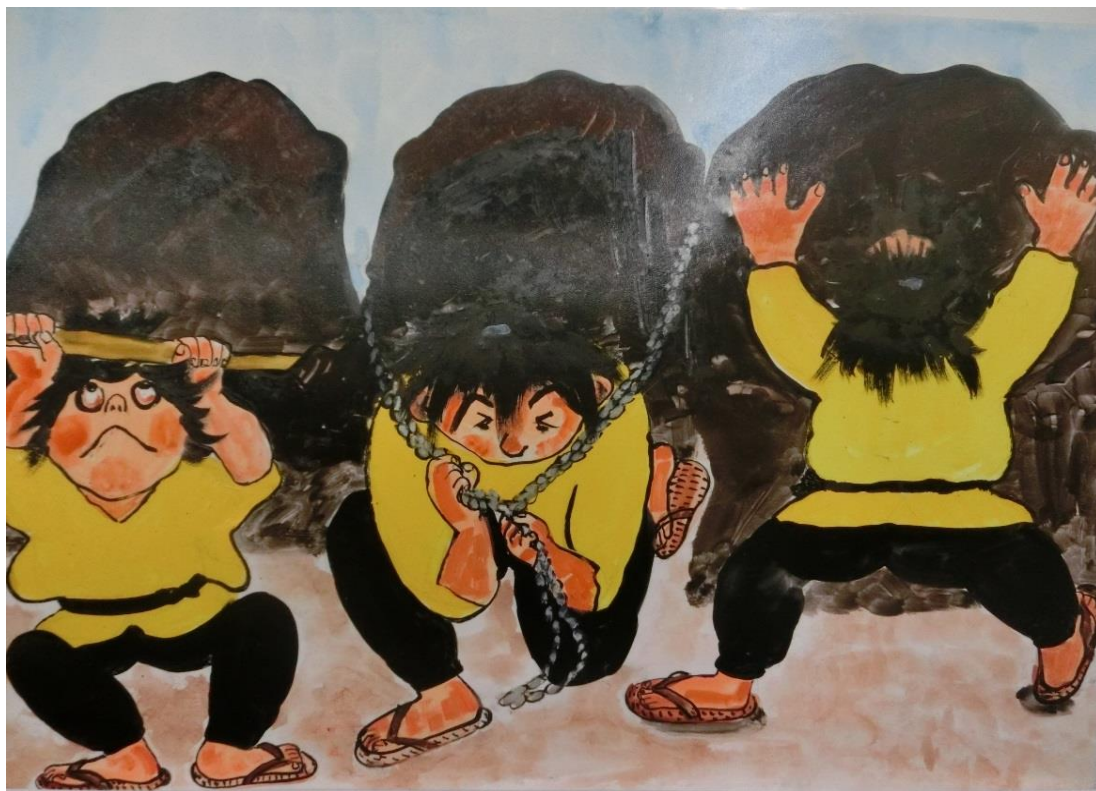
「権八よ、お前、体が大きくて重いので、岩が
沈んであたりにいた魚が逃げたに相違ない。」

ときも本当らしく言い、

「岩を水の上まで引き上げれば、魚がどんど
もどつて来るのだが。」

とも言いました。

権八は、それも真に受けて、次の日から、岩
を動かして、水の上まで上げる作業をしまし
た。



ところが岩は上よりも、砂に埋もれている
ところが大きいので、いかな力持ちの権八で
も手に負えませんでした。それでも権八は、毎
日いろいろな方法で持ち上げようと思いました
が、どうしても動きませんでした。



すっかり疲れ切った権八は、浜辺で休んでいるうちに、ウトウト眠りこけてしまいました。

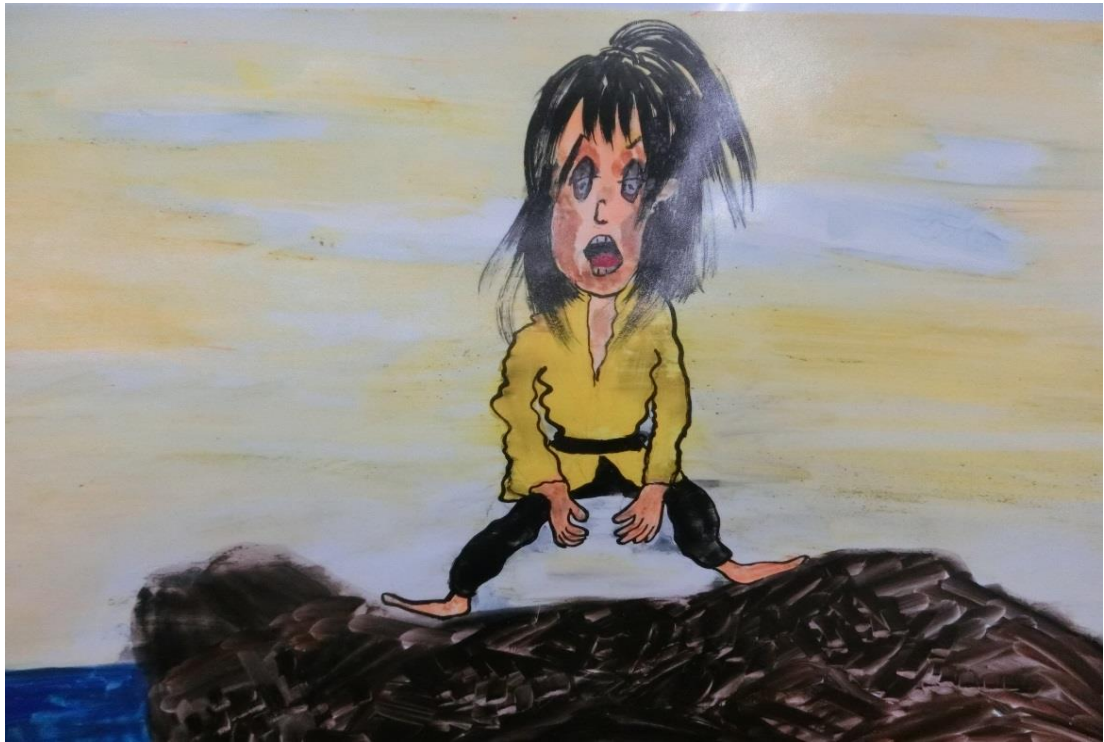
そこへ旅姿をした白髪の老人が、

「権八さんや、あの岩を浮き上げさせるには、下の砂を掘り取って、その分の石を入れるのを繰り返すことじゃ。」
といました。

目を覚めた権八は、あたりを見回しましたが誰もいませんでした。あゝ夢か、とつぶやきながら家へ帰りました。



しかし浜辺で見た夢は忘れられませんでした。
翌日から、権八は、夢で見た通り、岩場の下を掘
つては石を入れる作業を、繰り返ししました。



やがて岩はだんだん高くなり、岩場の表面も広くなって、少し位の波でも、水を覆らなくなる程になりました。

権八は、長い日数かゝって、浮き上がった岩を見て、安心したのか、疲れが一度にどっとでたのか、体を動かすのも億劫なのか、とうとう床にいてしまいました。



太ってたくましい大きな体も、肉が落ち、頬骨が高くなり、目がくぼんで、以前の権八の姿には全く見えませんでした。床について大分たった或る夜、権八は、また夢を見ました。前に浜辺で見た旅の老人でした。

老人は、

「もうそろそろ岩場に魚が集まっているから、行って釣して見るがよい。」

といって消えてしまいました。

春の温い水のぬくもりを感じられる頃でした。

権八は、ふらふしながらも岩場へ行きました。



正夢でした。釣れる釣れる、半時もしないうちに、大きな魚籠に、銀鱗がいっぱいにおどりました。権八は夢の中で見た老人に、手を合わせて拝みました。



正直者の権八は、伝介の家に行って、深々と頭を下げて、

「お陰様で、」

と一部始終を話しました。

これを聞いた伝介は、形を改めて、

「とんでもない、儂が悪かったのだ。」

と自分の企みを打ち明け、権八に逆に平身低頭して謝りました。

伝介はそれから、村役人のところへ行き、あの岩場は権八岩の持岩にして下さいと、二人の事がらを細々と話し、自分が悪かったことをざんげしました。

この話が村役人から、代官様へ、代官様から殿様の耳に入り、権八という男、奇特なことよとほめられ、褒美を下され、さらに、その岩場は権八の生涯の釣場として誰も使ってはならないという、お墨付きを下され、代官を通して布令の高札まで建ちました。

その後権八の身も元通りになり、一生安楽に暮しました。

その岩を今でも権八岩といわれているぞ。

津軽の語り「蛇の嫁っこ」

語り：千葉涼子

昔、「なお」ってす若者居であつたど。さがしくて、たいした働き者であたばて、あんまりくらしへずねくて誰も嫁こさ来てける人いながつたど。

ある日、なお、山さ焚き木こと切りにいったきや、途中で白一い蛇、岩さはさまれでもがいでいだんだど。「あらあら、転がって来た岩さはさまれだんだべ。どらどら」って岩ばどがせでだしてやった。「なんも怪我してねんたな。良がった良がった。さ、今度山さ氣つけて戻ねばまねど」って蛇ば山さはなしてやったど。

それがら、何日が経つたある日、なお、一人で畑仕事していだどごさ、どっから来たがさ、色こ白い娘こぺろっときて、「おら、旅の途中の者だばって、おたてまて、歩けねのす。なんとか、今日一晩泊めでけへ」ってしたど。「泊まるのだきや何もかもわねばって、おらの家かへる物もねし、何もかもてやらねいじゃ」てしたきや、その娘こ「何も泊めでもらうだけでいい」ってその晩、なおの家さ泊めでもらつたど。

次の日のあさま、なお、おぎだきや娘こいつつか起ぎで、まんまの仕度こしてあたど。ひとり暮らしのなお、今まで食たごどもねんた、めえまんまであつたど。

「あらあめじゃ、なんぼめば」って喜んで食てるなおば見で、「そんだんだば、晩もまた、こさえるはんで」ってしたど。「おめ、発っていくでねんだが？」って聞いたきや、「いいんだおん、急ぐ訳でもねし、少し体も休めてはんで、わとばごさ少し置いでけねべが」「なんぼいでもいいばて、あさまからばげまで稼がねばまいね、この家さおめだけんた娘、とてもつとまねべな」「おらも働くの好きだはんで、何ともって置いでけへ」てしたどごでその娘とば置くことにしたど。



釜石の語り「おしらさま」

語り：漁火の会・磯崎彬子

むがァし、あるどごに一軒の百姓家あつたど。

ここの婆さま、はやァぐ（早く）死んでしまつて、めんこい^{おなごわらし}女子童子コと、お父^{どう}と暮らしてだつたど。

お父^{どう}ァ、この^{おなごわらし}女子童子コ、一人で遊んでるの見るにつけで、不憫だなと思って、誰か相手コになるものあれば^{いい}良いなと思つてらつたど。

そうしたどこに、^{つちぶち}土淵の奥のほうの家で、馬コに子コァ生まれたず話コァ聞いだど。

お父^{どう}アは、そこさ、頼みさ行っただ。

訳^{ひとだち}話したれば、そこの家の人達ア、はあ、そんな訳なれば、これ、この小せえ、俺^{おら}いのめんこい馬^いコで良^いがったら、いつでも良^いがら連れてってよがんすよず^{ごど}ウ事になって、貰^{おら}らって来たど。

この童子^{わらし}コさ見せたところ、なにもかにも喜んで、我^{われ}の姉^{あねさま}様が来たように、なついで離^{おら}れねがっただ。

お父^{どう}ア、それ見て、ああ、明日^{あした}から稼^{かせ}ぐの良^いいなって安心して 山仕事^{やま}さ精^{せい}出して稼^{かせ}いだど。

そして、童子^{わらし}コも育^{おが}って、学校^{がっこう}さ入っただ。

学校^{がっこう}から帰^{かえ}ってくれば、はア、靴^{がばん}ば家^{いえ}さぶん投げで、馬^{うま}屋^やさ馳^はせで行^いって、馬^{うま}コ^の顔^{かお}コ、撫^なでだり触^{さす}ったり、学校^{がっこう}の話^{はなし}コ教えたり、歌^{うた}コ歌^{うた}って聞^きかせれば、馬^{うま}コも喜^{よろこ}んで、ヒ^ひン、ヒ^ひンって笑^{わら}ってだっただ。

こうして月^{つき}日は流^{なが}れで、そして、馬^{うま}コも白^{しろ}い毛^け並^{なみ}みのビンガビンガと、立^た派^{はい}な男^{おとこ}馬^{うま}コになっただ。

その娘^{むすめ}コも年^{とし}ごろになっで、女^{おんな}御^ごぶりも良^いいし、気^き立^{だて}ても良^いいもんだから、あ^あちの長^{なが}者^{もの}どんでも嫁^{よめ}コに欲^ほしいって、いやいや、こ^こちの長^{なが}者^{もの}どんでも欲^ほしいってだ^だって、毎^{まい}日^{にち}のように、仲^{なご}人^だア来^きたんだど。

だども、この娘^{むすめ}コア、ど^どの話^{はなし}さも首^{くび}コ縦^{たて}に振^ふんねがっただ。

そこで、お父^{どう}ア聞^きいてみだど。

「これ、おめ、何^{なに}がど^どんだ。こ^こんなに良^いい所^{ところ}からばり嫁^{よめ}ゴに貰^{もら}いさ来^きてんのに、何^{どこ}処^{ところ}がひとつ決^きめて、片^{ひと}づいたらなじょっだ」
って言^いったれば、

「だ^だって、な、お父^{どう}、俺^{おら}、俺^{おら}の馬^{うま}コとな、結^{むす}婚^{こん}すること約^{やく}束^{そく}してだもの、何^{どこ}処^{ところ}さも行^いがね」
って言^いったど。

ある晩、ふと目、覺まして見たれば、娘コいねがったど。

あれ、この夜中に何処^{どこ}さ行^いったべと思^{おも}って、そご^ごア親^{おや}だから心配^{しんぱい}して、あちこち見^みだが、いねがったど。

よもやと思^{おも}って馬屋^{うまや}さ行^いつてみたれば、この娘^{むすめ}コと馬^{うま}コ^ア、夫婦^{ふうふ}になつたように抱^{かか}がさつて寝^ねでらったど。

これ見た親^{おや}父^{ちち}、ムカムカとごせ^{ごせ}っぱりで、次の朝^{あした}ま、娘^{むすめ}コさ用^{よう}、言^いいづけだど。

「はい」

つて返^{かえ}事^じして、馬^{うま}コ見^みさ馬屋^{うまや}さ行^いったど。

「おれな、今^{いま}から遠^{とほ}野^のの町^{まち}さ用^{よう}足^{あし}し^し行^いつてくるがらな。すぐ^{すぐ}に帰^{かへ}えつて来るから待^{まち}つてろよ」

つて馬^{うま}コさ語^{かた}つて馬屋^{うまや}、出^ではつて行^いったど。

お父^{どう}ア、今^{いま}だと思^{おも}って、馬屋^{うまや}さ行^いつて馬^{うま}コ引^ひつ張^はり出^でして、手綱^{てづな}引^ひつ張^はつて、裏^{うら}の大きな桑^{くわ}の木^きさ馬^{うま}コ吊^つるして下^{くだ}げだど。

そして、鎌^{かま}持^もつてきて、馬^{うま}コの皮^{かわ}、ベラベラと剥^はいだど。

半分^{はんぶん}まで剥^はいだつけ、馬^{うま}コ死^しんでしま^{しま}ったど。

そこさ娘^{むすめ}コ、帰^{かえ}つて来^きたつけ。

「おら、今^{いま}、帰^{かえ}つて来^きたぞ」

つて馬屋^{うまや}さ行^いつたれば、馬^{うま}コいねがったど。

「あれ、俺^{おら}の大事^{だいじ}な馬^{うま}コ、俺^{おら}の馬^{うま}コ何^{どこ}処^{どころ}さ行^いつた」

つて探^{さが}し始^{はじ}めだど。

「お父^{どう}、俺^{おら}の馬^{うま}コ、見^みねがったが。俺^{おら}の大事^{だいじ}な大事^{だいじ}な馬^{うま}コ、何^{どこ}処^{どころ}さ行^いつたから知^しらねが」

つて聞^きいたど。

お父^{どう}ア、

「俺^{おら}、知^しらね」

つたど。

そうしたれば、娘^{むすめ}コ、気違^{きづがね}えのようになつて

「あつちにも居^いね。こつちにも居^いね」

つて、とうとう裏^{うら}の桑^{くわ}の木^きさ吊^つる下^{くだ}げた馬^{うま}コ、見^みつけだど。

「あれ、もうじよやな。俺の馬コ、俺の大事な馬コ、誰、こんなにした」

って、馬の首たさ、すがって、オイン、オインと 泣いだんだんど。

そうしたところ、風も何もねがったずが、馬コの皮、ふわっと飛んできて、娘コをクルクルッと包んだと思ったら、はア、空さ、空さと飛んで行ったど。

「ちょっと待で」

って親父ア叫んだが、なんぼしても声が出ねがったど。

ああ、悪いことした。馬コせえ殺してしまえば、この娘コア、何処さが嫁ゴになると思
ってやったごと、馬コはもちろんのこと、娘まで天さ取られでしまったって。

それから、お父は涙、涙で暮らしたど。

それから、なんぼ日がたって、娘コ、夢枕さ立ったど。

「お父、俺の事めごがって育ててけで、ありがどな。俺、ほんだども、お父さ何にも親
孝行もしねうちに馬コと、こんなことになってしまった。俺の生まれ性悪いと思って諦
らめてけろ。そのかわり、俺ど馬コと形見残すがらな。3月16日の朝間になったら、家
の前の臼の中さトドッコという虫コ入れておくから、馬コ吊るして殺した桑の木から葉っ
ぱとって来て喰せでけろ。一月もあずかれば繭コになっから。それ売ってくれば、父ア一
生、食うに困んねがらな」
って、パッと消えたど。

お父ア、16日の朝間を待つて待つて、朝間になったら、家の前の臼の中、見たど。

そしたれば、娘コの夢のとおり、白い虫コア、グジ
ャグジャグジャグジャと入ってたど。

背中コ、見れば、馬コのひずめコのような模様つい
でだど。

ああ、これ、馬コの形見だなと。

そして、桑の葉っぱとってきて喰せだれば、ガサガ
サガサガサと、フンガフンガ喰って、ほんの一月もし
たら、白いべっこな繭コになったど。



ブククラ膨れた繭コ。

ああ、これ、娘の顔と同じだ。これ、娘コの形見だなと思っただ。

それ、背負^{しょ}って行って、遠野の町さ行って売ったれば、高く高く売れて、お父^{どう}アは一生、食うに困^こねがったださ。

そして、思っただ。

なんと、馬コ殺した親さでも、これ、こんな親孝行する娘さ申しわけねえごしたなと思っ^して、馬コを吊^つるした桑の木から枝コ2本切^きってきて、前の方さば馬コの面コ掘^ほって、後ろの方さば娘コの面コ掘^ほって、ぐるっとまる^{まる}って一つにして、毎年毎年できる新しい絹織物、これ、赤く染め^{ぞめ}だり、黄色く染め^{ぞめ}だりして、1枚ずつ着^ませて祀^{まつ}ったのがおしら^{しら}がみさまという神様になったんだ。

このおしら^{しら}がみさまという神様は、繭の神様はもとよりの事、女^めの人の婦人病の神様でもあり、また、目の病の神様でもあるんださ。

これが遠野ばりでね、南部地方さ伝^{つた}わる「おしらさま」という神様になったんだ。
どんどはれ。

釜石の語り「津波てんでんこ」

語り：漁火の会・北村弘子

今から120年前の明治29年の端午の節句の話です。

その日は、朝からシトシト、シトシト、雨、降^ふってあ^あった。

時々、ガダガダア、ガダガダア^あって、弱い地震コ、あ^あった^あった。

だ^だども、端午の節句^{せきぐ}だし^して、その時^{とき}ア、とど（父親）、沖^{おき}さ漁、出^でて、留守^{くす}のとき^{とき}で、お^おっか（母）様と子供3人、居^いだ^だあ^あった。

その3番目の子供、生まれ^うま^まれたばかりで、まだ、エンツコ（藁製揺り籠）さ入^いって、ち^ちや^やつけ（小さい）が^がた^たず^ずも^もん^んな。

そのうちに、子供たち風呂コ入^いれて、それこそ端午のご^ごつ^つつ^つォ（ご馳走）食^くべ^べさ^させて、ほ^ほら、寝^ねろ、寝^ねろ^ろって言^いって寝^ねせて^てだ^だった。

赤^{あか}ん坊^{ぼう}はエンツコ（藁製揺り籠）さ居^いて、そうや^やって^てるうちに、風コも出^でて^てきた^たず^ずも^もん^んな。

ガ^ガタ^タガ^ガタ^タ、バ^バタ^タバ^バタ^タ、バ^バタ^タバ^バタ^タって戸コさ強^{つよ}ぐ風^{ふう}ッ^ッコ、当^{あた}た^たって来^きた^たった。

そのうちに、今^{いま}ま^まで^でに^にね^ねえ（無い）ぐ^ぐれ^れえ、ガ^ガタ^タガ^ガタ^タガ^ガタ^タって揺^ゆれて来^きた^たった。
あ^あっと思^{おも}って^てだ^だっ^っけ、浜^{はま}のほう^{ほう}から

「津波だ一、津波だあ」
って声、聞こえだっただど。
大っきな岩が 波でガラガラガラッって流される来るような音、聞こえであつたど。
「ああ、津波来たあ、逃げねばね」
「こらあ、起きろ」「こらあ、起きろ」
って、上のわらす（子供）2人を起こして、右の手と左の手さ二人の手っこ繋いだっけ
赤ん坊ば 起こして 背負う時間 無^ねがったど。
「ああ、赤ん坊、許してけろ、許してけろ」
って、そのまんま 両の手さ二人の子供連れて、裏山駆け上がったど。
どこなんじょにして駆け上がったもんだが、体中 棘^{いばら}にかっちやがれながら、山の上
さ、上さ、上さって 上がって行ったんだど。
どれくらい時間経^たったんだが、ハッと気がついたれば、夜もしらじらと明けてきてあつ
たど。
そっから浜の方ば 見てみたれば、なんとザブーン、ザブーンって寄せてくる波に、
馬^べコと、牛^べッコと、鶏^けコと、それから、家の戸^{かど}コと 、波に寄せられは 返され 寄せら
れは 返され してだつたど。
昨日まであつた村の家^かコ、みんな見え無^ねぐなってしまったんだど。
とたん
「ありゃあ〜、赤ん坊なんじょなつたべ、赤ん坊、なんじょなつたべっ」
て気が狂ったように、山、駆け下りだど。
「神様、助けてけろ、俺^{おら}いの赤ん坊、助けてけろ」
って、駆け下りて、下りて、下りて 家の前さ着いたれば、家^かコ、あつたつたど。
ああ、家^かッコあつた。
んだども、家の半分ぐらいまで壁^かコ濡れでだつたど。
「ああ 水^{みづ}コ こそまで来たんだな〜」
と思ったとたん
「赤ん坊！ 赤ん坊！」
って開けてみたれば、なんと赤ん坊、エンツコ（藁製揺り籠）さ入ったまま、スヤスヤと
寝てらつたど。波の力でフワー上がって、そのまま波引いてでスーッと下りで…。そのま
んま寝でだつたど。

「ああ、有難がでえ有難がでえ。赤ん坊は赤ん坊で、赤ん坊の命守った、赤ん坊ば神様守っけだ。ああ有難がでえ有難がでえ。」

これが釜石の両石村で明治の津波で 4 軒しか助かんねえがったうちの 1 軒の話。

赤ん坊は、赤ん坊で、自分の命、守った。ちゃっけえ（小さい）子供の二人の手、引いて、母親も兄弟二人の命も、守った。家族全員無事だった。

その時から 命はてんでんこに守るものだぞ！って言い伝えられているんだどさ

どんとはれ



【解説】

＜ここからは 明治津波以降 昭和津波 平成津波の話です＞

それから、昭和にも昭和 9 年、大きな津波が来たんですが、どういう人が津波の被害に遭ったかという、家族を案じて、自分が安全な場所にいたにもかかわらず海辺の家に戻って、家族が逃げたにもかかわらず、心配して戻った家族が波に飲まれて死んでしまった。

こういう話を子供たちに語り継いで、今回の 2011 年 3 月 11 日、命てんでんに守んだぞ、親は親で逃げろよ、子は子で逃げろよ。それを守り継いでくれた釜石の東中学校、鵜住居小学校の子供たち、600 人の子供たちです。この子供たちの事を マスコミが「釜石の奇跡」ということで、また、「釜石ミラクル」ということで世界中に伝えてくれました。「でも、これは奇跡なんかじゃないよ」、その時の生徒さんの言葉です。「あれは奇跡なんかじゃないよ。僕たちは訓練どおり逃げただけだよ。あれは僕たちの実績だよ」その生徒さんの言葉に教えられたような気がしました。奇跡っていうのは実績を積み重ねて初めて奇跡が起こるんだなと。

釜石の甚句「釜石あの日あの時甚句 東中学校 鵜住居小学校編」

語り…漁火の会・藤原マチ子

あの日あの時
甚句に詠めば
時は三月十一日の
忘れもしない大震災
千年一度の大地震
誰が思うか あのだ津波

名所根浜の海岸を
背にして建ったる学校は
あの日 津波に襲われて
今は姿は見えずとも
東中学 鵜の小よ

そこに集いし
生徒児童の六百人
手に手をとって高台へ
早く早くと声を掛け
われに続けと皆を呼び
生きろ生きろと叫ぶ声

最善尽くして非難して
命を守りし子どもたち
他人(ひと)は奇跡と言うけれど
日ごろの教訓 心得よ

一つ 想定とらわれず
二つ 最善つくすこと
三つは 率先非難せよ

親は子どもを信じつつ
子どもは親を信じつつ
自分の命を守ること
そこに生まれし この言葉
「命でんでんこ」

守り守られ 生き抜いて
命が命を紡ぎ出す
未来をつくる子どもたち
褒めてやりたや 希望の子らよ



トーク「八戸弁と盛岡弁」

柗谷伸夫・田口友善

- 【柗谷】 盛岡と八戸の二大スターが来ました。ああ、しよし、肩、凝る。(笑)
- 【田口】 おしよしなす。
- 【柗谷】 ああ、「おしよし」って言うんだ。
- 【田口】 「おしよし」って言いますよ。八戸で何て言うんですか。
- 【柗谷】 「しよし」。ただ、八戸の中心街の方は「おしよし」って言うんです。
- 【田口】 「おしよし」、あ、「お」がつくのね。
- 【柗谷】 病院の朝、おばあさんが着替えしてるのを知らないで看護師さんがカーテン開けたら、「おしよし」の一言。看護師さんは慌てて詰め所に行って、何、持ってきたと思います？

- 【田口】 何？
- 【桎谷】 尿瓶。(笑) 鮫に住む僕のほうは「お」はつきませんけどね。
先ほどワンマンショー、ライブ、ごらんになった方？ 結構すごくたくさんいらっしゃいますね。だから僕、「ここでもやって」ってお願いしたんだけどね、うんって言わない、ちくしょう。(笑)
- 【田口】 ギター持ってないがんすからね。
- 【桎谷】 でも、「がんす」って言うんですね。
- 【田口】 「がんす」って言いますよ。
- 【桎谷】 八戸でも「がんす」って言うんです、「そうでがんす」。ただ、盛岡弁を聞いてると、なんか上品な感じで、おらんどがしゃべるとなんかね、うーん。
- 【田口】 そうそう、盛岡はね、丁寧で上品なんだ。(笑)
- 【桎谷】 いや、それは感じますね。盛岡の盛岡弁を残す会みたいなのに招待されて、十何年前に行ったときに、その人たちの話を聞いたら、なんていうか、僕らも上品と思っていたら、彼らはもっと上品でした。
- 【田口】 あのね、私、ここだからしゃべるけども、盛岡でね、あんまりすまして上品なもんだから、私、どうも抵抗を感じてるのよ。私、生まれ育ちが、さっきもちよっと話したんども、岩手の県北の二戸のフクオカっていうところなんです。ね。そんなもんで盛岡のほうに長く住んでるけど、私は八戸に近い方言、言葉なものですから、酔っぱらうと、はあ、もう盛岡弁はあまり出ないの。
- 【桎谷】 フクオカ弁？
- 【田口】 フゴガ弁っていうんですかね。なもんだから、どうもさっきのように、上品、上品って言われるけど、なにしてくったにへりくだったような、相手の方を奉るみたいなね、そういうのって変に感じませんか？
- 【桎谷】 いや、僕、気持ちいいですよ。(笑) なんか幸せになる感じ。
- 【田口】 そうかそうか。確かにそうかもしれない。特に盛岡の八幡っていうところは昔遊廓だったんだけど、やっぱりお客さんを気持ちよくさせるために、あ、気持ちよくさせるって……。
- 【桎谷】 なんもそごまで考えでないってば。(笑)
- 【田口】 俺、つつい考えてしまっちゃってね。(笑) それで、あそこが一番丁寧なんですよ。
- 【桎谷】 八幡町ってのは、八幡宮があるあたり？
- 【田口】 そうそう。
- 【桎谷】 うちの弟、そこで結婚式した。
- 【田口】 ああ、そうなの。
- 【桎谷】 あの辺？
- 【田口】 うん、あの辺、昔、遊廓あったんですよ。
- 【桎谷】 八戸にも、昔、小中野に遊廓があったんだけど、小中野って、そんなに上品だっけが？ いやいや、小中野ァ、上品だ、ごめんなさい。(笑)
- 【田口】 だから、何でも「お」がつくのね。さっき言ったみたいに、「おもさげながんす」、申し訳ないだけでいいのに、「おもさげながんす」って。私、一番違和感

を感じたのは、「ありがとうございます」っていうのに「お」がつくんですよ。

「おありがとうございます」って言うんだよね。

【柗谷】 こっちは「ございあんした」「ありがとうございます」、八戸の中心街ではそういうふうな言い方をしますね。

【田口】 「おありがとうございます」。

【柗谷】 「ござんした」。

【田口】 「ござんす」とかね。

【柗谷】 八戸でもちょっとあれですよ、「ございあんした」って丁寧な言葉。

【田口】 「ございあんした」って、ふーん。だから、多分そういう丁寧な気持ちがついていくなね、そういうふうな言い回しになってくるのかなと思ってんだけど、なんにもそったにまでしなくもいいように思うんですよ。こういうのを盛岡でしゃべると叱られますけどね。それで、ごしゃがれるんですよ。

【柗谷】 でも、盛岡あたりは若い人たちは、盛岡弁っていうのはどうなんですか。

【田口】 最近ね、方言コスプレが流行っててね。

【柗谷】 はあ、いいね。

【田口】 八戸の若い人たちもそうだと思うけど、やたら方言を使いたがってきている特に女子高生なんかがちょっと方言しゃべると英雄みたいになっちゃってるのね。そういうの、ないですか。

【柗谷】 八戸、高校のほうはわからないけど、高校の先生、どうですか。

【田口】 あ、いるじゃ、そこさハシモトさんでねの？ 盛岡さいた人だよ。

【橋本】 いや、あんまり。

【田口】 あれあれ。

【柗谷】 まだ来てないんだ、そういう流行が。(笑)

【田口】 これ、東京から始まってんだよ。(笑)

【柗谷】 ندیしょ。

【田口】 方言コスプレとかなんか言っちゃって。

【柗谷】 うーん、そうか。弘前出身の坂本先生が、今年の4月から八戸の中学校に勤めているんだけど、こんなことを言っていました。「弘前の中高生は、言葉としては津軽弁ではないんだけど、アクセントは、聞いてて津軽弁。ところが、八戸に来たら、中学生、高校生にはそういうものが全くない。南部弁っていうのは本当にはないんですね、若い人には」って。そうなんですね。早くコスプレ、来ねがな。

【田口】 なぁに、柗谷さん、こったに南部弁、流行らがしてで。

【柗谷】 いやいや、流行ってねえがら、流行らがそうとうして何とかしてんの。俺、歌コ歌いたいんだけどギター弾けねえし。

【田口】 なぁに、そのかわりに演劇やってるじゃないですか。さっきの中学生の劇、おもしろかったよ。

【柗谷】 ありがとうございます。

【田口】 本当によぐできてて、さすがだ。

【柗谷】 いやいや、褒めて……。

- 【田口】 やっぱ褒めねば、ほら。
- 【柗谷】 僕じゃなくて中学生をな。
- 【田口】 中学生、褒めてるんだ。(笑)
- 【柗谷】 実際は、文化祭で六十何人で1時間やったんです。今日はその中で、あそこの部分に出た生徒たちだけ来たんだけど、中三で受験なのに、文化祭が終わって、その後また一生懸命稽古して、本当に感謝ですよ。やっぱり少しずつだけれども、そういう形で小学校でも中学校でも、文化祭で、南部弁の演劇か何かをやろうというのは、少しずつ広まってきてるなという気はしてますけどね。
- 【田口】 少しずつね、少しずつっていうのは盛岡だと「べっこ」と言うんですけど、言います？
- 【柗谷】 「べっこ」と言います、言います。
- 【田口】 でも、私の二戸では「ちょぺっと」っていうの。
- 【柗谷】 あ、それもしゃべる。
- 【田口】 しゃべる？
- 【柗谷】 しゃべる、しゃべる。
- 【田口】 あれ、ちょっとべっこだから「ちょぺっと」っていうらしいんだけど、「べっこ」よりも「ちょぺっと」のほうが「べっこ」のような気がするんです。(笑)
- いや、響きがすごくいいじゃないですか。
- 【柗谷】 「ぺっこけろ」。でも、こっちでは「ちょぺっと」のほうが多いですね、「ぺっこ」よりは。
- 【田口】 多い。英語だと「a bit」。さっきも英語使ってたからさ、少しわがんだが。いずれそういうことで、さっき、柗谷さん、アナウンス、はっちの中で盛岡弁の日だから盛岡弁でアナウンスしやんすっていうか、そういう感じでやってたじゃないですか。どうもなんか、あれを盛岡でやったらどうなるのかなっていうふうに思って聞いてらったらね、さっき、受付のガイドさんに、「原稿あるんですか」って言ったら、「ある」って。これは明日出はる十日市さんからチェックしてもらった南部弁の日のアナウンスだって。「アナウンスも南部弁でお届けしあんす」って書いてあったら、十日市さん、「南部弁で聞いてけるな」って。
- 【柗谷】 そっちのほうがすごいフレンドリーで、聞きやすいですね。
- 【田口】 フレンドリーですね。これ、盛岡弁だと何て言うかわかりやんすか。
- 【柗谷】 わかりません。
- 【田口】 盛岡弁だと「聞いてくなんしえ」って。
- 【柗谷】 ああ、「くなんしえ」、そうそう。
- 【田口】 「くなんしえ」なのよ、これに慣れるまで、俺、盛岡までゆるぐなかったね。
- 【柗谷】 いやあ、でも、いい……。
- 【田口】 響きでしょ。
- 【柗谷】 響きだな。
- 【田口】 「くなんしえ」って言うと……。
- 【柗谷】 何でもやってあげるって感じ。(笑)

- 【田口】 なんかフランス語っぽい感じもちよっとするでしょ。「くなんしえ」。それから、「来てけでありがとう」って、「はっちさ来てけでありがとう」。盛岡だと、「おんであつてくなしえって、おありがとうござんした」って、やっぱり「お」がつくんですよね。馬鹿丁寧でしょ。
- 【柗谷】 さすが盛岡十万石。十万石の城下町だね。ここは二万石。やっぱりそのせいだな。(笑)
- 【田口】 たった二万石なの？(笑)
- 【柗谷】 俺、決めたわけだね、幕府が決めだんだすけ。
- 【田口】 南部の殿様ね、決めたことなのかもしれないけど、しかし、この南部藩の中で、私、盛岡弁で一番ひよんたな方言でねえがなと思ってる。今みたいにな、あんまりにも馬鹿丁寧だから。さっき、釜石の方。
- 【柗谷】 一番最初のおしらさまの話コ。
- 【田口】 そうそう、あれ、岩手の県南のほうなんだけど、すごく僕は違和感感じないんですよ。かえって岩手の県北のほうと近いというか、盛岡弁のほうが、この南部藩の中で、盛岡のこのところだけがなんか馬鹿丁寧だね。
- 【柗谷】 やっぱりお殿様いるから、えふりこぎ多いんでねべが。
- 【田口】 えふりこぎ？
- 【柗谷】 おっかながったんでね？
- 【田口】 京の近くの近江商人っていう人たちがたくさん。
- 【柗谷】 江戸にも来てる。
- 【田口】 来てますよね。でも、江戸でそんな京の言葉って、それほど残ってないじゃないですか。
- 【柗谷】 そう言われると困るけども。薩摩の言葉は残ってるんですよ。
- 【田口】 薩摩？
- 【柗谷】 うん、「そうでごわす」。
- 【田口】 あ、「ごわす」。
- 【柗谷】 なしてだと思ふ？ 江戸の最後の殿様、鹿児島から養子に来たの。島津重豪の13番目だか何番目だが。だから、鳥羽伏見の戦い以降、戊辰戦争で大変だったの。まわりはみんな幕府だべし、殿様、鹿児島だ。江戸、どっちゃついたらいがべっているいろいろ画策したみったの。それやこれやで大変だったんだ。俺、知らねんども。(笑)でも、きっと殿様がそういう言葉を使ったから、周りの人たちがそういう言葉を使うようになったのかな。だから、新しい方言なのかな。本当は「ごわす」が「がんす」にちょっと訛ったのかなと思っていだんども、そうじゃながったんだ。「がんす」はもともとあった。
- 【田口】 そういう武士言葉が変化してきてるので、「ござんす」は宮古のほうに来ると「ごぜんす」って言うんですよ。さっき、「じゃ」だの「じえ」だのなまったの、「ま」だの「ぞ」だのって言ったでしょ。「じえじえじえ」とか。
- 【柗谷】 ちょっと南のほうへ行くと「じえ」。
- 【田口】 そうなんです。それが「ござんす」「ごぜんす」って言う。おもしろいもんだなと思ふ。

- 【柩谷】 岩手県っていうと、海岸線ずっと長いわけでしょ。
- 【田口】 長い。
- 【柩谷】 ずっと言葉が違うんだ。
- 【田口】 リアス式で、隣の山越えていくのに、向こうの岬回って行くのにたまげた時間かかるから、交流があまりないじゃないですか。だから、そこ独自の言葉が「じゃ」になったんだろうなと思う。だって、小袖のたった 200 世帯もねえような小さい部落で。
- 【柩谷】ほんとにへき地だもんね、あそこはね。
- 【田口】 へき地だよ。平家の落人だか住みついたところだか何とかっていう伝説もあるようですが、いずれ、地域地域で違うもんだなと。
- 【柩谷】 だから、同じようなことで、沖縄で岬一つ越えると、村同士が言葉が通じない、極端に言うと、それくらい言葉が違う。もちろん、生活基盤が農業であったり林業であったり漁業であったりして、生活の様子が違えば全く言葉が通じない。
- 【田口】 私、八戸に来てちょっとまだわからないのが、町なかの言葉と鮫のほうのいさばのかっちゃだじがいっぱい来るところ、あそこの言葉と、やっぱりちょっとニュアンス違うなと思って、きついでしょ、いさばのかっちゃたち。
- 【柩谷】 僕はとっても上品だと思うんですよ、八戸の中で。鮫だもん。(笑)
- 【田口】 鮫なの？
- 【柩谷】 鮫なの。
- 【田口】 あれれれ。目がさめだ。(笑)
- 【柩谷】 南部弁の日のもとになった正部家種康さんによく言われていたんです。「柩谷さんの南部弁はほんとの南部弁でねんだよな」と。仕方ねえんだもえ。
- 【田口】 よくわかる。私も盛岡でそうなの。「友善さんのは盛岡弁でねえなす」と言われますね。そして、やたら「なす」「なす」が多いのよ。
- 【柩谷】 こっちだって、もともとは「なす」を使うんだけど。
- 【田口】 とんでもないよ。「はっち」のアナウンスの原稿に「なす」って、大体2つしか出てこないのね。
- 【柩谷】 これ、いさばのかっちゃがやってるから。いさばのかっちゃが「なす」なんて使ってれば、魚、腐ってしまうでしょ。早くしゃべねばわがね。
- 【田口】 あ、それだったのか。(笑)
- 【柩谷】 街の人たちは、もともとは上品な言葉、使ってる。
- 【田口】 盛岡、八戸から見たら腐ったような魚しか来ねもの。(笑) 時間が別に気にならないから、何かすると「なす」「なす」って、「なす」ばかりが多いの。
- 【柩谷】 「きゅうり」がないんだ。(笑)
- でもさ、今日、盛岡弁でいろんな歌を歌っていただいて、やっぱり聞いている方々はすごく新鮮で、インパクトがあったと思う。僕はギター弾けないし、歌は調子っぱずれだから、誰か探して八戸の田口友善を育てたいな、見つけたいなと。それと、こっちゃん来て住んでみへ。退職したんだべ。だって、息子さんが東京で、娘さんがパリだずもの。もう、はあ、いいべ、盛岡。
- 【田口】 俺もこうして盛岡さ、こうしてみると長く住んでるんだけど、どうもこの先、

どうするがなとちょっとだけ考えでる。

【榎谷】 こっちゃ越せ。

【田口】 こっちさ来たくなるよね。(笑)

【榎谷】 でも、こうやって盛岡と八戸と少し交流を続けていきたいですね。

【田口】 そう思いますね。僕、榎谷さんの南部弁スピードラーニングっていうのがあるのね。あれ、すばらしいわ。あのテンポがすごくいいのよ。これ、盛岡弁になると、テンポがゆっくりになる。だから、スピードラーニングにならないんじゃないかなと思って。

【榎谷】 寝るな。

【田口】 寝る？

【榎谷】 聞きながら寝るね。

【田口】 それはもっといいんでね。

あれはね、目、覚めるよ。

【榎谷】 ありがとうございます。12月中旬ごろ発売になると思います。

【田口】 まだ出てないの？

【榎谷】 あれはみんなプレゼントしたんだけど、個人的に欲しい、欲しいという方がいっぱいあって。

【田口】 ぜひ皆さんもあれをお買い求めください。

【榎谷】 いやいや、ここに来て宣伝してけでありがっつと。

【田口】 いや、おありがとうございます。

【榎谷】 時間になりました。どうもありがとうございます。



三戸の語り「火っこたもれ」

語り：久慈瑛子

昔々、あったずもな。

ある山奥に^{あらぎ}壟おごして（開墾すること）、ソバだのヒエだの蒔いで、細々と暮らしていだ、若夫婦が居だったずもな。

嫁っこの名前は「おもよ」って言って、器量だばまんずまんずだども、たまげた気立てが良くて、働き者だったず。

ある冬の寒い朝間、おもよはいつもより早く起きだずもな。その日は、おもよが嫁に来て3年目の朝間だったず。「石の上にも3年」って嫁に来て3年、辛抱したれば、その家の嫁こになれると、心に決めて、働いできたおもよにとっては、その日の朝間のまま炊ぎ（飯炊ぎ）は、特別なものがあつたのだず。

さて、おもよはまま炊くべと思って、流しさ行つたずもな。かまどの前さ立って、薪さ火いつけるべと思つたずども、火打ち石がいつものどこにながつたず。どこさ行つたもんだべと思ってあちこち探したずども、やっぱり火打ち石はながつたず。隣りの家っこさ、火っこ貫いに行くべと思つても、山根の隣りの家は、遠くて遠くて行ったり来たりしてるうちに、夜が明げるべし。おもよは困ってしまったずもな。

この3年目の朝間にまんま炊げねよったば、おらあ、ここの家に縁がないものだと思ったら、おもよは何だが情けなくなってきたず。したども（けれども）、まあ明るくなったら、またもう1回捜してみるべし。そのうちに外の雪かぎでもするべ、と言って、外さ出て行っただ。外はまんだ暗くて、星っこ出てだっただもな。ゆうべ降った雪が、ずっぱど（いっぱい）たまっていだっただ。

おもよは雪かぎもしねえで、ぼんやりど、ずうっと遠くの方見でいだら、ぽっと明がりっこ見えだず。黙って見でいだら、その明がりっこが、ぽっぱ、ぽっぱど山根の方さ向かってきたずもな。「ありゃあ、どごの人だべ？この寒い朝間に」と思っていだら、その火こが段々、おもよの家の方さ、向かってきたずもな。おもよがよぐよぐ見だら、その火こは提灯の火っこのようだっただ。おもよは「はあ～、提灯の火っこだ、あれがら火種っこ貰うにいいな」と思っているうちに、その火っこは、おもよの前さ飛ぶようにしてきたず。

何んとそれは、提灯を先立てて（先に立てて）、えっさえっさと棺桶^{がんおけ}を棒で担いだ男二人だっただ。その早いごと、早いごと、黙っていればもう過ぎ去っていくような感じだっただすけに、おもよは「火っこたもれ（火っこください）！」と叫んでしまっただ。そしたらその男達が急に止まっただもな。さあ、その男を見だら、手ぬぐいば被って、ほっかむりして面っこは見えねがっただ。薄気味悪いなと思っただも、その男が息急切^{いぎせき}切^きって（息を急切^{いぎせき}切^きって）「何んの用だべ？」って言っただ。おもよは提灯を指さして「火っこたもれ！まま炊ぐ火っこたもれ！」って言っただ。そしたら、その男達が置いだ棺桶が、なんと、「ずしらずしら」と雪さ埋まっていっただもな。後ろの男の人が、同じくほっかむりしてい、面っこ見えねがっただも「いがべ！火こやってもいいども、この早桶（棺桶）も一緒に貰ってけねばわがね！」って言っただ。おもよは「ええ～、この棺桶まで貰ねばわがねのが（駄目なのか）」と思っただも、まま炊きたい一心で「良がべ」って言っただもな。そ

ごで、その棺桶は、おもよの家^{かぐち}の隔地の方さ運んでもらっただ。もうその頃になっただ、辺りほどりが明るくなっただ。おもよは提灯っこ抱いて家さ入るべとして、あの男の人達の姿っこ捜したずども、その男の人達はどこさ行っただもんだが、見えねがっただ。「不思議だなあ」と思いながら、おもよは、かまどの前さ行って薪さ火っこつ



けたず。薪っこ勢いよぐ、ぼおっと燃えたずもな。おもよは、ほっとしたず。3年目の朝間のまま、これでようやと炊げると安心したず。まま炊げるかまりっこ（匂い）が、その辺さ広がっただもな。おもよは、あん様（兄様。長男）ば起ごしに行っただ。そして、

あん様に朝飯^{あさめし}食せだ（朝飯を食べさせた）ず。ヒエ飯に干し菜汁か^かで（加えて）、あん様は「うめ、うめ」って食ってけだず。したどもおもよはさつき貰った棺桶のことで胸いっぱいだっただ。そこで、おもよはあん様に正直に今朝起ぎだ話をしたずもな。そしたら、

あん様は「良い良い、これも何んがの縁だべ、まず仏様の顔っこ見で、ねんごろに埋めてやるべし」って、隔地さ立って行っただ。おもよもその後に立って行っただ。それから二人で拌んだ。あん様は、おもむろにその棺桶の荒縄をほどいたずもな。そして、その蓋に手をかけた。おもよはそれを見て、はあ、まなぐ（目）つぶってしまったずもな。あん様が棺桶の蓋を開けた途端に「わあっ！」っと大きい声を出した。見でみろ！こりや死人でねえ、^{しびと}銭^{じえに}っこ入ってら！」さあ、おもよも飛んで行って見たずもな、そしたら何んと死人でなくて、やっぱり銭っこがいっぱい詰まっていた。貧乏な二人にしたら「神様がおらんどさ授けでけだごった」って、喜んだ。それから二人は今まで以上に壘を起こして一生懸命働いで、^{はだけ}畑^{はだけ}っこだの田を広くしたのだ。どっとはれ。

津軽の語り「親棄てなぐなった話」

語り：三橋光子

親なげねぐなった話っこ。^{むかしむかし}昔々、津軽の国に、なにほど年寄り好ぎでね殿様いであつたんだ。なんば年寄り好ぎでねばな。年いったら、六十過ぎだら山さなげでこいたつきや触れ出してあつた。家来だち、殿様、どうしてそう年寄り好ぎでねんだ、そたことへばまいねんだねって、聞いた。したつきや、年寄りつうものはじょんで「うん」てしね。なんば、「それ汚ねねろ」っても「今これ洗うだね」。「それそへばまいねね」してでも「んにゃ、ほんでね」。じょっぱりでじょっぱりで、人の話じょんで聞くもんでねどごで、こつた年寄りだつきや山さなげでこい、って触れ出してあつたんだ。家来諫めだつてどしたってなんも聞くもんでねど、殿様だもんだどごで。そうしてらつきや、そのある村に、兄とおんじど、あやど三人して^{ながい}仲良ぐ暮らしてあつたんだ。したばってだんだんあや年寄ってきて、爺になつてきた。したばって兄とおんじ、いだわしくていだわしくて、その爺ばなげでこらいねあど。しともちしてらうちに、爺、自分で、年いったもんだどごで、「わらはんどあ」って、「わあ、明日山さ行くはんで、握り飯^{まま}作ってけろじゃ。わあ、明日だば山さ行くあ」。自分からしゃべった。次の日、今度、^{しがだ}仕方ねえ、二人して、爺ばおぼって山さ行っただ。そいでも、爺ば山さ置いてこらいねあど、いだわしくて。そうしてらうちに、薄暗ぐなつてきたどごで、爺、「戻れ。おめだち^{とぎ}戻る時、けんど間違えればまいねはんで、わ、ずうっと、木の枝っこずうっと折ってきたはんで、その木の枝っこ折ったとおりに家さ^い戻なが。へば、迷ねで家さ届ぐはんで」ってしゃべってけだ

ど。したっきゃ、戻り姿でそうやって見だっきゃ、なるほど木の枝っこばかばかどみんな折らさってあったど。そのとおりに来たっきゃ、家^いさ届いだど。二、三日したばって、どうしてもしげねあど。したっきゃおんじ、「あんちゃあ、おいの爺^いばむげに行くべし、しげねふてどすだば」ってしゃべったど。兄もしげねふてしげねふて困ってらどごさおじにかってそさいだもんだどごで、「むげに行くべし。いね、このまげさ隠^{かぐ}しておぐべし。ださも会わへねば、分がねね」って、つで来たど。つで来てださも分がねようにまげさ隠^{かぐ}しておいで、月^{つき}日^ひ暮らしたど。そしてらうちに、その年、ややや毎年雨降ったり、嵐来たりして、たんだでね年であったど。その時^{とき}も、ならさるしからさる雨降る、なにほど何日^{なにち}も雨続いだど。そしたっきゃ、その村の、でったらだ川さ、木、なんぼでも流いで来ただど。なんだばこの木ど思って見でらっきゃ、ずうっと川上の方の、山がら、山こだち、木、いっぺ貯めでら貯^ど木^ぼ場だど。その貯^ど木^ぼ場がら、来た木、がっぱど流いで来たもんだどや。そのうちの、でったらだ桂の木今度その村さどんと上がったど。したっきゃ、その村の人だちも、「こった立派だ桂の木だば見だことねや。なにほど立派だ。大水来たずたんだでねばってこの木だっきゃ授^{さんず}げもんだこりや。こいだば、殿様のどちゃ持っていつて、殿様さあげねばまいじゃ」ってみんなして、殿様のどごさその桂の木持っていったど。殿様も、「わい、こった立派だ桂の木だば見だことねや。こいだばこの次城建でる時^{とき}使るべし」っていうことになったど。したばて、だゑ見だたて、その桂の木の根元^{ねもと}分がなんねあど。何人の人に見でもらってもその桂の木の根元^{ねもと}ど、うらばちど、分がらねあど。したもんだどごで、まだ触れ、出したど。でったらだ立で札さ、この木の根元^{ねもと}分がった者には、褒美たくさんやるって書いであったずおん。それ見だ兄とおんじ、「おいの爺だば分がるがもわがねな」ってして、「爺、分がるな」って聞きに行ったど。そしたっきゃ爺、「なんもそいだっきゃ簡単だもんだね」兄とおんじに、しかへだど。次の日、殿様のどごさ行って、「わだば分がる」って申し出だずおん。そしたっきゃ、「へばやってみろ」って家来だちしたもんだどごで、「どへばいずや」って聞いたっきゃ、「この川さ、水いっぺ貯めでけろ。木の真^{なが}ん中さ、縄持ってゆつがして、縄もってぎりっと縛ってけろ」ってしゃべったど。そのとおりに川の水いっぱい貯めで、その桂の木の真^{なが}ん中さ、縄でぎりっと縛

ったど。「よし、この木、この貯めだ川の中さ、^{なが}どんとへでけれ」ってしたど。そうした
っきゃ、ちょっと上がって、ちょっと沈んだど。なんぼけりやっても、木、真ん中のロー
プよりもちょっと上がって、ちょっと沈んだど。この、沈んだ方ず根元で、うらっぱち、
軽いどごで、わんつか上がるだね、ってこうなったずねろ。そうしてらうちに、^{かみ}上の方ず
がら、名だたる大工が来たあど。そしたっきゃそ
の殿様、「この木の根元^{ねもと}こちでいだな、うらぱちこ
ちだな」って聞いだど。したきゃそのとおりでっ
て、その、有名だ大工しゃべったど。「おらだち今
まで、国の者だちみんなしてでも分がらねもの、
この村の若者^{わげもの}二人おべで、おめだちどうしておべ
だだば」って殿様今度聞いだど。したっきゃ、「め
やぐだばっておいの爺いだわしくてまげさ^{かぐ}隠して



おいでら、その爺に聞いて、今こうやって来ただ」って、若者^{わげもの}だち正直にしゃべったずお
ん。したっきゃ、「なるほど年いった人だちはそういう知恵がいつもあるだずもんな。こ
れがらは年寄りなげねことにするべし」っていうことになって、今度は津軽の国で、年寄
りなげなぐなったどごで、今までずっと津軽続いできたんだど。とっちばれ。

八戸の語り「狐退治」

語り：上條佳子

むがーしむがし、ここ、^{はち}八戸さば人ば騙くらがすきづねが、あっちゃこっちゃさ住んで
らったんだど。新井田けんどのあだり、ばげがださなれば、肥溜めの中さ、
「お風呂だえー」
って入れられだり、
「酒っこどんぞー」
って、馬のしょんべん飲ませられだり、
「饅頭どんぞー」
って、馬糞ば食わせられだりしたずおんえ。新井田村の孫吉じさま、
「なんとかなんねえもんだべがなー」
って、考えでらったず。

ある日のこと、八戸さ正月の町使いさ行くことになりやんした。

じさま、いろいろだ準備して、荷車さ、どういうわけだが、えんつこばくくりつけやん

した。

「いやいやいやいやいや、じさまじさま。なーに荷車さ、えんつこばくぐりつけで。おもだつつらしねせつちよはぐべな。」

「なーにばさま、楽しみにして待ってろじゃ」

八戸さ町使いに来やんした。魚町っこで、塩引きっこ買って、櫓横丁で、足袋っこの、あめっこの、油揚げっこの買って。最後に、じょーんぶだ麻縄っこ買いやんした。

ぜーんぶ持って、館越し山の麓まで来だどぎ、わざとおっきだしねえ声で、

「あぁー、困ったなぁー。とうとう日が暮れでしまった。あだりや真っ暗になってしまった。いっつもだば、孫の花子あ、提灯もってくるんどもなー。今日は遅いなー。ばさまさ頼まれだ油揚げっこのっこりど買って来たのになー。どやしたべなー。ほにほにゆくてねーわらしだべなー。」

さ、この話っこ、きづねが聞がねわけねえ。

「しめしめ、今日のご馳走にありつけるぞおー」

って、花子さ化けで、

「じっちゃー、じっちゃー、待ったがえー」

って、走って来たど。

「おお、おお、待ったども、待ったども。遅がったのお。早くえさ戻るべし。いつものように提灯持って、前ば歩いてけろ。」

って、へったず。花子さ化けだきづね、そのまんま提灯もって前ば歩いてった。

新井田橋の見えできたあだりで、じさま花子さへったず。

「花子や花子や、疲れだべ。いつものように、はやぐ荷車のえんつこさ乗れ。」

「なんもなんも、疲れでね、疲れでね。」

「いやっ、おがしいなあ、いっつもだばここらへんさ来れば、じっちゃ乗せでけろーってへるのに。まっさが、きづねが化けでらんでねがべがな。」

「いやいやいや、違う違う違う。そんだそんだ、いっつもそんだったな」

って、えんつこさ乗ったずもえ。

「よし、んだら眠ってもおちねえように、縄っこかげでけるすけなあ」

「いやいや、縄いらね縄いらね」

って、

「んだったって、ねってしまえば、とっくり落ちるべな。なーんも。ゆるーぐかけでけるすけ。」

口ではそう言いながら、ぎりーっとゆきっぱった。

さあ荷車さつけで、だんがだんがだんがだんか進んで行っただ。新井田村のあがりっこ見えで来たどごで、

「さぁー、急ぐどー。あがりっこ見えできたー。」

「いや急がねんでけろ、急がねんでけろ」

そんなごど言ってもは一、じさまさは何も聞けね、飛ばして飛ばして飛ばして飛ばして

「きづねだー！きづねつかまえだどー！」
って。

「あー、じさまさはがられだー」
と思ったきづねあ、もどの姿さ戻って、縄ば、
「カリッ、カリッ、カリッ」
かじったども、ぎりっとゆきぱった縄あ、切れるもん
じゃねえ。
「あー、じさまあ、ゆるしてけろじゃー。ゆるしてけ
ろじゃー。」



じさまあ、きづねが一生懸命ほんとつけーしてめつろよ流して謝るもんだすけ、かわいそ
うになって、
「んだな、許してけるが、しがだね。ホントに悪いことしねーが」
「うん、この通りでやんす。このとーり。もう悪いこと絶対しやんせん」
ほんとつけーして頼むすけ、じさま、とうとう許してけで、
「館越山さ帰えるんだー」
ってへったずおん。それがらどういうもの、きづねはほんとに悪さはしなぐなった。それど
ごろが、孫吉じさまのえさ不幸ごどありそうになれば、どっからともなくやってきて
「ギャラゴーン、ギャラゴーン」
って鳴いで、不幸ごとあ重ならないように教えでけだっというごどです。この話っこあこ
れで、どっとはらい。

五戸の語り「観音様の御利益」

語り：佐々木和子

むがーしあったずおん。あるどごろに、なんもかも貧乏だ爺さまいだっただ。へだへで、
六十になるこの年まで、嫁こもらえねがった。へだがら子供もねがったんだど。
そごで爺さまは考えだ。何しておらばりこつたらに、貧乏に生まれついだんだべ。
こりゃなんとかして、観音さまさ頼んでしあわせになりてーもんだっ。
そごで爺さまは、毎日毎日、観音さまさ御参りに行っただ。
「観音さま観音さま、どうか、おらば幸せにしてください。」
爺さまがいつものように観音さまさ行っただっきや、立派ななりした商人風のあんさま。一
生懸命、観音さまをお参りしていだど。そごで爺さまは聞いてみた。
「あんさま、あんさま、おめ様なに頼んでおりあんしたえ？」
したらそのあんさま
「はい、はい、おらだすん木綿問屋だんども、子供あねーすけ、子供さずげでくだせーつ
て、お願いしていやんした。あださんも町さ出がげで来るごどあつたら、おら店さ寄って
くだせ」
って言って、かごさ乗って行ってしまったず。
爺さまが、観音さまさお参りして、21日目の日。奥の方から声っこ聞こえできだど。
「ここにありがだーいお札が5枚ある。これは1枚飲めば20ずつ若くなるすけ、これを飲ん
で若くなっていっぱいはだらげば、しあわせになれる」

声っこ聞こえてきたど。爺さま、ぱっど目開けてみだきや、ほんに、お札が5枚、目の前にあったど。

爺さまは早ぐわがぐなりたくて、一枚べろっと飲んだっきや、すう一つと若くなって、40ぐらいねなったど。爺さまもっとわがぐなりたくて、まだ一枚、ぺろ一つと飲んだっきや、すう一つと若くなって20ぐれのわけものねなったど。

さあ一喜んだじさま、村さ帰って来たものの、村の人だちあ、

「どごのわけものだべえ。みだごとねえわけものだ。」

って、でえも相手にしねがったど。

そごで爺さま、

「あー、ほんた。観音さまで出会ったあのあんさまの店さ行ってみるべ」

ど、思って、町さ出かけで行ったど。

したっきやいやあ〜おどろいだごとに、土蔵が7つもあるよったおっぎだしねえ一店だったど。

はあー、ここでつかってもらうべど思って中さ入って行っただも、なにしろ爺さまの着ているものあきったねえものだもんだがら、だーれも相手にしねがったど。がやがや騒いでいだら、奥の方からあの時のあんさま出はってきただ。

「あんさまあんさまあんさまでねーど。ほらほら観音さまのどごで会った爺だね」

ってへったっきや、あんさまだまーって爺さまの顔見でいだったども、

「あーあ、あの時の爺さまでねど。さあ入って、入って」

奥さ通して、いっぱいご馳走したど。

そして聞いてみだ。

「おめさま、なにしておったに若ぐなりあんしたえ？」爺さまが観音さまの出来事話したきや、

「いやーそりゃ観音様のご利益だ。おらさも一枚、そのお札をけでけねがい？」

あんさまが頼んだど。

このあんさまの世話になるがもしれねど思って、爺さまーあんさまねそのお札1枚あげだど。

そのおふだよ、ぺろ一つと飲んだきや、あんさまが24、5のわけものねなったど。したっきやそれを見ていだ、あんさまの嫁こあ、

「いやー、おら旦那様、こつたらに若くなったら、おらどつりあわねがべ。おらさも一枚けでけねがい」

って頼んど。

爺さまがこの嫁っこの世話になるがもしれねなーど思って、一枚けだど。

そのお札をぺろ一つと飲んだきや、すう一つと若くなって、17、8歳のめらすっこねなったど。

したきやそれを見ていだ、としよった番頭が、

「いやっ、おらさもそのお札よけでけねが。」

はげ頭さげで頼んだど。へだども、爺さま、一枚しかねこのお札、なんだがけるのいだわしねなーど思っ

「いやー、今晚一晚、考えさせでくたせ。」

ってへたど。

それで、奥の座敷さ泊めてもらうごとなになって、布団さ入って色々考えだ。

「いやー、このお札。1枚しかねぐなったの。人さけるのいだしねじゃ。どやしたらいいな。あつ、ほんだ。これ自分で飲んでしまえば、誰さもけなくてもいい。」

爺さまそのお札よ、べろっと飲んだど。

朝まねなつて、爺さまがながなが起きでこねへで、あんさまが爺さまを寝せでだ部屋ね行ってみだど。したら爺さまいねくて、生まれだばりのめんこい赤ん坊が、布団の中で、すやすやど寝でいだったど。それを見であんさまが、

「いやー、こりゃ観音さまがらのご利益だ。」

ってへつて、大事に、大事に育てだど。どつとはれ。



まだ、ちょっと時間がありますので、特別、おまけに。

五戸の語り「ど忘れ」

語り：佐々木和子

この頃ど忘れするようになりました。そのど忘れの話をします。

むがーしあーあつたど。

じさまどー、ばさまどーあつたずおんな。じさまー75で、ばさまー70で、まだまだ、2人とも達者だったど。めもめだし、歯も、パリパリど漬物っこよ音っこたでで食っていだったど。

あるどぎ、村の長者様が、じさまさ聞いてみだど。

「じさまーじさまー。じょんぶで何よりだなす。目も歯も大丈夫すか？」

したら、シワだらけの顔っこくちゃーとさせで、じさまが言つたど。

「はあー。目も歯もわけものには負けねす。ただこの頃ちょーつと、ど忘れするようになりやんした。」

「ほうがいほうがい。孫のなめーっこでも忘れるのすか？」

したっきゃ、そばにいだばさまが、

「いんやあー、そつたらだごとでありやせんだ。じさまなすうー、おらの布団がら出はつて行つたど思えば、今の今までやってらごとも忘れでなす、まーんだのっこのっこと入つて来るのす。この頃、すっかり忘れっぽくなりやんした。」

って、にこかごしてへつたど。

どつとはれー。

4.4 第5回南部弁の日 南部弁さみっと in 八戸 2017 参加者アンケート

次から、2017年12月2日(土)八戸ポータルミュージアム「はっち」で行われた「第5回南部弁の日」についてのアンケートの集計を示す。回答は39名よりいただいた。

表はすべて百分率で表しており、小数点第2位以下を四捨五入して計算した。

また、アンケートにある「語り1や2」は、以下の通りである。

語り 1：越膳昌子 紙芝居「権八岩のはなし」
 千葉涼子「蛇の嫁っこ」
 漁火の会 磯崎彬子「おしらさま」
 北村弘子「津波てんでんこ」
 藤原マチ子「釜石あの日あの時甚句 東中学校 鵜住居小学校編」

語り 2：久慈瑛子「火っこたもれ」
 三橋光子「親棄てなぐなった話」
 上條佳子「狐退治」
 佐々木和子「観音様の御利益」

1. 「語り 1 や 2」に関するご感想は？

楽しめた	まあ楽しめた	あまり楽しめなかった	楽しめなかった	その他	無回答
87.1	7.6	0.0	0.0	2.5	2.5

具体的には？

【回答：楽しめた】

- ・とてもおもしろかった、また見たい。(10代・女性)
- ・話が良かった。(10代・女性)
- ・釜石の津波の教訓は今後もいかしてゆく必要がある。(50代・男性)
- ・初めて聞く甚句に圧倒された。(50代・女性)
- ・南部弁にも差があった。(50代・女性)
- ・方言は良い。(50代・女性)
- ・地域による方言の違いが面白い。(60代・男性)
- ・小・中学生の部、大学生の紙芝居、田口友善さん、3名の語部すべて良かった。(60代・女性)
- ・方言で語られる話にひきこまれた。(60代・女性)
- ・津軽、南部、盛岡、釜石の語りを楽しめた。(60代・女性)
- ・津軽弁は難しい。(60代)
- ・ためになった。(60代)
- ・全員、個性があって良かった。(70代)

【回答：まあ楽しめた】

- ・今後の参考にするため聴いた。(20代・男性)
- ・昔話が楽しい。(40代・男性)

2. 「トーク 梶谷信夫・田口友善『八戸弁と盛岡弁』」に関するご感想は？

楽しめた	まあ楽しめた	あまり楽しめなかった	楽しめなかった	その他	無回答
84.6	12.8	2.5	0.0	2.5	10.2

具体的には？

【回答：楽しめた】

- ・快活なトークに引き込まれた。ハマと山、北と南でも違う南部弁は面白い。(20代男性)

- ・大変おもしろい。(40代・男性)
- ・もっと聞きたかった。(50代・女性)
- ・それぞれの違いが楽しめた。(50代・女性)
- ・一戸町出身の母が「ほんだなす～」 「～なす～」と言っていた。(50代・女性)
- ・もう少し具体的なテーマが欲しかった。(50代・女性)
- ・八戸弁の地域の違い(町内とサメ)。(60代・男性)
- ・本音のトークに笑った。(60代・女性)
- ・方言は地域毎に違いがあり、とてもおもしろい。大笑いした。(60代・女性)
- ・2大スタートーク、素晴らしい。(60代・女性)
- ・とにかく面白かった。(60代)

【回答：あまり楽しめなかった】

- ・とりとめがなかった(50代・男性)

3. プログラム全体のご感想やご要望などをお聞かせください。

【感想】

- ・良いと思います。(10代・女性)
- ・語り部はとても良かった。(50代・男性)
- ・めりはりがあつてよかった。東日本大震災のことを改めて考えた。(50代・女性)
- ・とてもいいイベント、楽しみにしている。(50代・女性)
- ・大変良かった。(60代・女性)
- ・南部サミットという名称が良い。(60代・女性)
- ・他県から岩手県に嫁に来たが、方言は本音を語る時に必要な言葉だと思う。(60代・女性)
- ・毎年楽しみにしている。(60代・女性)
- ・とても感動した。(60代)
- ・大変楽しく幸せだった。(70代)

【要望】

- ・トークだけで一本組んでも良かった。パネリストを呼んでほしい。(20代・男性)
- ・専門家の話を聞きたい。(40代・男性)
- ・これからも参加したいが、17時に来るのが大変。(50代・女性)
- ・若い人達が来場するような工夫が欲しい。(50代)
- ・方言についてちょっとした解説があってもいい。(60代・男性)
- ・単調だったため、夜の部にも歌があれば良かった。(60代・女性)
- ・南部弁がふんだんにあってもよい(60代)

4. 地域の方言について、保存・継承していく必要はありとお考えですか？

大いにあ る	ある程度ある	わからない	あまりない	まったくない	無回答
74.3	20.5	2.5	0.0	0.0	2.5

その理由は？

【回答：大いにある】

- ・たくさんの思い入れがあると思うから。(10代・女性)

- ・受け継いでゆくべき。(10代・女性)
- ・地域に根付いた文化、「宝」。(20代・男性)
- ・もっと地域の学校で授業として伝えても良いのでは。(40代・男性)
- ・地域の暮らしを映すものであり、形がないため復元が難しい。(50代・女性)
- ・方言は文化だから。(50代・女性)
- ・標準語には表せない温もり、面白味がある。(50代・女性)
- ・地域コミュニティの絆の強化や地域の誇りにつながる。(60代・男性)
- ・司会の言った「方言は営みの結晶」が心に残った。方言は保存すべき。(60代・女性)
- ・心がほっこりして安らぐ。地域性が見える文化としてつなげられれば良い。(60代・女性)
- ・ずっばどありがとうございます。(60代・女性)
- ・これからがんばって下さい。(60代)
- ・日本全体の文化に関わることで、消滅すると大きな文化的損失となるから。(60代)
- ・味があり、ことばの原点である。(60代)
- ・温かく、楽しく、心静かになる。(70代)

5. 今日の催しのことを、何で知りましたか？(複数回答可)

新聞	ラジオ	ポスター	大学 HP	はっち HP	その他	無回答
23.0	7.6	15.3	0.0	23.0	48.7	2.5

【回答：その他】

- ・登壇者からの紹介 (20代・男性)
- ・家族から聞いた (20代・女性)
- ・ちらし (50代・男性)
- ・はっちのチラシ (50代・女性)
- ・関係者から聞いて (50代・女性)
- ・知人から (60代・女性)
- ・友人 (50代・60代・70代)
- ・日程表 (60代)
- ・方言研究会HPメール (60代)

6. 最後にあなたご自身についておたずねします。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
人数	7.0	15.0	0.0	2.0	26.0	36.0	10.0	2.5	0.0
男性	14.0	14.0	0.0	14.0	14.0	28.5	0.0	14.0	0.0
女性	10.5	21.0	0.0	0.0	42.1	26.3	0.0	0.0	0.0
不明	0.0	7.0	0.0	0.0	7.0	53.0	30.7	0.0	0.0

5. 南部弁さみっと in 釜石



5. 南部弁さみっと in 釜石

2013（平成 25）年度の「第一回南部弁の日」の企画の中で、岩手県の南部弁も同じ南部弁だけど、どこまでが南部弁なんだろう？、どこで違う方言になるんだろう？、に岩手県の南部弁とは、どんなふうにいるのだろうなど、そういえば・・・という疑問が寄せられ、岩手大学の「おらほ弁で語っぺし」（事務局：岩手大学・大野眞男）と協力して、南部弁同士の交流が始まった。

今年度も12月2日（土）の八戸での第5回南部弁の日「はっちがずっぱど南部弁さみっと in 八戸 2017」に続き、2018年1月20日（土）に釜石 PIT で漁火の会 10 周年記念第4回「おらほ弁で語っぺし南部弁さみっと in 釜石」を開催した。

釜石は、東日本大震災の折には、大変な津波被害を受けた地である。そこで活動する「漁火の会」（会長：須知ナヨ氏）のみなさんとは、八戸で行っている「南部弁さみっと in 八戸」においていただいて南部弁つながりのご縁を結び、この共同事業が継続している。昨年度からは、八戸の榎谷伸夫氏・五戸の佐々木和子氏の南部弁のお二人の語り部だけでなく、「南部弁さみっと in 八戸」において語り部同士の交流が進み、津軽方言の語り部である三橋光子氏と千葉涼子氏も加わり、共に歩む語り部同士、釜石での語りに厚みが出た。特に今年度は「漁火の会」が発足して10年とあって、演者のみなさんの意気込みだけでなく、地元のみなさんのお祝いの気持ちも加わり充実した内容だった。

演目は以下のとおりである。

0. つま粥の河童

かしわみさきくんとかしわそうたくん

1. 会長挨拶

須地ナヨ会長



2. 遠野からのゲスト：菊池力松一族語り

須地ナヨ「せやみ」

安部三枝「お月お星」

菊池栄子「座敷わらす」

「ねずみ浄土」

「へっぴり嫁御」



3. おらほ弁で『桃太郎』を歌おう

菊地有美子「桃太郎さん 原詩」
本田敬子「京都弁 桃太郎さん」
千葉まき子「釜石弁 桃太郎さん」



4. 釜石の昔語り 漁火の会

菊地有美子「長え長え網っこ」
本田敬子「松の木にしばられた仏様」
千葉まき子「鬼岩」
和田京子「笛吹峠」



5. 青森からのゲストの語り

三橋光子「三枚のお札」
佐々木和子「観音様のご利益」
千葉涼子「バカ嫁コ」
梶谷伸夫「メドツの宝物」



6. 釜石の昔語り 漁火の会

磯崎彬子「逢わず沼」
藤原マチ子「母の目玉」
北村弘子「矢の浦の渡し」



7. フィナーレ

漁火の会と仲間たち「四羽のてびらっこ」



遠野の語りは、菊池力松から始まったと言っても過言ではない。その一族である須知ナヨ氏（菊池力松の末娘）・安部三枝氏（菊池力松の孫）・菊池栄子氏（菊池力松の孫）の3人に登壇し、語ってもらった。

漁火の会のメンバーである菊地有美子氏に原詩を、京都出身の本田敬子氏には京都弁の、地元釜石出身の千葉まき子氏にはおらほ弁で「桃太郎」を歌ってもらい、違いを楽しんだ。会場は拍手喝采となり、本事業の目的でもある「方言で被災地の住民を元気付け・勇気付ける」という活動となっていることが確認できた。

次から、漁火の会作成の「おらほ弁桃太郎」、および語り「鬼岩」「母の目玉」の文字化を掲載する。なお、校閲は漁火の会による。

桃太郎さん 原詩

① 桃太郎さん
桃太郎さん
お腰に
付けた
きび団子
ひとつ
私に
下さいな

② やりましょう
やりましょう
これから
鬼の征伐に
ついて行くな
やりましょう

唄 菊地有美子

③ 行きましょう
行きましょう
あなたに
ついて
どこまでも
家来になって
行きましょう

京都弁 桃太郎さん

① 桃太郎はん
桃太郎はん
お腰に
付けたはる
きび団子
おひとつ
私に
おくれやす

② あげましょう
あげましょう
これから
鬼の征伐に
ついて来はるなら
あげましょう

唄・作詞 本田敬子

③ 行きますわ
行きますわ
あんたに
ついて
どこまでも
家来になって
行きます

釜石弁 桃太郎さん

① 桃あんちゃん
桃あんちゃん
腰コさ
結っつけた
きび団子
ぺっこ
俺さも
けでけるや

② けっからよ
けっからよ
今がら
鬼コば
やっつけさ
かだって来るなら
けっからよ

唄・作詞 千葉まき子

③ んだらば
あべや
お前もあべ
お前さんさ
くっついて何処までも
子分コになって
行ぐがら

鬼 岩

【解説】

語り：千葉まき子

漁火の会がもう 10 周年ということで、私の一番の原点の「鬼岩」を話したいと思います。さっき言ったように、観光船に乗ると、皆さん、ウミネコと遊んだり、景色を見たり、とても楽しくしているんですが、大槌湾のほうまで行く便が時々あります。そうしますと、ちょっと時間がかかるので、ちょうど大槌湾のほうに、釜石方面ですが、この鬼岩があります。鬼岩を、上手ではないですが、お話しすると、船長も気を利かせて真ん前まで行っ

てくれるものですので、皆さんに喜んでもらいました。今日は「鬼岩」を聞いてください。

【語り】

むがアしむがし、三陸の箱崎半島の北さ、大沢という里があったんだとさ。

里の人だち、浜で磯ものとりたり、山畑でヒエだのそばつくったり、船で魚とりたりして、そりやもう、穏やかに暮らしていたんだと。

んだども、あるとき、山から鬼、降りてきて、魚だの作物だのみんなかつさらっていったんだと。

ほんにひでがったと。

んだども、相手、鬼だから、鬼さはむかっだら取ってかれっかと思っ、だアれも手エ出さながったんだと。

したっけ、それ、味しめた鬼、次の年もまた山から降りてきて、何だりかんだりかつさらっていったと。

大沢の人だち、ほんとに困ってしまったと。

それ、箱崎の八幡様、見るに見かねて、鬼さ意見したったずども、鬼のほうではア、なんにも聞けねふりして、返事もしねがったんだと。

その次の年は、海ア、大したしけ続きで、魚もなんぼもとれねがったども、鬼のほうではア、まだ山から降りてきて、干したタコもスルメもサケも、みんなかつさらっていったと。

さすがにオオサワの人だち、涙コためてだったと。

八幡様、それ見て、今度こそ鬼さ言っ、聞かせねばねえなと思っ、鬼のところさ行って、

「こりゃ、こりゃ、鬼よ。おめ、あんまりなことするもんでね。なんぼしゃべって聞かせたらわがるんだ。オオサワの人たち、かわいそうでねえが。もう絶対にやっちゃだめだぞ」

って言ったっけ、

「んだども、八幡様、俺ア、やめる気もねえし、やめねえ」って言ったんだと。

「ああ、んだが。んだらば、おりゃー<俺は>、おめのこと退治しねばねえ」

「なあに、八幡様。んだらば、俺と勝負すっぺしよ。俺と勝負して、八幡様が俺に勝ったらば、俺は八幡様の言うこと何でも聞くからよ」

って言ったんだと。その鬼見て、

「んだが、わがった、わがった。んだら、大沢の浜さ大っきなほら穴が2つあいだでっぺ。そごさな、向かい側の浜から大っきな石、投げ入れる力比べすっぺし」

っていうことになって、2人して大沢の浜の向けっ側さ行って、大っきな石、投げ入れっことにしたんだと。

まずは、八幡様が縦横7尺もある大きな石、よいやっさど持ち上げて、



「南無八幡、南無八幡、えいやっ」

って投げてやったど。

その石、うなりうなりして、片っぽうの穴さびったりえいどはまったど。

さあ、次はそれを見ていた鬼、このやがますねえ八幡様に負けてたまるもんだってがいっぱい大っきなシューリゲアッコ<シューリ貝>のついた石、よいやっさどと持ち上げて、

「鬼門金神（きもんこんしん）、鬼門金神、放れ〜」

って投げてやったれば、その石もまだ、うなりうなり飛んでって、もう片方の穴さ入っかなと思ったれば、その手前のほうで、どったらえいと落ちてしまったど。



八幡様は自慢のひげ、八の字になでで大した喜んだども、鬼のほうでは、うんと悔しがって、その自分の角つかまえて、頭ふりふり、気が狂ったようになってしまったんだど。

そして、自分の腹、切り裂いて、その石めがけてびちゃっと投げて、山さ帰ってしまったど。

それからというものは、二度とその鬼は大沢さ降りてきて悪さをするとはねぐなったんだど。

その大っきなほら穴ど、大っきな石とはらわたどうなったかっていうと、今でも大槌湾のほうさ入っていけば、大っきな洞穴の中さ大っきな石が2つ入って、その上のほうさベターッとくっついたはらわたの跡、黒くなって残ってるんだどさ。

それがらというもの、そのあたりの人たちは、八幡様のことをうんと大事にして、ほこらに祀ってお参りするようになったんだどさ。

どんとはれ。

母の目玉（まなぐたま）

藤原マチ子

むがァし、むがし、あったずもなむす。

あつとごに、ほに、ほに仲いい夫婦まあり、あったずもなむす。

どつつァ行ぐったって、町さ行ぐったっていっと、何かせぐったっていっと。

わらすご<童子>そァ、ながったずあ「ががえエ」「どどえエ」って

こりやまだ、仲あむつますくほにいいあんべえにすまげえすてだったあど。

ところあ、あるどき、そのががさま、とべんこ風邪引いたがと思っていでば、すっかどこぜらがすてしまって、べえらど死んでしまったずもうな。

そうして、とどァ、すっかり力、落ってしまって、何すんにも手につがねえば、さんがだぎのまんまも食ったもんだが、かんねもんだか、湯水も飲んだもんだが、えぞうォ、ねえでばり、日おぐっていだったど。

あるゆんまのことだったあど。

とどあはあ、何、起きてだって何わがるはんで、小早くまんま食ってから、寝べえど、まんま食うまねしていれば、ドンドン、ドンドンと表の板戸をはたく音ァしたど。

いやまず、どこのだんだ<誰だ>あべまずど思って、行って板戸を引いてみでば、見だ

あごともねえ、美しい若エあねっこあ、戸の口さ立ってだったど。



「あらやえ、おめさま、ここいらやあたりでは見なれねえ姉コだが。どこのだんだべます」
ってそってえば、

「おらァ、けえど迷ってしまつて、何とも灯もなく難儀してだが、今夜、ひとばんげくひと晩泊めでけどござい」

ってそってえば、とどァ、

「ねえさ、ねえさ、でねエます。でねエます。俺あががに死なれたばかりで、泊めたがらつて、何のかせのませもせもでねえば、寝せるきかぶりもねえば、何とめられるはんでえ」
ってそつたど。

そしてば、

「おらァ、何にもいらねます。そんだらば、軒はでもいいがら泊めでけどござい」
ってやれで、軒はでつてやれれば、泊めねわけにいがね。

「そんだら、中さばりもへえつて泊まっていげ」
って、泊めだあど。

そうして、さあ、次の朝マになって、とどあ目、覺まして
えば、でいどこのほうから、カタコト、トント、カタコト、
トントと音あしたど。

いやまず、きていだな。がが死んでからずもの、こんな音
あしたごどねえがまずと思つて、そっこり行つて、すきまコ
のぞいで見だど。

そうすてば、ゆんべ泊めた姉コァ、流しき立つかすぎし
てだったど。

「ゆうべはァ、ありがとござんした。泊めてもらつたお礼といつてはなんだども、朝飯
の支度させてもらつたが、あがつてけどござい」
つたど。

とどもほれ、このとごろ、ろぐなもの食つてなかつたもん
だから、そんならばつてごつとおになつたど。

まあ、まんまのうんめえごと、おづけくお汁のうんめえ
ごと、おかげさまで食つたど。

そうして、そこいらでまあつてがら、

あの姉コもはァ、今ごろどこさが出はつていったべえぜと思つて、戻つてみでえばくみ
たれば、今度ァ、夕飯のまんまの支度してだったど。

そうして、次の日も、また次の日も、かすぎすんだど。



そうして、出はって行くなりなく、とうとう居づいてしまったずもうな。

その姉コも、どこさ行くずあでもなかったふうだし、とどもはア、ががに死なれて寂しくていたったべし、そんならば一緒になっぺすって、夫婦まありになったど。

そして、仲よく暮らしていれば、わらすこア、できだど。

日に日に腹コ、見えできて、大きくなっていったど。

そうすてとどさしゃべったど。

「おまえさまさ、頼みごとあんますが、わらすく童>なすく産む>時期あ来たが、なぞな小屋でもええからわらす産す小屋っこっせえでけどござい」

わらす産すからって小屋こせえでけろとはきていなこと言うががだなと思ったども、めごいががの言うことだものと思って、こっせえでけだど。

それからしばらく日たって、

「おめさん、おら、何だが腹あんべおがし。産気づいたようだがら、小屋さ入るから、おら、小屋から出はってくるまで、なぞなことあったって、絶対にまがって見ねえでけろ。七日ばりたったらば、わらすど一緒に出はってくるから、なぞなごどあっても見ねえでけろよ。固い固い約束だますよ」

って小屋さ入ったど。

さあ、とども1日、2日のこどあこれえだど。

そんだども、3日、4日とたつてええ、何ともががのことはあつこどになって、とうとう小屋のめえく前>さ行っただど。

そうして、今ごろアなすたべが、腹痛がつてだべえが、せづながつてえだべえが、苦しがつてだべえがと思えば、ひとまなぐでもいいが見てえと思ってしまったずもな。

そうしたら、いいあんべのぺっこが、すきまコあつたど。

よし、ひとまなぐと思つてのぞいでみたど。

とどあ「ああ」と声が出そうになったのを口をおさえて小屋あはねさつたど。

さあ、てえへんだ。おれのがが、へびだったべが。

なぞにしたらいいべ、なぞにしたらいいべ。

小屋の中にあ、大きな見たこともねえようなへびがまぐだまって、真ん中さめごいわらす寝せて、くびたあもざげで愛おしそうにあやしてだつたど。

ああ、なぞにすべ、なぞにしたらいがべつて考えだど。

なにになにおれせえ、見ねえふり、知らねえふりしてればいい、なんのことはねえって、がが、出てくるのを待つてだど。

そうしてば、ほに7日ばりたつてば、がが、小屋から出はってきたど。

髪もちゃんと結つて、元のががの姿になって、着物コも着て、そして、ふとごさはめごい男わらす抱いで出はってきたど。

「おまえさま、あんなに見ねえでけろ、見ねえでけろって願つたが。見られてしまった。俺ア、ほんのどこあ、この山のずっと奥に沼あんが、その沼



さいだったへびなんだ。おめさんが毎日、日にち、ががええ、ががええってねえで<泣いて>暮らしてるのを見る見るに、すっかりおめさんのこと好きになってしまって、何とかががさまになりたくて、山の神様さ無理くり願って、人間の姿にしてもらったます。そして、夫婦になって、わらすまで出て、このわらすどいつまアでも一緒に暮らしたがったども、おれはア、正体わかられたあに、山さ帰っから、このわらす、何とか一人前におがしてけろ」

って、どどさそのわらす、渡したど。

そうすてば、とどア、

「見んな、見んなってやれで見た俺が悪かった。何とか行がねえでけろじゃ。こんな乳飲み子、置かれだつて、おれア、何ともおがせね。せめて、このわらすあまんま食えるようになるまでいでけろ」

ってねえで<泣いて>頼んだど。

そうすてば、がが、

「ほんだらば、このわらすのために、おらの右のまなぐたま置いていくから、このわらすあねえだらば<泣いたらば>、これ預けてさずらせてけろ」

って、爪立てて、まなぐたま抜いて、とどさ渡したど。

そうすて後も振り返らねえで、大きなへびの姿になって、ズルズルど山あたって行ってしまったど。

さあ、わらす置がれたとどあ、わらすあ泣けば、そのまなぐたまあずけ、わらすア泣けばあずけしたど。

そうせば、そのわらすも泣き止むもんだつたど。

そんでも、毎日、日にちたつてええ、そのまなぐたまも、とうとうしなびて、なくなったどむす。

そうしてば、わらすあ、まなぐたま欲しがって、泣ぐが、泣ぐが、なんぼほうろつても、何ぼおぶつても、ゆすつても、あやしても、ねえでねえで<泣いて泣いて>はあ、気ぢげえのように泣いでわがんながつたど、とどあはア、さっぱりほうでなぐなつて、わらす、背中さそう<背負う>ど、山あたって行つたど。

そして、沼のほとりさ立って、叫んだど。

「ががえーい、つらコ見せでけろー。坊太郎連れてきた、つらコ見せでけろー」

って叫んだれば、遠くのほうから波あザワザワと近づいてきて、とどの前エさ、片目の大きなへびが、くびたを出したど。

「おまえさん、何しさ来たあます」

ってそつたど。

「これあ、坊太郎あ、ねえでねえで<泣いて泣いて>、とても俺ではもだねえ。なぞにしたらいいが、教えてけろざ」

そうしてば、そのわらす、見でだったずア、

「ほんだら、もう片方のまなぐたま、このわらすのためにや



っから、これをさずらせてけろ。これあなぐなるころにあ、このわらすもはア、まんま食うようになっから」

って、片方残ってたまなぐたま抜き取って、とどさ渡したど。

そして、「ああ、おれは何にもめ（見）えねえ。わらすのつらこもめ（見）えね。明るうも暗いもわがんね。すっかりザトウ＜座頭＞のへビになってしまった。おめさん、頼みごとあんが。この山のふもとさ、鐘つき堂つくって、鐘はだいで＜叩いて＞、明け方6つ、暮れ方6つ、時を鳴らして教えてけどござい」。

ったど。とどもはア、なんたらむぞいががだと思つて、

「おう、おう、わがった、わがった」

って山を降りたど。

そうすて、めえにち（毎日）、日にち、明け方6つ、暮れ方6つの鐘、叩いて、ががさ時、教えでだったどむす。

そうすて、そのわらすも、坊太郎ずわらすもおがっていつて。

十ぐらえになってえば、

「おとう、おらのおっかあ、どこにいんだ、どこにいんだ」

って聞くようになったずもうな。

そんだども、おめえのおっかあは、山の奥の沼にいる、まなぐの見えねえへビだぞって何としてもおせえ＜教え＞かねでいだったど。

そして、「おめえのおっかあは、おめあ小せえときに死んでしまったぞ」ってぼんがふいだく嘘をついたど。

そせば、死んだと思つてそのわらすもしばらくはよかつたずア、まだ、

「おとう、おらのおっかあ、どこかにいんだべ。どこにいんだおせえで＜教えて＞けろ。人あ死ねば墓ずものあんが、おっかあの墓ア、どこにもねえ。おっかあ、どこにいんだ、どこにいんだ」

って、とどせがめでわがんながったど。

とどもはア、すっかり観念して、

「ほんだらな、おどうの言うことを聞げよ。坊太郎、おめえのおっかあはな、この山のずっと奥に沼ああんが、その沼さいる大きなまなぐの見えねえへビだぞ」
っておせえだく教えたど。

そうしてば、そのわらすア、聞いてだったずア、たまげるごどもなぐ、

「おとう、おら、おっかア、迎げエさ行つて連れてくんが、連れてきてもいいが」

ったど。

そうすてば、とど、

「おお、行つて連れてこオ。おめえさえよがったら連れてこオ」

って言われて、そのわらすア、山たつて行つた、行つた。

わらすの足だもの、何時間かかったもんだか、なんぼかかったもんだが、まあ、馳せて、転んでは起き、起きては馳せ、転び、
そんでもどうにが、おっかあに会いてえ一心で、沼のほとりまでとうとうたどり着いたど。

そうして、叫んだど。

体いっぱい声出して、叫んだど。



「おっかあー、おらのおっかあー、坊太郎来たぞー、おっかあ」

って叫んだど。

そうしてば、遠くのほうから、波あザワザワザワと近づいてきて、そのわらすの前エさ、まなぐの見えねエヘビア、くびたあ出したど。

それを見っと、そのわらすア、

「ああ、おらのおっかあだ」

とそのくびたく首>さ飛びついて、ねえだく泣いた>ど。

「おらのおっかあだ、おらのおっかあだ」

って、ぎっちり離れねいで泣いだど。

そうしてば、そのわらすの右のまなぐたま<目玉>から落ちためつつる<涙>あ、へびの左のまなぐ<目>さ入ったど。

そのわらすの左のまなぐがら出ためつつる<涙>あ、へびの右のまなぐ<目>さ入ったど。

そうすてえば、そのまなぐ、ビガッと開いだと思つてば、人間の姿になって、やさしいおっかあになってだったあどむす。

「ああ、おらのおっかあだ」

「坊太郎」

って、わらすの喜びたら、なんぼがそのわらすもおもっせがったもんだが、

「おっかあ、家さ帰っぺしな」

って、手こぎっちりと握って、山ア降りていったど。

そして、親子まあり3人、いづまアでも仲良く暮らしたんだど。

親を慕う子の気持ちの強さと、また、それに勝る子を思う親の気持ちの強さ、この力には何の力もかなわねがったんだど。

どんとはれ。



6. 方言資料研究

6. 方言資料研究

青森県の方言を記録した資料として、各地の図書館や公民館などに所蔵されている動画作品や、書籍、講演録など、さまざまなものが存在する。しかし、これまで、そういった資料は、実態把握ができないままになっていた。

例えば、各地の昔話を収録したものや、地域紹介のビデオなど、ビデオテープとして保存されているものは、再生する機材も限られており、活用できない資料になりつつある。

そのため、県立図書館や社会教育センターに所蔵されている動画資料について、方言が収録されているかどうかの確認を行ない、リスト化することにした。

その際、方言そのものを題材としているものだけではなく、住民のインタビューの応答が方言で行なわれているものや、語形・文法などは共通語化の特徴を示していても、韻律的特徴が津軽・南部・下北の各方言のものなど、さまざまな様態のものを確認している。なお、この作業には、八戸工業大学基礎教育研究センター岩崎真梨子先生・八戸工業大学感性デザイン学部感性デザイン学科夏坂光男氏の協力を得た。映像の確認は、弘前学院大学で行なった。

以下に、青森県総合社会教育センターおよび県立図書館蔵の動画資料について、方言の使用が認められたものについて掲載する。

資料名	制作年	内容	タイトル	話者	形式	方言
青森県の昔っこ 59年版第1集 天にかえったおよめさん他	1984	語り	天にかえったおよめさん	女性	語り	津軽
			しっぽづり—津軽の昔話—	男性	語り	津軽
			うしかだやまうば—南部の昔話—	男女	語り	南部
			かにのおんがえし—南部の昔話—	男性	語り	南部
青森県の昔っこ 60年版第2集 しがまの嫁っこ他	1985	語り 演劇	しがまのよめっこ	男性	アニメ	津軽
			うりひめことあまんじゃく	男女	人形劇 アニメ	津軽
			あなほり長兵衛	男性	アニメ	津軽
			うばすて山	男性	アニメ	津軽
			つるのおんがえし	男女	人形劇 アニメ	津軽
			だんごが牛になって、牛がだんごになった話	男性	紙芝居	南部
			おぼさりてえ タンコロリン	男女	アニメ	南部
			月へいったうさぎ	男性	アニメ	南部
むかしっこ青森県の昔っこ	1984	語り	天にかえったおよめさん	男女	イラスト	津軽
			しっぽづり—津軽の昔話—	男性	人形劇 イラスト	津軽
			うしかだやまうば—南部の昔話—	男女	人形劇 イラスト	南部
			かにのおんがえし—南部の昔話—	男性	イラスト	南部

第1集ひとり立ち			こぞっこだだか—津軽の昔話—	女性	アテレコ	津軽
			ばけもの寺のはなし—津軽の昔話—	男女	ペープサート	津軽
			キンキラキンのキン—津軽の昔話—	男性	イラスト	津軽
			むすめのなみだ—南部の昔話—	男女	イラスト	南部
むかしっこ青森県の 昔っこ 第2集ふれあい	1985	芸能 演劇	しがまのよめっこ	不明	紙芝居	津軽
			うりひめことあまんじゃく	不明	人形劇 紙芝居	津軽
			あなほり長兵衛	不明	紙芝居	津軽
			うばすて山	不明	紙芝居	津軽
			つるのおんがえし	不明	人形劇	津軽
			だんごが牛になって、牛がだんごになった話	不明	紙芝居	南部
			おぼさりてえ タンコロリン	不明	切り絵 紙芝居	南部
			月へいったうさぎ	不明	紙芝居	南部
むかしっこ青森県の 昔っこ 第3集ともに生きる	1986	演劇	なんげえはなしこ	男性	アニメ	津軽
			地獄からもどされた男たち	男性	演劇	津軽
			なにがおっかねえ	男性	アニメ	津軽
			ねずみの一番のり	不明	不明	津軽
			かぶの穴の酒	男性	イラスト	南部
			ジェンコがモックになったはなし	男性	イラスト	津軽
			へっぴりよめっこ	男女	ペープサート	南部
			さんこぎつね	男女	イラスト	津軽
鰯ヶ沢のむがしこ	2016	語り	さんこぎつね	女性	語り	津軽
			光信公の鬼退治	男性	語り	津軽
			鬼神太夫	男性	語り	津軽
			おたからガメ	女性	語り	津軽
			亡者船	男性	語り	津軽
			光信公一代記	男性	語り	津軽
鰯ヶ沢のむがしこ1	1993	語り	さんこぎつね	男性	紙芝居	津軽
鰯ヶ沢のむがしこ2	1994	語り	光信公の鬼退治	男女	紙芝居	津軽
鰯ヶ沢のむがしこ3	1995	語り	鬼神太夫	男性	切り絵 演劇	津軽
鰯ヶ沢のむがしこ4	1996	語り	光信公一代記	男性	紙芝居	津軽
鰯ヶ沢のむがしこ5	不明	語り	おたからガメ	男性	紙芝居	津軽
鰯ヶ沢のむがしこ6	2002	語り	亡者船	男性	紙芝居	津軽
—津軽弁の詩— 或るめぐらの話	1992	語り	或るめぐらの話	女性	朗読	津軽

昔あったどシリーズ 今別町編	1997	語り	貞伝上人物語	男女	人形劇	津軽
			今別の鬼穴(今別町)	男女	人形劇	津軽
			東津軽郡ふるさとの話コ 昔あったど	男女	人形劇	津軽
			昔あったど	男女	人形劇	津軽
			昔あったど:大開城と平木之助	男女	人形劇	
昔あったどシリーズ 蟹田町編	1997	語り	蟹田のカニ	男性	紙芝居	津軽
			桂淵の大蛇	男性	紙芝居	津軽
			袋風	男性	紙芝居	津軽
			姥ヶ沢の狐	男性	紙芝居	津軽
			海を渡った権四郎	男性	紙芝居	津軽
昔あったどシリーズ 平館村編	1997	語り	弥四郎杉	男性	紙芝居	津軽
			不老不死の湯っこ	男性	紙芝居	津軽
			おとせ松	男女	紙芝居	津軽
			異国人上陸	男女	紙芝居	津軽
			日時上人と兄弟梨	男女	紙芝居	津軽
昔あったどシリーズ 平内町編	1997	語り	椿山物語	男女	紙芝居	津軽
			アネコ坂	男女	紙芝居	津軽
			河童の詫証文	男女	紙芝居	津軽
			狼の恩返し	男女	紙芝居	津軽
			平内のおぼしな様	男女	紙芝居	津軽
昔あったどシリーズ 三厩村編	1997	語り	三厩の義経伝説	男女	紙芝居	津軽
			かんべえなし(勤兵衛梨)	男女	紙芝居	津軽
			義経寺の秘伝	男女	紙芝居	津軽
			守鉄沢の流れ小屋	女性	紙芝居	津軽
			龍飛の龍神さま	男性	紙芝居	津軽
昔あったどシリーズ 蓬田村編	1997	語り	広瀬川のカッパ	男女	紙芝居	津軽
			金光上人と阿弥陀川	男女	影絵	津軽
			鯨御殿	男女	影絵	津軽
			せんじゅ小太郎物語	男女	影絵	津軽
			玉松台の狐と貉	男女	影絵	津軽
昔あったど 60年版第1集	1985	語り	蟹田のガニ(蟹田町)	男女	イラスト	津軽
			広瀬川のカッパ(蓬田村)	男女	イラスト	津軽
			椿山物語(平内町)	男女	イラスト	津軽
			弥四郎杉(平館村)	男女	イラスト	津軽
			貞伝上人物語(今別町)	男女	人形劇	津軽
			三厩の義経伝説(三厩村)	男性	イラスト	津軽

昔あったど 61年版第2集 —東津軽郡・ふるさ との話—	1986	語り	金光上人と阿弥陀川	男性	紙芝居	津軽
			アネコ坂	男女	紙芝居	津軽
			勘兵衛梨	男女	紙芝居	津軽
			不老不死の湯っコ	男性	紙芝居	津軽
			今別の鬼穴	男性	紙芝居	津軽
			桂淵の大蛇	男女	紙芝居	津軽
昔あったど 62年版第3集	1987	語り	義経寺の秘伝	男女	切り絵演劇	津軽
			今別の舍利石	男性	人形劇	津軽
			河童の詫証文	男女	イラスト演劇	津軽
			袋風	男女	イラスト演劇	津軽
			鯨御殿	男女	影絵演劇	津軽
			おとせの松	男女	イラスト演劇	津軽
第11回むつ 下北地区子ども会 郷土芸能発表会	1996	芸能	権現舞	男女	歌と踊り	下北
			風間浦音頭・越後甚句	男女	歌と踊り	下北
			小沢神楽	男女	歌と踊り	下北
			もちつき踊り	男女	歌と踊り	下北
			津軽海峡海鳴り太鼓「漁り火太鼓・豊漁戻り 船」	男女	歌と踊り	下北
			歌舞伎「義経千本桜」～義経・静・別れの間～	男女	歌と踊り	下北
			赤川のむかしっこ	男女	語り	下北
			どどいつ	男女	歌と踊り	下北
			権現舞	男女	歌と踊り	下北
津軽民謡手踊り集	2003	芸能	津軽じょんから節(旧節)	男性	民謡	津軽
			津軽じょんから節(中節)	女性	民謡	津軽
			津軽あいや節	男性	民謡	津軽
			津軽よされ節	男性	民謡	津軽
			津軽小原節(旧節)	女性	民謡	津軽
			津軽三下り	男性	民謡	津軽
			どだればち(津軽甚句)	男性	民謡	津軽
			津軽の手踊りについて	男性	民謡	津軽
南部・津軽民謡 手踊り集	2003	芸能	南部あいや節	男性	民謡	南部
			南部甚句	男性	民謡	南部
			南部俵積み唄	男性	民謡	南部
			津軽よされ節	男性	民謡	津軽
			津軽あいや節	男性	民謡	津軽
			りんご節	女性	民謡	津軽
			黒石よされ	男性	民謡	津軽
			南部の手踊りについて	女性	民謡	

南部・津軽民謡 手踊り集	2003	芸能	津軽の手踊りについて	男性	民謡	
津軽弁の日 爆笑 傑作選DVD津軽弁 の味に笑味期限 なし。さ、笑るべし！	2012	語り	第7回 津軽弁の日(1994)傑作選	男性	語り	津軽
			第8回 津軽弁の日(1995)傑作選	男性	語り	津軽
			第9回 津軽弁の日(1996)傑作選	男性	語り	津軽
			第11回 津軽弁の日(1998)傑作選	男性	語り	津軽

※アニメはアニメーションのこと

資料名	制作年	内容	タイトル	話者	地域	方言
市町村探訪岩木町	1985	インタビュー	岩木町の歴史・岩木山について	女性	旧岩木町	津軽
			岩木町の農業・りんご (スターキングの出来)	男女	旧岩木町	津軽
			岩木山神社について	男女	旧岩木町	津軽
市町村探訪岩崎村	1986	インタビュー	岩崎村木材工芸センターの説明	不明	旧岩崎村	津軽
			岩崎村商工会の説明	男性	旧岩崎村	津軽
			村おこしについて	男性	旧岩崎村	津軽
市町村探訪大畑町	1985	インタビュー	奥入瀬溪流の魚などの料理の説明	男性	旧大畑町	下北
			大畑町の方針	男性	旧大畑町	
市町村探訪大鰐町	1986	インタビュー	温泉からのお風呂の水について	男性	大鰐町	津軽
			スキー場について	男性	大鰐町	津軽
市町村探訪 風間浦村	1990	インタビュー	大石神社について	男性	風間浦村	下北
市町村探訪上北町	1989	インタビュー	上北町の観光開発(蜷とり・温泉)	男性	旧上北町	
			農業と後継者	男性	旧上北町	
			将来の上北町	男性	旧上北町	
市町村探訪川内町	1987	インタビュー・ 解説	森林資源ヒバについての解説	男性	旧川内町	下北
			川内町の紹介	男性	旧川内町	下北
市町村探訪倉石村	1990	インタビュー	馬の飼育に関するインタビュー	男性	旧倉石村	南部
			名産品(よもぎ茶)について	不明	旧倉石村	南部
			りんごジュース作りについて	男性	旧倉石村	南部
			南部駒踊りというよさこいについて	男性	旧倉石村	南部
			竹馬競争について	不明	旧倉石村	南部
			温泉採掘について	男性	旧倉石村	南部
			村長へのインタビュー	男性	旧倉石村	
市町村探訪五戸町	1987	インタビュー	小学校のマーチングバンドに関する インタビュー	女性	五戸町	南部
			五戸町の町づくり	男性	五戸町	南部
市町村探訪佐井村	1986	インタビュー	三戸製紙製材所について	男性	佐井村	
			佐井村の紹介	男性	佐井村	

市町村探訪三戸町	1987	インタビュー	二月の「まける日」の歴史・思い	男性	三戸町	
			三戸町のスポーツ事情について	不明	三戸町	南部
			歴史・今後の町づくりについて	男性	三戸町	
市町村探訪七戸町	1987	インタビュー	新幹線の延伸について	男性	七戸町	南部
市町村探訪下田町	1988	インタビュー	白鳥について	男性	旧下田町	
			マンドリンクラブの存在の大きさについて	不明	旧下田町	下北
			鮭の漁獲量について	男性	旧下田町	
市町村探訪車力村	1986	インタビュー	車力村の歴史	男性	旧車力村	津軽
			農業(長芋・大根作り)について	男性	旧車力村 旧木造町	津軽
			車力村の歴史集出荷予備施設・漁港について	男性	旧車力村	津軽
市町村探訪新郷村	1989	インタビュー 解説	キリストの墓についての解説	男性	新郷村	南部
			大石神ピラミッドについての解説	男性	新郷村	南部
			酪農についての解説	男性	新郷村	南部
			考える農業堆肥供給センター についての解説	男性	新郷村	南部
			間木ノ平グリーンパークについてのインタビュー・新郷村の将来について解説	男性	新郷村	南部
市町村探訪相馬村	1986	インタビュー	村の歴史について	男性	旧相馬村	
			りんごについて	男性	旧相馬村	
			村づくり・あずまい村を作るために	男性	旧相馬村	
市町村探訪田子町	1986	インタビュー	田子町について	女性	田子町	
			田子町のにんにくについて	男性	田子町	
			にんにくとべごまつりについて	男性	田子町	
			田子町の今後の村づくりについて	男性	田子町	
市町村探訪東北町	1985	インタビュー	酪農について	男性	東北町	
			長いもについて	男性	東北町	
			東北町の紹介	男性	東北町	
市町村探訪 十和田湖町	1986	解説	町の歴史	女性	旧十和田 湖町	津軽
			十和田湖のわかさぎ釣りとの歴史	女性	旧十和田 湖町	津軽
			奥入瀬溪流・十和田の観光と和牛 について	男性	旧十和田 湖町	津軽
市町村探訪 十和田市	1989	観光地紹介	スポーツミニコミ誌を作った理由	男性	十和田市	
			将来的な十和田市	男性	十和田市	

市町村探訪名川町	1985	インタビュー	「グリーンツーリズム」について	男性	旧名川町	南部
			サクランボについて	男性	旧名川町	南部
市町村探訪南郷村	1986	インタビュー	葉たばこの栽培	男性	旧南郷村	南部
			ダム建設による生活の変化(移住など)	男性	旧南郷村	南部
			南郷村の現状と将来について	男性	旧南郷村	南部
市町村探訪南部町	1989	インタビュー	南部氏について	男性	南部町	南部
			南部町営卸売市場について	男性	南部町	南部
			阿房宮(ほし菊)について	男性	南部町	南部
			南部町をどういうふうにしていきたいか	男性	南部町	南部
市町村探訪 野辺地町	1989	インタビュー	野辺地町について	女性	野辺地町	
			野辺地駅について	男性	野辺地町	
			野辺地漁港について	男性	野辺地町	
			野辺地中学校・高校のスキー部について	男性	野辺地町	
			野辺地町の自然について	男性	野辺地町	
市町村探訪階上町	1986	インタビュー	栽培漁業センターの「育てる漁業」について	男性	階上町	
			いちご煮の作り方について	女性	階上町	南部
			人材育成・今後の町づくりについて	男性	階上町	
市町村探訪八戸市	1988	インタビュー	八戸港で魚の水揚げについてインタビュー	男性	八戸市	南部
			朝市についてインタビュー	男性	八戸市	地域 不明
市町村探訪平内町	1985	インタビュー 町の紹介	町民のインタビュー	男性	平内町	津軽
			町長へのインタビュー(ほたての養殖)	男性	平内町	津軽
市町村探訪三厩村	1985	インタビュー	三厩村のこんぶについて	男性	旧三厩村	
			三厩村の紹介	男性	旧三厩村	
市町村探訪むつ市	1988	インタビュー	田名部まつりについての説明	男性	田名部	下北
市町村探訪横浜町	1986	インタビュー	明神牧場について	男性	横浜町	下北
			農水商クラブについて	男性	横浜町	下北
			これからのまちづくりについて	男性	横浜町	下北
市町村探訪六戸町	1987	解説	六戸の歴史の解説	不明	六戸町	南部
			工場の誘致・寺の幽霊画	男性	六戸町	南部
			古牧温泉・館野公園	男性	古牧館野	南部
市町村探訪 六ヶ所村	1990	インタビュー 解説	縄文遺跡についての解説	男性	六ヶ所村	下北
			酪農についてのインタビュー	男性	六ヶ所村	下北
			特産品についてのインタビュー	男性	六ヶ所村	下北
			特産品のインタビュー	男性	六ヶ所村	下北
			六ヶ所村の紹介	男性	六ヶ所村	下北

市町村探訪 脇野沢村	1986	インタビュー	脇野沢村について	女性	旧脇野沢村	
			脇野沢村における鱈について	女性 男性	旧脇野沢村	
			郷土芸能の神楽や獅子舞について	女性	旧脇野沢村	下北
			脇野沢村の今後の村づくりについて	男性	旧脇野沢村	下北
ふるさとのテレビ 社会科1各地のくらし	1968	解説	天間林村について解説	女性	旧天間林村	
ふるさとのテレビ 社会科1わたしたちの市や町や村	1968	解説	五所川原市について	男性	五所川原市	
ふるさとのテレビ 社会科4 津軽の気候とくらし	1968	村の紹介	津軽のきこうとくらし	男性	旧市浦村	
ふるさとのテレビ 社会科24青森県の気候とくらし	1968	解説	青森県全体の気候について (先生と生徒の会話)	男性	青森県	
ふるさとのテレビ 社会科26 下北の気候とくらし	1968	解説	下北の気候について (先生と生徒の会話)	男性	下北半島	
ふるさとのテレビ 社会科27 県南の気候とくらし	1968	解説	県南の気候について	男性	青森県南	
津軽と南部 ～祭り編～	1999	解説	津軽と南部の祭りについて	男性	田子町・東通村・八戸市・むつ市・青森市・弘前市・五所川原市	
津軽と南部 ～風土編～	2000	解説	青森県の風土・「あかいくし」	男性	青森県	津軽
シリーズ 青森再発見 藩境の町・野辺地	1992	紹介	野辺地町について	女性	野辺地町	

シリーズ 青森再発見 南部藩発祥の地とさくらんぼの里	1992	紹介	三戸町について	女性	三戸町	
			さくらんぼについて	女性	三戸町・旧名川町	
			法光寺の歴史・名物の解説	男性	旧名川町	南部
南部氏 八百年の歴史 私たちのまちと 南部氏	1997	紹介	歴史的にどのような関係があるのか	男性	山梨県南部町	
			町文化財(史跡)正寿寺館跡について	男性	青森県南部町	南部
			久遠寺・郷土芸能(願人・鹿子踊り・さんさ踊り)について	男性	山梨県身延町	
			根城の広場・重要無形民族文化財について	男性	八戸市	南部
			三戸町について	男性	三戸町	
			遠野市の状況・市場の発達・まちづくりについて	男性	岩手県遠野市	
			盛岡城跡について	男性	岩手県盛岡市	
津軽弁バンザイ 中弘南黒地方 視聴覚ライブラリー	1991	ことわざ 川柳 インタビュー	不明	男女	不明	
			南部の人に「津軽弁の印象は？」	男女	不明	南部
			津軽弁の解説	男性	不明	
			観光客を対象にした津軽弁講座	男性	金木町	
			津軽弁のことわざ・カルタ・詩	男性	弘前市	津軽
			津軽弁川柳大会	男女	不明	津軽

※方言の欄については共通語的特徴の強いものを空欄とした

あとがき

方言で被災地のみなさんを元気付け・勇気付けることをするために、方言研究者には、地域の学生にはどんなことができるのだろうか？研究者には研究しかできない。その限界を見極めつつ、そこから一歩飛び出して、研究を研究者だけでなく、地域の皆さんを一方の主役として行うことはできないかと考えるようになった。そのひとつの答えとして、地域のみなさんの期待を受けた方言イベント「南部弁の日」を行い、今年度で5回を迎えた。自分たちの方言に誇りを持ち、子や孫の世代に語って聞かせる姿が、方言を昆虫採集のように単語を収集し、並べて満足するのではなく、使えることばとして継承していくことにつながっていくことを願ってはじめてこのイベントに、語り部を目指す地域住民、中学生も出演してくれている。そして、それを支える親の世代の皆さんも会場に足を運んでくれる。

この会をきっかけとして、語り部同士の友好関係が築かれ、楽しみながら活動を広げている絆ができつつある。釜石だけでなく、今年は盛岡弁の田口友善さんにおいていただくなど、南部弁の皆さんとの交流をはじめ、茨城での語りの会への参加、学校教育の現場への出張などと多方面にわたる。

また、自分たちの普段使っていることば・共通語と方言に向き合い、さらに自分の方言とは異なる方言に出会うことで自分を知り、異なる文化ひいては相手を尊重することを学んでいくことにつなげたいと願った国語科の研究授業では、まさに、子供たちが楽しんでことばを受け止め、何気なく話している自分のことばを通してことばの大切さを実感していく様子を、地域が異なっても同じように目の当たりにすることができた。「方言は違いがあって面倒くさいから、なくせばいいんじゃない？」という授業者の問いに「だめ」と大きく首を振る児童の様子は、教師を目指し、授業に参加していた学生達にも大きな衝撃を与えた。児童のみなさんの感想は、この仕事に携わった者の宝として採録させていただいた。忙しい中で準備を整えてくださった、庭田瑞穂先生、湊小学校の先生方には、心から感謝申し上げます。

2015年度に立ち上げた青森県の語り部ネットワークは、順調に参加者を増やしている。今年度は県外の活動団体調査も開始し、他県の団体との情報交換が始まり、研修会への参加もみられた。また、会員の皆様からの熱烈な要望に応え、今年度は上野善道先生をお招きすることができた。方言撲滅・矯正という厳しい条件にあった東北弁・自分たちのことばが、ことばとしての規則性を持ち、それがどのような価値あるものなのかを知るという体験をすることができた。参加者は一様に驚き、また、学ぶことの喜びを感じていた。また、次世代に繋いでいくための試みとして、八戸工業大学4年生の日比俊介さんが、音声学の研究成果を応用して語るいわば電子紙芝居として、「一休さん」を製作してくれた。これからの語り部のあり方として、多くの意見が寄せられた。

こうした社会教育としての方言教育として、もっと広く一般に開かれたものを目指し、2014年度から、「方言でつながる」を目標に、津軽弁・南部弁（青森県）だけでなく、岩手県の南部弁も含め活動してきた。被災地釜石の町は新しい建物が建ち、昨年からは会場も釜石PITという小ホールになり、隣に釜石市民ホールの大きな建物も完成され、復興に向けて進みつつある。漁火の会は、今年、10周年を迎え、本当に喜ばしい。これからも共に歩いていく仲間としてエールを送りたい。

先祖から受け継いだ大切なものであり、自分たちの生きた証としての方言を、どうやった

に残せるのか、力を貸してほしいと、直接お聞きしたことが何度かある。また、方言ラジオ体操のように、全国的な広がりを持ち、方言が人々を元気にしている様子を見ると、研究者としてなすべきことのひとつに、今、方言をきちんと記すことと、その方言を使えるものとして次の世代に受け継ぐ工夫の両方が必要だと深く感じる。

また、これまでの方言研究者による研究成果だけでなく、地域に残されている方言資料活用のための調査と保存は、記録媒体の劣化との競争である。これについても急がれる。

これまでの5年間の活動を通して、少しだけ私たちの取り組みが認められたのではないかと考えることについて、昨年度は8月26日に発表された国語ワーキンググループによる「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」を報告したが、2017年3月に次期学習指導要領が発表になった。以下にその解説から引用する。

【平成29年中学校学習指導要領解説】

第1節 第1学年の内容

1 [知識及び技能]

(3)わが国の言語文化に関する事項

(3)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができることができるよう指導する。

ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。

小学校第5学年及び第6学年の[知識及び技能]の(3)ウの「共通語と方言との違いを理解すること。」を受けて、共通語と方言のそれぞれが果たす役割について理解することを示している。

共通語は地域を越えて通じる言葉であり、方言はある地域に限って使用される言葉である。共通語は適切に使うことで、異なる地域の人々が互いに伝えたいことを理解することができる。一方、方言は、生まれ育った地域の風土や文化とともに歴史的、社会的な伝統に根ざした言葉であり、その価値を見直し、保存・継承に取り組んでいる地域もある。

例えば、東日本大震災による被災地域においても、方言を使うことで被災者の心が癒されるなどした事例が報告されるとともに、方言の保存・継承の取組そのものが地域コミュニティの再生に寄与するなど、地域の復興に方言の力を活用する取組も進められている。

こうした方言が担っている役割を、その表現の豊かさなど地域による言葉の多様性の面から十分理解し、方言を尊重する気持ちをもちながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて適切に使い分けられるようにすることが大切である。

文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387018_2.pdf

最後に、心からの信頼の下、常にお力を貸してくださった皆様方、さらに耐震補強工事の中で努力してくれた学生にも心から感謝申し上げる。今後も被災地のみなさんと共に歩めることを誇りとして、精進していきたい。

弘前学院大学 文学部 今村 かほる

方言継承へ意見交換

青森で
会合
今村教授(弘大)講話も

方言による読み聞かせなどを行っている団体や個人が集う「発信！方言の魅力 かだるびゃ・かだるべし青森県」の方言2017が18日、青森市の県総合社会教育センターで行われた。会合を通じ参加者が情報交換し、交

流を深めた。

文化庁の2017年度被災地における方言の活性化支援事業で、今年で3年目。弘前学院大学文学部の今村かほる教授が講話し、方言を伝える意義や県内の保存・継承活動などを説明した。



それぞれが活動を発表した語り部情報交換会

各団体の代表者らは方言による語りや観光ガイド、メディアでの活動など取り組みを紹介。「方言はみんなを一つにするもの」「子どもたちが使わないところに強い危機感がある」などと意見を交わした。
(柴田賢)

方言紙芝居を披露する日比俊介さん



方言の魅力 継承へ意欲

弘学大が
イベント 活動報告、紙芝居も



弘前学院大(弘前市、吉岡利忠学長)は18日、南部、津軽地方の方言をテーマにした「発信！方言の魅力」かたるびゃ・かたるべし青森県の方言2017」を青森市で開いた。読み聞かせや演劇活動についての情報交換や、方言を使った紙芝居披露などを通して盛り上がった。

イベントは、東日本大震災をきっかけに、被災や避難によって消滅の恐れがある方言の保存と継承が目的。文化庁の支援を受け、毎年実施している。

この日は、方言に関心を
持つ学生や市民ら約30人が参加。語り部の活動内容を報告し合ったほか、上野善道東京大名誉教授が「言葉の神秘と青森のアクセント」と題して講演した。

体験講座では、八戸工業大感性デザイン学科4年の日比俊介さんが、南部弁を使った方言紙芝居「一休さんがしな(それはおかしい)」などと、訛りを利かせて読み上げた。

紙芝居を見たベテランの語り部らは「語りはもっとゆっくり」「イントネーションに一貫性を持たせて」などとアドバイスしていた。

(稲村安利)

平成 29（2017）年度 文化庁 被災地における方言の活性化支援事業

発信！方言の魅力

^か_だ語るびゃ・^か_だ語るべし青森県の方言 2017 報告書

平成 30（2018）年 2 月 20 日 印刷

2 月 23 日 発行

編集・発行：弘前学院大学 文学部 今村かほる

印刷：有限会社ササヌマ産業

〒036-8577 弘前市稔町 13-1 弘前学院大学 TEL 0172-34-5211（代）